

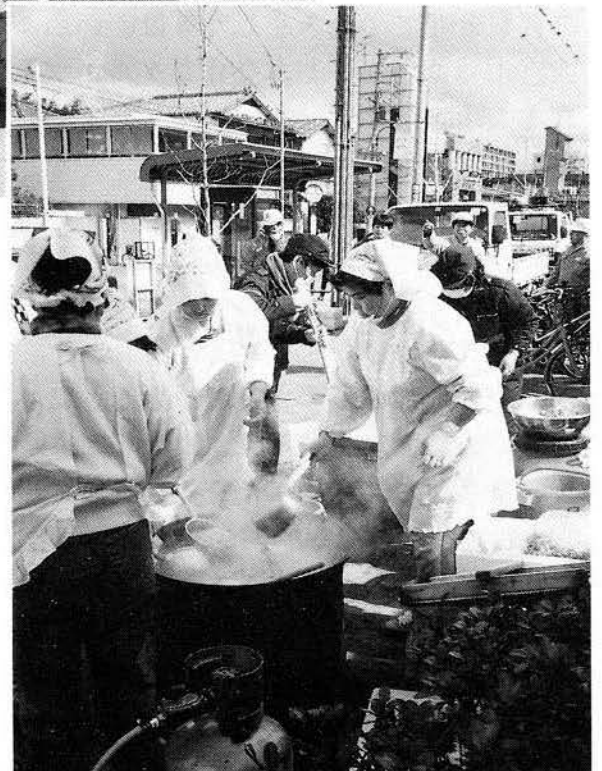
# 3

## 各支部アンケートより

阪神・淡路大震災は、日頃地震とは縁がないと考えていた私たちに大変なショックを与えました。まだまだ続く余震の恐怖、そして交通手段の寸断などなど。

そのとき私たちはどう考え、どう行動すべきだったのか。何が必要だったのか。

職員支部をはじめ各支部・婦人部のアンケート結果は、その疑問に一定の答えを出してくれています。



## I 全国の自治体労働者のみなさんへ (大震災の体験)

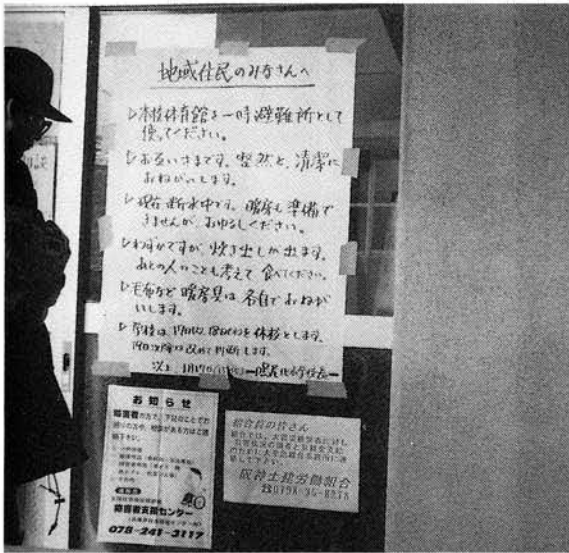
- 全国の自治体の仲間が力をかしてくれたことがとても印象的で今後西宮も手伝う必要あるなと思いました。
- 役所の人事全般のシステムが、こういった危機管理や急な事象や事件に対して、適切な判断力や指導力をもった人材を、いかに育ててこなかったかということに改めて痛感しました。(それは自分自身を含めてです)  
回りを見ているあの修羅場で、本当に適切な公務員としての動きをした人は、いわゆるこの西宮市では色々な、非公式なグループからはずれて人事評価からは遠い人だったように思います。(例外もあります)  
一段落して、見渡してみても、何かがっかりしたというか——。やはり自治体職員としては、今回の事態での対応について全国に、胸をはれるものではなかったことがくやまれます。応援できてくれた都職労の方々のやさしさに心から感謝しています。
- 公務員として、私的事情を投げうって職務につきましたが、こんなときにその人の人間性がはっきりと表れることをまざまざと見せつけられました。  
同じ仲間として、やはり恥ずかしくない行動をとりたいたいものです。  
しかし、今回人間のもつすばらしさも随所でみ

てきました。良いことだけ心にとめなければと思っています。

遠い地方から、職場を休んで応援にかけつけてくれた人、でもその職場本当にその人が抜けて大丈夫かしら、みんなの了解のもとにやって来られたのかしらとよけいな心配をしたりしましたが……。

ボランティアの受け入れについて、全国的な方向が出されると思いますが、せっかくの好意を十二分に生かせるようになりたいです。

- 埼玉県志木市、枚方市、四條畷市など他市職労が事情も十分わからないのに、懸命に被災証明業務などに従事し、苦情を聞いていた。これら応援職労に対し食事などで恥しい対応であったと思う。市責任者から十分感謝の気持が述べられるべきである。
- 情報網、交通網がマヒする中で、組織として動けない時、個人が丸裸にされたと思う。個人のもつ力量、情報量や判断力がはっきり出た。日常から自治体業務全般にわたって、どれほどの情報をもっているのかを試されたようで、反省することしきりだけれど、やはり組織として上からきちんと指示が出されることが大切だろうと思う。
- 全国から駆けつけてくれた自治体職員の応援が本当にありがたかった。吹きっさらしの中市民



に黙々と頭を下げて対応する他市職員に対し、この人たちを矢面に立たせてしまう本市の対応が情けなかった。

○直接保育所へトラックで荷物を持って来てくださった川崎市職労(?)の方、その他色々心配してくださった全国の自治体の皆さんうれしかったです。又、西宮でも出来る事があれば、次に何かあれば動けるようにしたいですね。

○いろいろな都道府県の方の励まし、ボランティアに心をうたれたことが多いです。ありがとうございました。と伝えて下さい。

○他市からありがたい救援を頂きました。当市もいつも搬出できるように常備しておく物(食品、水、衣類、毛布、医療品 etc) リストアップし、保管し古くなれば再常備し直すという形を作ることが望まれます。又、どこに何をどれ位おくるかという数値もつかんでおくことが大切と思います。

○災害業務の手伝いに行った時に、全国からの応援の職員が沢山来て下さったのにはとても感謝しました。

ボランティアもあちこちからかけつけてきて下さり、地震で失ったものは数多くありますが、心暖かい思いやりに胸を熱くする事が多くありました。

保育所に於ても、地域の人達が子ども達の為に水くみをすすんで下さったり、困った事はないかとたえず声かけをして下さったり、職員同士も、お風呂に入れてもらったり、美味しい弁当を毎日のように届けて下さったり、ある食

品で、子ども達の為に毎日工夫をこらした食事作りをして下さったり、とても大変だったけれども、私は1人ではない皆に支えられているのだと、今回程思った事はありません。

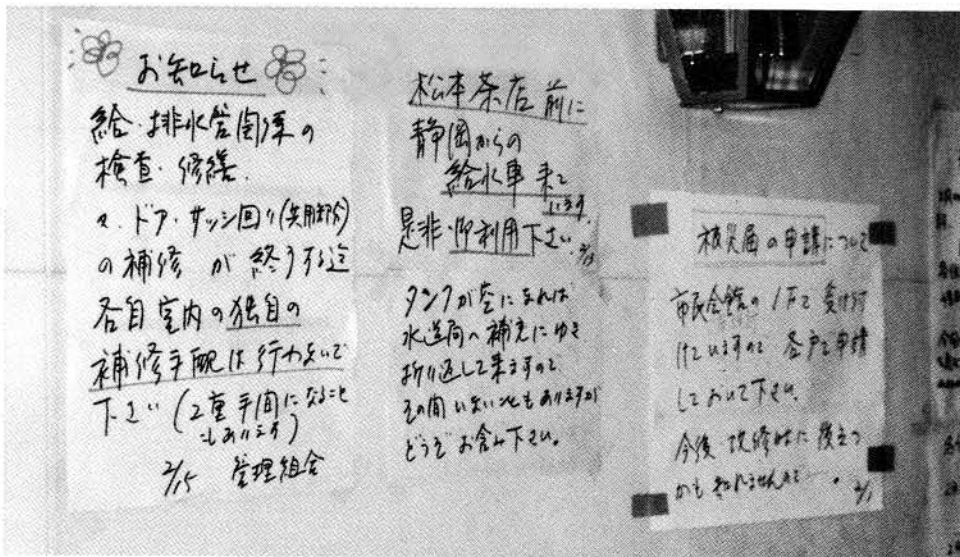
○思いがけない震災にあってしまったが、家族や職場関係でも生命云々についてはなくありがたかった。自治体や知人のいる職場関係からいろいろなお見舞いをしていただいたが本当にありがたかった。寸断され凸凹になった道を必死で自転車で出勤する途上「〇〇県〇〇〇」と救援物資をつんだトラックに出会ったりすると涙がでそうになった。サハリンやギリシャそして日本でも地震のニュースが絶えないのは、地球全体が風邪をひく前にくしゃみしているようにも思える。心配、でもくじけずがんばるしかない。そしてもし他で災害がおこれば絶対恩返ししたい。

○ボランティアの方から、たくさんの救援物資をいただき本当にうれしかった。

○当時は皆、助け合いの気持ちではげましあったが、落ちついてくると弱者はいつまでも弱者である。老人、母子家庭に仮設は当たっても、その先の援助がまだまだ行政として必要である。

○交通がマヒし、通勤不可能になった中、垂水から西宮まで片道2時間かけて自転車で職場に来てくれた人に、心から頭が下がった。

○こんな時ほど、人のありがたみも痛いほど分かるが、人間のすさんだ心もよく表れる。すべての人が被災者なのに自分だけが被災者のようにわめく人、あるいは“こんな時にありが



とう”と言ってくれる人、人それぞれの隠れた部分がのぞいたように思う。

○他市の応援、ボランティアの応援はありがたかった。

今後もこのような事態があれば、当局労働組合のワクをはずして応援すべきである。

サハリンの震災もひどい被害状況である。組合としても義援金を募集し送るべきである。

○無条件で今回の震災では、数多くのボランティアの人々にお世話になりました。

特に多くの若い人達のかけねなしの頑張りには頭が下がります。

ボランティアの力なしでは、何人の職員が倒れていたかわかりません。

本当にありがとうございました。

○はっきり言って各避難所の動力となっていた人は、地元の若い人々又、ボランティアさんたちだ。

それぞれが自分の役割と能力に応じて完璧に仕事をこなしていた。また、活気と明るさがあり、一人一人が一生懸命だった。役所もこうあればなあ、とつくづく考えさせられた。

○今回の復興には日時が必要で5～10年かかる息の長いとりくみと考えます。

今後とも相互協力をお願いしたいと思います。

○市民の対応の最前線に他県・市の職員があたり、西宮市の職員が後方事務につく部所が身受けられた。

このことについて他県・市職員にお詫びを申し上げたいし、西宮市職員として恥ずかしかった。

○一時も早く眼の前で家屋の下敷きになっている人を助けることが先決で、近くにいあわせた者が力をあわせて動いているにもかかわらず、側を通る警察員は素人がするとあぶないと言うだけで、手助けのひとつもせずにいることへの腹立たしさが残っている。

○震災直後しばらくの間学校も休みであったり、午前中のみ、午後のみと言う状態、我家の高校生も友だちと一緒にこのあいている時間、まわりの状況を見て何かしたい何かしなければいけないと言い市の人事課にTELしたものの「ボランティアの登録は沢山でもういらぬ」との返事がかえってきたとがっかりしていました。目の前の登録された数と実際個々の現場の人手不足と言うくいちがいを感じた。事務的な答えをするのでなく、例えば避難所の位置を知らせ直接本人達が出かけられるような方法をとるとか、いくらでも実質的な指示体制がとれるのではないかと、机上の人事課の対応のおそまつさを感じた。

○誰しもこのような大震災は初めてでそのあとの諸々の対応にとまどいがあったことはたしかであると思うものの、家屋解体受付、被災者届、被災者証明の発行と次々と市民をとりまいて、手続きに足をはこばなければいけないことが多かった今回、初日より3日後、1週間後と体制的に落ちついてはいくのですが、とにかく、もう少し誰が全体を把握し誰がどの部分をきっちり担当していくのかがなされていないことが市民として列の間にいる時に見えすぎるくらい



見えすぎ対応のまずさとしてあらわれ、いらいだち平常でない一人一人の市民の神経をさかんでしている場面が多く見られた。

○何がなんだかかわからず、「地震」というだけを感じ、家族の安否を確認し、1カ所に集まり、余震の終るのを待つ。屋外に、出ると、自宅では感じなかった、惨事があちこちに。何をどうしようとうろウロしているうちに、近所で生き埋め。子供を手伝いに行かせる。家の片付けを進めているうちに、子供は友達の家への安否の確認に。なかなか帰って来ない息子が、あおい顔でもどって来た。「〇〇が」の一言で、その子の様子がわかり、私もかけつけると、ご家族の言葉では言い表わせない姿。

○私の家は全壊でした。とはいってもなんとか建物は立っています。しかし、住めるような状態ではないので隣の物置きにヒナンしました。今もヒナン生活です。当日は家族の無事を確めたあとすぐ近くの親せきの所へ行くと、なんと家はペシャンコ！大声で名前をさけびながら家に道具をとりに戻って救助作業。近くの方々と協力してなんとか3人を助け出したものの、おばあさんは亡くなりました。職場の連絡どころではありません。お昼になってやっと職員宅にTelを入れ、しばらくの間は出キンできそうにないと伝えました。寝たきりの母をなんとか病院又は施設に入れるよう手配をしたり、家の前を通る人々に危険がないようがれきの寄せ集め、物置を整理してとりあえず寝れるようにする。それから住めるようにする。こわれかけた家の

始末、生きる希望を失った父を一人にして家においておくことができず、出キンを断念しました。

職場からは「家は立ってるじゃないの！毎日何しているの？整理？私達公務員なんだから出キンしないといけないのよ！」と言われました。もちろんその意志はあります。困っている人々の助けになりたい！でも今の私の状態ではそれどころではありません。自分と家族のことで精一杯です。「仕事をやめよう」と決心に近いものがありました。組合の方に相談に行くと、今の仕事を大事にしてください。とりあえず落ち着くまで休んだらいい、特別休カ、有給休カ（欠キンという手段ももしかしたらある）とにかく、やめないでつないでおいた方がいいよ、それからは又考えましょう。とアドバイスをくださりました。

最終的には退職ということをおきながらも、職場は休ませていただきました。徐々に父も落ち着いて自営の仕事のことも考えるようになりました。私も出キンを考え仕事に復帰することができました。役所に応援がほしいという話には進んで行かせてほしいと行って出向しました。保育所は子どもの登所が少なく、十分職員はいるのですから毎日でも忙しい職場に応援に行っただけの仕事がしたかったです。被災している人々に直接対応できるボランティアでもいいと思いました。仕事のできるありがたさを本当にかみしめたものです。そして組合の方の対応にも感謝しています。組合に入っていて本当によかった



と思います。ありがとうございました。

PS. 守らなければならない家族が被災していなければ公務員として大いに働きたいと思っています。それが非常に残念でしかたがありません。

○当初、地震は自然災害と思っていた市民も、日がたつにつれ、市が自分の家を壊したのだという発言をする。人災だというのではなく、「市が壊した、だから弁償しろ」という論理である。市民はこのような災害時に行政以外にもっていくところがない。こういう時のために高い税金を払っているのだ、だから市の職員は死ぬまでやるのが当然だろうと。自治体の職員も自ら被災者である。しかし市の職員として、家が壊れ、家族が死にそれでも頑張っている。世間で血も涙もないのかと思ってしまう。感情の高ぶる市民に暴力をふるわれても問題にもならない。過労で職員が倒れてもあたりまえ。それどころか、自治体労働者は失業しないからとねたまれる、市民の気持ちもわからないこともないだけに、職員は行場のないストレスでどうしようもなくなっている。

○復興に5年はかかると思います。その間要領よく仕事をする人と、もろに仕事量をかぶる人が出てくると思います。せめて、みんなで仕事をこなしていこうという雰囲気になってほしいものです。部長クラスは無責任に要領よく生きる人が多い。

○K主事は、上司がもう少し温ければ、地震さえなければ公務員を辞めなくてすんだのに……。

○他の災害でも同じことが言えるかもしれませんが、今回の大震災を体験し、結局のところ、低所得者層に被害が集中したと思っています。テレビやタンスのある部屋で就寝せざるを得ない実態が、この西宮で1,000人を超える犠牲者を出すことになったと考えます。大げさに思われるかも知れませんが、今回の地震では西宮市の2階建文化アパートの大半が倒壊（あるいは半壊）したのではないかと考えています。

今後の災害に強いまちづくりを考える場合、こうした市民も安心して暮すことのできる西宮の住宅政策を確立する必要があると思っています。

○地震後すぐに出勤すべきだが、廻りのガレキに埋まってる人をほってはいけなかった。

○村山総理の初動体制の悪さ

○非常時に市長の陣頭指揮のもと、いかなる対応にも迅速にできる特訓も日頃から繰返し行う必要があると考える。

○普段、うち（支所）は、戸籍の届出の件数もそう多くはないのだけれど、地震直後の数日間で、普段のひと月分の死亡届が出された。

満池谷や周辺都市の火葬場が使えず、火葬のめどもたたないままに、ひたすら埋火葬許可証を書いていた。あの時の重苦しい気持ち。なかでも仁川百合野町の土砂崩れで亡くなった家族の届が出た時はやりきれない思いがあった。捜索活動がままならないせいか。まさしく「掘り出された順」に届が出、今日は息子、次の日は孫の分と届書を持ってくるおじいさんの姿に涙が出そうだった。「気を落とすな」とも言えず、



ただ「がんばって下さい……」というしかなかった。

- とにかく阪神間の自治体は非常時における想定マニュアル等が甘い。年に1回ぐらいは消防でも、自衛隊でもいいから合同防災訓練しておくべきだと思う。東北の方では自衛隊と合同防災訓練を行って、一定の成果をあげているところもあるそうだから。
- 17、18日に遺体を焼くことができなく途方にくれている市民に、火葬場のあてを遺族の責任でしなければならぬことを窓口で伝えるとき、役所の無力さを実感しました。
- 市民・職員・自衛隊に関係なく個人の人間性が出た。人がピンチになるとどういう態度にでるか（よくもわるくも）よくわかった。
- 震災で家族を失された方が、いろいろな手続きについて来られた時に十分に説明できず、内容を知らないということで追求され、とてもつらかった。  
事務量がかなり増え、職員も少ないので、ボランティアの方々に手伝っていただいたのでとても感謝しています。  
「西宮に住んでいたかったけれど……」と仕方なく市外に移られる方々が言われました。「安全な防災を貫く街づくり」は市外に移られた方々が西宮に安心して戻って来ることができるように本当に大切なことだと思います。
- 震災直後は、生活に大変な思いをしましたが、人間の本来の姿というか、その人がどうな人かということが、こんな状況のときによく分かつ

た。

- 余震もある中で、子供を自宅に残しての勤務は、少々不安でした。
- 何事も被害は想定するものとは違います。我々は自分達の身を守る以上に、市民をも守らなければなりません。  
常日頃より市民に対して、充分納得できる情報を提供し、区画整理はどの自治体でも行うべきである。何かあってからでは遅すぎると思います。
- ずい分遠いことのように思えますが、自分の住んでいる街は、少しずつ復興にむけて働いているが、他市をみたことがないが、人づてに手のつけられていない所がまだ多いとか早くなんとかならないだろうかとよく思う。
- 震源は地下10kmと云っても所詮は地球規模で云えば、地球表面上での事、しかも、砂粒位の場所である。従って、常に明日は我が身と思うべし。
- 市役所は不況に強いが、災害に弱い「滅私奉公」をいやというほどさせられました。全国の自治体労働者にお伝え下さい。
- 5ヶ月たった今でも、道路や建物など、まだまだ復旧工事がなかなかはかどらないように思う。体育館やテントぐらしの人もいて、なんとか良い方法はもっとないのかなあと思う。
- 情報収集を担当し、テレビ、新聞などマスコミが被災者に与える影響がいかに大きなものがあるか、改めて認識しました。極端な言い方をすれば、マスコミが被災者の心理や行動を誘導し



ているかのような錯覚に陥る場合もありました。当初の、生き埋め救出、ガスもれなどの連絡は例外としても、義援金、仮設住宅、倒壊家屋処理などは、明らかにマスコミがリードしていたように思います。

○職場が出先であった為本庁にいるような、震災に関する生々しい体験でないが、震災後月日が経過していく時に、家屋の被災調査に行く機会があり、始めて市民の生活の場に入り話を聞いていく中で人間の心の中迄震災の影響を受けているのがはっきり分かりました。

○「ライフラインの途絶」という言葉は従来から耳にしていたのですが、今回の震災で目の前にしました。

電気が私の地区では1時間程度で復旧してくれたのが、まだしも幸いであったと思います。でも、ガス、水道は長期間の途絶となりました。今後、最悪の場合、電気も途絶することは十分考えられる訳ですから、やはり、代替措置といえますか、バックアップ体制がどうしても必要です。

○マスコミの取材について、確かに各マスコミにとっては、広報課などの広報担当部門からの情報よりも、現場ともいえるべき、各担当部署からの取材の方が生々しいものであることには間違いのないものと思います。

しかし、その取材のために、救助活動がその分遅れてしまう場合があることをマスコミの側も十分わきまえてほしい。現場まで取材に来てくれる場合は状況が分かることもありままだしで

すが、電話取材にはほとんど弱りました。（関東方面からの何くわぬ声での電話取材には、今思い出しても腹が立つ！）

○今回ほど「家庭」、「家族の絆」の大切さを感じたことはなかった。経験したことがないのであまり良い例えではないが、震災以降、約1ヵ月間の出勤は、まさに戦場に出かける気分であった。もし、家族の支えがなかったら、今頃はストレスの固まりになっていたであろうと思う。

○西宮大橋が通行不可能なため、香櫨園浜を通路にするという形をとって自然が破壊されていくのかと思うと悲しかった。

○災害一般に言えることかも知れませんが、今回の震災をふりかえってみて、やはり弱者（この場合、経済的にも社会的にも該当すると思いますが）に被害が集中することを実感しました。テレビと一緒に、あるいはタンスと一緒に寝ざるをえない住宅実態、自力ではどうしようもない高齢者世帯など、社会のひずみが災害時には極端に表面化することを実感しました。

○今回の震災で自衛隊が随分株を上げたようですが……。

火葬場がしばらく復旧せず、他市に運ぼうにも搬送手段が確保できず困っていたところ自衛隊のヘリで京都の火葬場へ搬送してもらえという話が、県から持ち込まれたのでこれで少しずつでも火葬できると喜んでいました。ところが、いざ遺族に話を持っていってみると希望者が思いの外少なかったのです。遺族が同行できないということが理由だったのかもしれない。晩



になって窓口になっていた県に人数を報告したところ“そんな少ない数では困る。割当て分確保してもらわなければ”と相当なけんまく、結局真夜中に再度安置所を回って人数を確保することに……。要請して自衛隊に動いて頂くのに希望者が少ないとあっては、顔が（誰の？ 県の？ 国の？）つぶれるということで翌日からはそのために専任のチームを作って足りない人手を

とられることになってしまいました。もちろんへりで火葬場に行った方は感謝しているでしょうし、その他にも今回の災害において自衛隊が一定の役割を果たしたことは否定しませんが、自衛隊自身が今回の活動も“本来の業務”との認識に立っていない以上、それをもって自衛隊の存在を是認するのはいかにも短絡だと云わざるを得ません。

## Ⅱ. 震災対策の問題と課題

### ○避難所担当職員に情報が全然はまらない

避難所に交替で現在でも当直にしているが、一貫して言えることは避難所に当直にしている職員に情報が全然入っていない。避難所にいるボランティアの方とか避難者からその情報が逆に入る。

例 食事の配給方法で避難所以外の人には何日か配布しないようになる、障害者だけになる。仮設の募集時期、方法等々  
全然知らされずに避難所当直に行く。

### ○災害時の体制など聞いたことなかった。

平時から水防などを含めて災害時の体制について聞いたこともなかった。うかつなことに何らかの指示があるかと考えて初動にまったく出遅れた。市外にいて職場と連絡が取れず、本庁に出るべきか、自分の職場に出るべきかも迷った。震災後も防災マニュアルについて何も聞かない。市民が多く訪れる窓口業務であるので不安を感じる。

### ○担当避難所をコロコロ変えては避難者との信頼関係も育たない。

主に避難所の業務にあたったが、あちこちの避難所に細切れに顔を出しても、指揮系統がさっぱりわからず、いかにも役立たずの配置であった。情報がわからず毎朝の新聞を熟読して市民に対応するぐらいのもので、広報紙等に記載された電話番号にかけてもつながらない。どうすればよいのかの苦情に困った。職場からやたら遠い避難所の担当になって、交通手段の確保もできず40分かかって走っていくなど不合理なことが多かった。

避難所業務について、特定の避難所を責任をもって担当する中で、市民との人間関係がきちんとできていれば、統廃合問題についてももう少しスムーズに対応できたのではないかと。担当場所がころころと変わり思いつきかひやかしかと受け取られかねない避難所まわりもあり、行政不信を招いていると思う。



○避難所管理の一元化を

避難所の管理が、市民局と教委の2系統のための混乱があった。1つにまとめるべきである。

○防災の支所部の任務は？

各班の任務は？

避難所を持つ支所・サービスセンターと持たない所との違いは？

○避難所の責任者を明確に

避難所に連絡したいとき、責任者・副責任者（または担当者）が誰かはっきりせずこまった。可能であれば、一覧表にして前もって配布するなどしてはどうか。

○避難所では、ほとんどの災害対策の情報が求められる。各担当相互の情報交換ルートの確立を避難所に視点を置いた場合、そこは、災害対策のほとんどの情報が必要な場所でもある。それにもかかわらず、当初ほとんど情報が入らなかった点は大いに反省すべきである。（食糧・物資情報をはじめ対策本部各部署の対策、情報を集めるためには、何よりも、横の、相互の情報交換が実現しなければならない。）

○避難所開設の際、無人化施設でアクシデント。地元団体との連携を。

避難所開設にあたり、市内の公共施設を全部開放することであったが、無人化になっている施設では、色々とアクシデントがありました。事前開放の対処ができない突発的な災害に備え、普段からなじみのある団体にはキーを渡しておいても問題は生じないと思います。

○避難所運営では、あらかじめ手順を決めておく

こと

避難所での運営をスムーズに行うためには、校長、教員、市職員そして、ボランティアの仕事をあらかじめ決めておけばよいと思う。

○避難所での交替がなく、「倒れそうだ」と言うと、「倒れたらええ」と返事があった。

避難所の交替要因が来ないので、何回要請してもこないで、「倒れそうだ」といったら「倒れたらええねん」といった管理職が教育委員会総務にいた。

○長期にわたる災害救助の場合、日常の仕事もからみ、支障が生じてくる。

その点で、市民課を食糧供給部に加えておくのは問題であり、全面的な実働部隊にはなり得ないと思う。

こうした点は、何も市民課に限ったものではなく、他の部局でも当然に生じる問題であり、今回、十分に見直してもらいたいと思う。

○貯水槽の早期設置を

貯水槽（飲料用）が西宮の場合、1基だけ（西宮東高校）の配備であったと聞く。

あの地震が夏場であればなおさらのこと、急いで学校、公園等に設置していくべきであると思う。

○トップは避難所での極限状態をどれだけ知っていたのか。もっと現場に裁量を。

最も初期の段階で、避難所への食糧が多分に不足していたので、（2000人収容）自己炊飯を呼びかけ、ボランティアさんも多数つり、いつでもできる用意をしていたが、本部へ問い合わせ



せたところ（横山局長あえて名指しさせてもらう。）は、各避難所で炊飯することを許可しなかった、のみならず400食しか届いていない分を500食運んだと主張してきかないし、現場の意見を全くきこうとしない姿勢があった。もちろん、本部にいたら現場の極限状態を知るのは不可能であろうが、耳を傾ける姿勢が上には必要なのではないか。

その他、各避難所においても炊飯を計画していたところが多数あり、そのことをことごとく否定し、一般市民を飢餓状態へおいやった当局の責任は重大である。

もっと現場が動的なコマンドで動くことができないうのか、本部にはできない遊撃プレーが今回大きな役割を果たしたことを考えて欲しい。

○生活物資・食糧・医薬品の配送は1本化されるべきでは。

今回、救援物資の一時集積を生活物資、食糧品、医薬品とそれぞれ担当部局ごとに分けて行なった。しかし、被災者からすればセットで配送される方が好ましいはずであり、配送を1本化で行えるような体制をつくるべきであると思う。

○「ゆうパック」の洪水はありがたさを通りこす。無料取扱は考えものです。

毎日送られてきた「ゆうパック」は、まさに洪水でした。これは、無料扱いであったことと、（他の宅急便でも同様な措置がありましたが）テレビ、マスコミによるところが大きいと思います。しかし、本音をいわせてもらうと、「ありがたさ」を通りこして、「しんどさ」が残り

ました。搬入、仕分け、配送の手間は、思いたくもないくらいです。無料取扱いは考えものです。

○救援物資の受け入れ体制も前もって考えておくこと。

救援物資、支援物資が全国各地からあれほどたくさん届けられるとは、誰もが予想していなかったと思う。それだけに、今後は、念頭においてそれらの受け入れ体制も考えておくことが必要である。

○義援金を県が集約する限り、救援物資も集約すべきである。

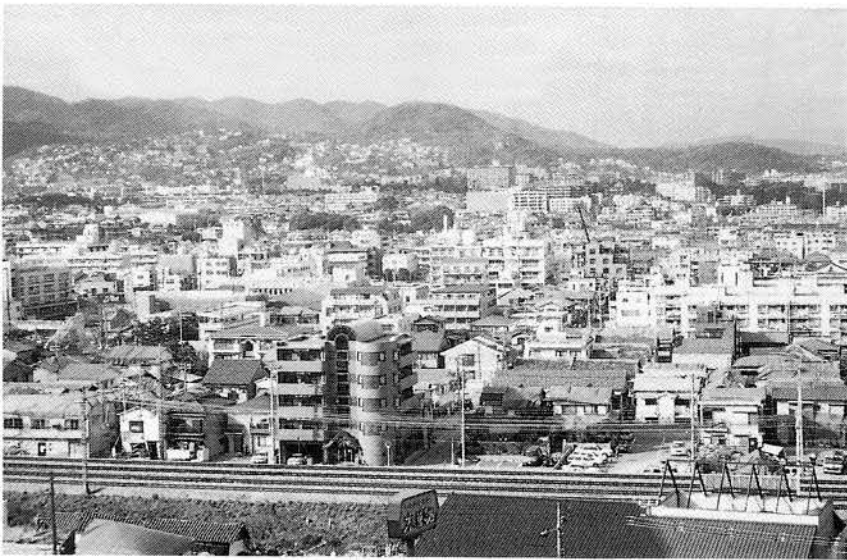
担当ではないが、各市に届けられた義援金は、県に集約されたと聞いている。それならば、救援物資についてもいったん県が受領し、仕分けのうえ、各市・町に配るのも一案と思う。市・町単位ではアンバランスが生じるうえに、人手が足りない。

○救援物資・食糧の搬入・仕分け・配送は、当初から専門業者に委託してもかまわないのでは

救援物資、食糧の搬入、仕分け、配送を当初、市職員、ボランティア、自衛隊の手によって行なわれましたが、こうした作業について、専門業者に委託する方が好ましいのではないのでしょうか。

○救援物資の深夜搬入はこたえた。

救援物資の件で、届いたものは受けとるしかないのですが、せめて届ける時間も制限し、深夜



は避けるといったことが、全国的に行き届かないものでしょうか。

- 品質劣化を考えれば、ポリタンク、ペットボトルの水も水道局が一元管理した方が好ましいのでは。

飲料水のうち、タンク給水車は水道局、ポリタンク・ペットボトルは食糧部が担当しましたが、中には品質上の問題が生じるような場合もありました。

あの地震が夏季であれば問題がもっと表面化したと思います。やはり、水道局で水については一元管理してもらった方が良いと思います。

- 物資・食糧の集積場所は前もって決めておき、災害規模に応じた要員配置を。

西宮の地域防災計画では、物資・食糧の配給は避難所で行うとなっているとのことですが、当然、集積所、配送センターとなるべき施設（できれば市内を東・西・南・北に分ける程度の）を明記し、そこに必要な資材（例えば、フォークリフト、パレットなど）の手配方法、災害規模に応じた必要人員の確保方法などを記述しておくべきであると思います。

- 避難所以外の被災者への食糧・物資配給は、地域団体の協力を得ること。

避難所以外の被災者への食糧、物資配給方法ももっともっと改善されるべきである。パニックをおこさないためにも、地域住民団体の積極的な協力を得るようにしてはどうか。

- 救援物資の集積場所変更さえ連絡不十分であった。

救援物資の搬入と配布については、未経験であったこともあり、（昭和42年7月災害以降なかったはず）第1次集積場所の変更連絡さえ、十分伝達できなかった。

- 技術職員までかり出した深夜の救援物資の搬入は改善を。

深夜や早朝に救援物資や食糧が届くことも多くあった。この時間帯の職員が少なかったこともあってか、技術職員まで何回も搬入にかり出された。もう少し改善が必要である。（それでなくても、当時技術職員は、昼間の救出・捜索業務でくたくたであった。）

- 本来物資搬送が任務のはずが……

本来物資の搬送任務であるが待機中に、自衛隊の給水車の道案内で添乗を命じられた。混乱の中での緊急時ではあるが納得のいかない業務である。→水道局の仕事？

指揮命令系統の混乱にて、食糧の搬送も命令されたが、落ち着くにつれ、この業務の解消があった。しかし、納得のいかない点が多い。

- ボランティアと行政の関わりについて

大勢のボランティアの助けをかりて物資運搬の業務や配布等、問題を抱えながらも処理ができたが、まだまだ多くの問題が残る。

- 「被害調査」に保母さんや保健婦さんがかり出されて……混乱を少しでも防ぐ立場なら、もっと本来業務と関連づけるべき。

義援金の関係で被災者証明が福祉局の担当となり、保母さんや保健婦さんのような有資格者が本来彼女達を必要とするところに配置されず、



わけもわからない家屋調査や証明の窓口に狩り出されたことは問題であった。本来家屋調査は建築関係や、資産税課の家屋係が主導的立場で動くべきであり、そうすれば今回のような混乱は少しは防げたのではないだろうか。財政局と福祉局のトップの人間関係が悪いためか、お互い協力し合うことを忘れ、ただ人数さえそろえばよいようなやり方をつぶさに感じた。現在も税務部長は、本来の責任を放棄し、物資部長の自覚が少なく、それが、5か月経た今も、市民に一番要求されていることだと信じている。当初、物資の確保は当然必要であったが、今や市民は、税の減免や今後の生活のために動き出している。にもかかわらず、上に立つものが、そのような状況が見えず、必ずしも職員でなくてもできる荷物運びや、テントの留守番という仕事に毎日動員をかけている。税務の仕事はボランティアの方や業者委託できるものではない。限られた職員の中で、何が職員でなければできないか。職員以外でもできるかを判断できる上司でなければならない。

○「被害調査」はもっと体制をとれる期間があったはず。

「被害調査」の業務は、他の初動時の業務と違い準備期間もあったはずで、その気になれば、それなりの体制がとれたはずである。

○調査部に長期にわたる災害業務が集中した。もっと要員が確保できたはず。

調査部の一員であるが、今回、調査部には、「被災者証明」「被害調査」「各種給付」「各

種貸付」等々、大量の業務が集中することになった。

業務開始までにしばらくの準備期間が持てたこともあるので、体制的にも、もっと構えて、要員を確保（他市の応援、ボランティア、職員のプロジェクトチーム編成など）したうえで臨むべきであったと思う。

○「被害調査」は専門知識のある部署が中心となったチーム編成で実施すべき。

今回の「被害調査」は、水害の床上・床下等とちがい、もっと専門知識のある部署が担当するか、あるいはその部署の職員がチーフとなるようなチーム編成で実施すべきであったと思います。

○当初実施した「被害届」は本当に必要なのか。今後どう位置づけるのか。

被災直後から、被災者証明の始まる2月11日まで「被害届」の受け付けを行った。3万件をこえる届出があったと思うが、あの事務は本来の災害対策事務にはなかったものである。今後、どう位置づけるのか。今回限りとするにはあまりにも苦勞が大きすぎた。ストレスの原因にもなる。

○応援に行ったが担当者がはっきりしない。

り災証明の発行手伝いにいったとき、担当者がかきりせずウロウロした。又、十分な説明のないまま仕事に入ったので、市民に質問されても答えることができなかった。忙しかったとは思いますが、何かマニュアル的なものがあれば……。又、本来業務も必要だとは思いますが忙しそうにし



ているのは一部の人のみでよそめにはひまそうにみえたので手伝ってあげればいいのかと思っ  
てしまった。

- 支所には本庁からの情報が伝わらず、「被災者証明」「義援金」「仮設住宅」での対応にはつくづくいやになった。

私の職場は、支所ですが、震災後出勤してみると、被害届を出しに市民が殺到し、倒壊しかけた住宅を住めるか判定してほしいなど、また救援物資を配分してほしいなど、あらゆる要求が、市民から出されるのに支所には、本庁での情報が伝わらず、職員自身もたいへんはがゆい思いもしたし、また市民にも信用を失うようなことがおこっていたと思います。特に福祉局の被災者証明の発行のことは、本庁との間に大きな溝があると感じました。指揮系統が乱れてやっとかかった電話で確認した内容がその日の午後には全くくつがえされるということも度々ありました。中でも3/1より義援金を各支所で分配するというのを前もって公報に出しておきながら前日に中止するという職員も市民もふりまわされ、本当に本庁に問い合わせた内容が信用できなくなりました。仮設住宅についても先着順で募集など、血も涙もない対応ぶりなど、西宮市がつくづくいやになりました。

- 被害調査にもっと時間をかけるべき。

義援金 被災証明のもとになる家屋調査については、不十分である。もっと時間をかけて調査すべきである。（義援金の支払が早すぎる）

- 義援金 被災証明で住民登録外の処理方法には

問題がある。

- 重傷者見舞金について

外傷による負傷者に限るのは問題である。内部疾患、精神障害も含めるべきである。

- もっと任務分担を考えてほしい。

出先機関の保育所の調理員ですが、被災者証明の部門に行き、市民との対応の窓口にいましたが、何かと聞いて来られる事に対応出来ませんので、配置の場所にも疑問に思いましたし、誰でも云いからという対処としか思えませんでした。指揮系統の乱れ任務分担の不明確だと思います。

- 応急対策はすべて横一線のスタートではない。柔軟で臨機応変な組織対応が必要。

応急対策各項目を時系列で見ると、すべて横一線ではない。今回の震災でも「救出・捜索」「遺体搬送・安置」「避難所開設・運営」「食糧・物資供給」はほぼ同時期であったが、その後業務が集中した「被害届」「被害調査」「被災者証明」「家屋解体受付」「義援金交付」などは波状的に生じたもので、開始時期、場所等検討の余地はあったと思う。

さらに、防災組織に固執しすぎたために、職員の業務に片よりが生じたように思う。完ペキなマニュアルの作成は不可能であり、臨機応変が必要である。

- 「家屋解体」での公費支出決定の遅れは現場対応を混乱におとし入れた。

家屋解体は結局のところ公費解体となったが、その結論に至るまでの市民への対応はすさまじ



いものがあった。マスコミが先行し、市内部の情報・指示伝達はなく、電話等の対応者は、「とりあえず、写真、契約書、領収書は保管しておいて下さい」などと自己防衛的な対応に変化せざるを得なかった。まさに、運動論を地で行くものであったが、二度と経験したくない。

○「道路上の放置ガレキの処理」の方針が出ない時期があった。

多くの事例のひとつであろうかと思うが、震災時、「道路上の放置されたガレキ」をどこが処分するか、しばらく方針決定されない時期があった。

確かに、市民モラルの次元まで逆のぼることのできる問題ではあるが、個人的には、テキパキと処理方針を出してほしかった。

○市内医療機関と行政（市・保健所）が十分タイアップできる対策をとってほしい。

保健環境部は、地域防災計画では、死体収容班であるが、今回の震災では、医療部門を担当した。

なぜこうなったのか、ほとんどの職員は知らないのではないか。

今後、医療機関と行政（保健所・市）が災害時にどう連携するのか十分に対策をねっておく必要がある。

○「仮設住宅」でもトップの決定が担当者まで十分伝わらない事態が。

- 仮設住宅で一部の（上の）者が県と話をすすめて、その内容が担当者まで十分伝わらない場合が多く右往左往した。

- 仮設住宅を先着順にしたり、自衛隊のがれき解体を断ったり、上の者が何を考えているのかわからない。
- 仮設住宅の調査・施工で担当者によって内容が異なってくる場合があった。事前の打ち合わせを行うべきであった。

○仮設住宅関連

県からの情報が遅く、県としての基準がない為、各市で統一がとれていない。

当然必要な事も予算がないと市で負担させられた。

○仮設住宅もチームをつくるべきであった。

仮設住宅建設は、建設局だけでなく、水道局、下水道部を含めてチームを作ると、もっと迅速に手配が出来たと思う。

○北部地域との交通路線の確保について

阪神間、市街地の主要道路が被害を受けたり、救援専用路となるなど被災地への交通路（手段）が少なくなっていたところ、このような際に塩瀬山口など市の北部域との南北交通路線が数本あればこれを補完できたのではと思えるが。盤滝トンネルの震災や宝塚方面道路の通行難などのため、旧来の盤滝峠1本のみとなった。阪神間には震災後、六甲山の北側に、バイパス的要素を持った道路の整備、設置、計画があるように聞いたが、本市もこのような、合理的な計画をする必要があるのではないか。

（まちづくりと関連）

○保育所からの応援体制も明確にしておいてほしい。



保育所だったが休所期間中は出キンしても保育の仕事がなかった。避難所になっていた所は大変だったと後できいたが、手伝いに行ける体制などがあればと思った。

○職員配置や応援職員の受け入れについて検討を。

保育所より福祉に応援にいきました。人手が足りないことはくみとれるけれど、福祉総務は、市民がよく訪れる窓口となっているところに、他市からの応援の方やはじめて来た保育所職員が、前もって今までの経過や対応など十分な理解のない形で市民に接することがほとんどで、市民がすがらざるをえない役所としての対応が、結局不十分だった形になったのではないかな。もう少し職員の配置を考慮してほしい。被災者証明も同様。

はじめにいった時は、福祉担当者からの受け入れ準備、説明もなく不親切だった。応援職員である腕章など、頼りない役所というレッテルをはられないためにも、あった方がよかったのでは。

○保育所の臨時休所期間中の具体的作業の指示がなかった。

私の職場は保育所ですが、地震直後3日間程は、園児の安否確認のため忙しくしました。しかしそれ以後は課からの指示がなく、何かしなければと思うだけで、結局何も出来ずに過ぎてしまったように思います。保育所は17日（火）から21日（土）まで臨時休所になり子ども達は来ませんでした。避難所に救援活動に行くとか、救援物資の搬入作業をするとか、具体的な指示があ

れば良かったと思います。しかし反面、待っているだけでなく自分たちから行動する積極性がなかったことに対しては反省するのみです。解決方法としては、防災、水防指令の組織に組み込んで、市の職員の一員として行動することが考えられます。

○保育所の休所中に、人手不足の部署に応援に行きたかった。

保育所で子どもが登所できていない、ごく最初の段階で、もし避難所など、人手のないところへ応援に行けたらよかった。

○保育所保母への応援要請が遅かった。

保育所保母への応援要求が遅かったと思います。もっと早くから指示を出してもらえれば、有効に動けたのではないかと思います。

○保育所職場でのジレンマ

保育所には子どもはいないのに他の業務の手伝いをすべきかどうか迷いつつ、そのまますごしてたのがはらだたしかった。

○保育所職場に対し、当日、課からの指示がほしかった。

保育所の職場、やむを得ぬ子どもを何日か保育したが、もし大きな震災が来たら、この子達の命を守ることができるだろうか、との大きな不安に精神的に疲労した。社会的な事情よりも子どもの命が大切である。思いきって何日か休所にするべきだ。

当日、1月17日は、すぐ出勤し職場を守ったが、何らかの方法で課からの指示がほしかった。どうしていいか……。オロオロした。子どもは置



いていかれるし、給食は来ないし、電話してもつながらないし、職員は来ないし……。

保育所は可能な限り自宅待機となったが、そのため子どもを持つ職員は休まざるを得なかった。休所となれば職場の人員は最少限ですむが、職場に子どもは来るし職員は困るし……大変だった。

#### ○保育所から応援に行ったが……

保育所より応援業務ということで、被害届の整理に行きました。もちろん忙しい日もありましたが、半日仕事がなくボ～とおしゃべりしていたことがあります。応援したいのに、仕事がまわってこない、イライラ。せっかく出張しているのですから、なんでも仕事をしたかった。もったいないですよ。又毎回ちがう人が行くのではなく、決まったメンバーが毎日でも行くという方がよかったのでは……。

保育所はしばらく子どもの人数が少なく、どんどんボランティアにでることができたのに……。職場でイライラしていましたよ。

#### ○震災直後、保育所で感じたもどかしさ

震災直後、保育所は子供達が自宅より離れて、避難していたりして、登所している子は少なく、職員は、水汲み等が終われば保育に従事する者は、2、3名でよく、残りは手もちぶさたのことが多かった。上司に、救援活動に何名か回して欲しい旨伝えと、待機の指示があるので、とのこと。しかし、他の職場では、救援物資の搬入、搬送等、色々と救援活動の大変さを耳にするので、自分達はこれでいいのかと、もどか

しさを感じた。

#### ○「隣近所の助け合い」今後の防災計画では着目を

私は、今回の震災で、生き埋めから救出を一番多くしたのは自衛隊でも消防でもなく、いわゆる隣近所の方々（この中には消防団員も含まれる）であったと思っています。

このことから、今後の防災計画には、こうしたところに着目して、例えば、10～20人程度が活動できる資材（バール・スコップ等）を保管する倉庫を公園などに作っていったはどうでしょうか。その管理は、自治会などに委託する方法も考えてはどうでしょうか。

#### ○ボランティアを必要とする部署が把握できない時期があった。今後は、各部署にボランティア担当を決めておくこと。

今回の震災で多数のボランティアに活動してもらったが、ネットワークが出来るまでの間は、ボランティアを必要とする部署の把握すら不十分であったように思う。

今後は、今回の経験を教訓に、ボランティアの担当窓口の設置だけでなく、各部（ボランティアを必要とする）にボランティア担当者を設置することも考えてはどうか。

#### ○めざましかったボランティア活動。活動分野、受け入れ体制など十分検討を。

今回「ボランティア元年」という言葉がうまれるくらいその活動はめざましいものがあった。しかし、それだけに終らせるのではなく、今後のためにも、活動分野、受け入れ体制、などを



十分に検討しておく必要がある。

大災害はいずれはやってくるが、同じかたちではやってこないと思うので、応用がきくようにしておくことが必要で、そのためにも行動指針を作成することが大切である。

○他府県の県や市町職員の応援に比べ、県下の応援実態が気になる。

京都府、大阪府、和歌山県や、その市町など、他府県からの応援職員は目にはいったが、兵庫県下の市町からの応援職員はどうであったのか。何となくすっきりしないものが残った。

○物的な応援（機械・車両の提出）に対する受け入れ体制は全く不備であった。

252会議室で情報収集を担当したが、ボランティアというか、車両とか建築機械などの提供（私たちはこれを「物的ボランティア」とよんでいたが）あるいは、住宅の供与等の申し出が相当数あった。

しかし、これらを総括的に担当する部門、それらを必要としている情報を集約できる体制が、結局確立できなかったのではないだろうか。

○ボランティア活動を地域防災計画に明確に位置づけるべき。

今回の震災でボランティアの活動は大きなものがあつた。

西宮では、組織化（NVN）される方向と伺っているが、地域防災計画でも明確に位置づけておくことが必要だ。

○各部署に情報担当者の配備を。

今回、やたら国、県への報告が多くあつたが、

短期間に多くの部署から情報を集めなければならなかった。

今後、各部署に情報担当者をあらかじめ決めておいてはどうか。

○同じ情報を各セクションから要求してくる国・県のやり方は是正してほしい。

今回の震災にあたり、国・県から報告を求められることが、たびたびあつた。問題は同じような情報を国・県の各セクションから別々に求められることと、報告締切りが、ほとんどが1～2日の余裕しかなく、関係部局に十分説明連絡できるものではなかった。

あの情報混乱時期での国・県の情報収集のあり方は是非とも是正してもらいたい。（必要であれば、担当者が西宮市に出向いて情報収集すれば事足りるし、とても短時間で報告をまとめることの出来る状況でないことが分かってもらえらると思う。）

○市よりも、県の対応ぶりに問題あり

市より上部団体というか、県の対応が、コロコロかわるので困った。

○村山総理の対応が遅い、悪い。

○西宮の人事・組織管理の悪い面が一気に表面にもっと柔軟なものへ。

以前の枠組を変えてもっと、柔軟に組織改正、人員配置をすべきではないのか。

震災直後の数日間、出勤している職員の人数も把握されないまま、当日より出て来た職員は夜遅くまで使い回わされ、理由があるにせよ、出勤しなかった職員は家で過ごしていた。



これは当局の以前からの人事管理能力のなさを端的に示しているのではないか。

4月の人事異動以降も、忙しい職場は土曜日も出勤し、連日残業しているというのに、震災後もそれ以前の計画（夢）を追いかけて、復旧関連の仕事をするわけでもない職場がそのままの体制（員数）で残されている。

市役所というところは、従前より、仕事をしてもしなくても、ただ職場に来て一日過ごせばよいということか。

若い人がどんどんヤル気をなくしていったのではないか？

#### ○職員の安否確認は重大問題

職員の安否確認が遅れたとのことですが、単に他のことに手がとられて、人手がまわせなかったから遅れたということではすまされない問題を含んでいるように思います。

本当に職員を大切にする立場が以前からなかったのではないのでしょうか。

#### ○この調査を1回で終らせないで

時間がすぎれば、忘れてしまうこともあるし、逆にふと思い出すこともある。

こうした調査は、1回限りとせず、今回の結果を皆に伝え、それをふまえて、再度意見を求めることも検討してほしい。

#### ○すばやく対応できる体制を

どの課もがすばやく対応ができるように、今後共体制をつくっていく。

#### ○防災組織は通常組織を合理的に組み合わせたものへ

通常組織での平常業務と防災体制での救助業務とのかかわりで、出来れば防災体制の組織も通常組織と1本化（例えば、防災本部の1つの部が、通常組織の2つの局の部署から構成されているのを1つの局に整理するとか）する方がより効率的だと思います。

#### ○初動体制の見直しが必要と思う。

例えば、現行防災組織は、組織をそのまま、スライドさせているが、初動時は、居住地に最も近い職場に集結させて、逐次防災組織へ移行するのがよいのでは。

#### ○防災組織の柔軟性が必要と思う。

例えば、今回初めは、食糧、物資、避難所管理等が繁忙をきわめ、次第に福祉部局の比重が多くなってきた。これは、防災組織を現行の担当部局にあてはめている無理がでてきたと思われる。時間の経過と、仕事の比重でローリングできる組織を作っては。

#### ○情報伝達の手段と、命令の一本化が必要と思う。

例えば、救援物資の管理をしていても、同じことで違う組織から何本も連絡が入り、混乱を何回もまねいた。又、こちら側からの要望についても判断がなかなかもらえなかったり、トップが判断しても下まで連絡が入ってないケースも多々あり窓口一本化、担当一本化等命令系統の整理が必要と思う。

#### ○職員用食事は動員部が担当を

職員への食糧は対策部が担当したが、本来は動員部が担当すべきものとする。

#### ○「本部」を場所的にも組織的にもわかりやすく



方針決定は、局長以上のクラスが集まる442会議室で行なわれているはずが、実際には252会議室で行なわれていると感ちがいしている職員が多かった。

これは、従来の災害の際に252会議室で本部が設置されていたため、この際、252会議室と442会議室を入れかえてはどうであろうか。それが無理としても、総括課長を中心に構成されている本部連絡員は、局長クラス以上で構成される本部員会議には、事務局的な位置づけでもよいから出席できるようなシステムにすべきであると思う。（伝達時間の短縮、方針伝達の正確、的確さが期待できる）

#### ○豪華でなくても堅牢な庁舎で防災基地に

今回の経験から、市庁舎自体が市域の防災センターとなったし、市民にとってもその方が何かと分かりやすかったと思う。

このことから、防災資材等は別の地域に拠点を設けて保管すべきであるが、指令あるいは情報発進の基地は市庁舎に併設すべきであると思う。その際に考慮すべきは、豪華でなくても堅牢な庁舎であること。救援物資の第一次集積所を兼ねることのできる広場を有すること。

#### ○情報は各部署が共有できるようにルートづくりを

被災者、市民からの問い合わせは、各部署にまいこんでくる。大規模な災害の場合、これをひとつの窓口へ集中させることは逆に市民感情を逆なでする。

むしろ最低限の必要な情報を各部署が共有する

こと。（極論すれば、職員一人ひとりが情報を知りえること）そのためのルートを検討すべきであると思う。

#### ○広報車だけでは回りきれない。セスナ機を飛ばしてはどうか

本市の場合、広報車で市内をまわったと聞いていますが、おそらく不十分であったと思います。思いきってセスナをとばすとか、そういったことは検討されたのでしょうか。（選挙のときはセスナをとばしていますが、やはり効果はなさそうですね）

#### ○六湛寺再開ビルに独身寮と災害用職員住宅の確保を

初動時の実働部隊の確保でいえば、「独身寮」を復活させるのもひとつの方策である。六湛寺地区に建設される住宅に、こうした災害対策の一環としての職員住宅を確保することを提案する。

#### ○職員採用に市内居住者の優先と、市内に職員用住宅を

当日の出勤率が40%と聞いているが、その原因のひとつが、遠距離通勤にあると思う。

おそらく、本庁の職員の50%は市外からの通勤であると思う。

災害時の職員確保の観点からも、市内の職員用住宅の確保、職員採用時の市内居住者の考慮など、方策を検討してもいいと思う。

#### ○局単位の防災組織へ

2つの局で、防災体制の部を担当した場合、指示・伝達がスムーズに行かない点がある。



この際、局単位に見直しすることを提案する。

- 1週間後には必ずローテーション勤務の導入を徹夜の勤務が続くと、判断力どころか、思考力、集中力も確実にダウンする。

職員の平均年齢も決して若くないのであって、どんな災害であっても、1週間位すれば、必ずローテーション勤務に移行できるようにしなければならない。

- 「本部連絡員」がもっと全面に出るように

災害対策本部には、各総括課長を中心とした本部連絡員組織がある。

局長クラスの本部員会議も大事だと思うが、何を論議したのか、何を決めたのかさっぱり伝わってこなかった。

それならば、本部連絡員の組織がもっと前面に出て、第一線の部隊に指示・連絡できるようにしてもらいたい。

- 居住地での救助業務に市をこえた相互の体制を

- ① 勤務時間外の突発的な災害に対する、初動の体制は十分に見直すことが必要だと思います。

本市の場合、本庁勤務職員のうち、およそ半分は市外からの通勤者であり、おそらくその中には多数の幹部も含まれていると思います。一方、本市内には、他市の職員も相当数居住されていることと思っています。

災害が大規模であれば、それだけ登庁率は少なくなる一方で、必要とされる災害救助の対象は増加することになります。

- ② そこで、こうした場合、次のようなことを検討することが大切であると考えます。

ア. 居住地での救援活動、ボランティア活動に従事することも職員の業務と位置づける方法の検討

イ. 市をこえて、相互に職員を救助業務に従事できる体制の検討。

- 総合相談所は長期間設置すべき、OBの活用も被害の程度にもよるが、今後において、被災者に対する総合相談的な部署を設置しても良いのではないかと思う。そして、その部署には、ベテラン職員や必要であればOBにも加わってもらえば良いと思う。（島原や深江では設置していると聞いています。本市の場合、例えば、事業の担当者がよろず相談役も兼ねて駆け回っているのが実状です。）

- 市域をこえた防災体制を

災害当日の職員の登庁率は約4割であったと聞いています。出勤しようにもままならない、職員自身が被災者となるような、大規模災害の場合、市域をこえた、防災体制が組めるようなシステムの研究を是非ともやってほしい。

- 携帯無線、携帯電話を現場業務に導入を

現場から、担当部署に連絡しようにも、電話がつながらず大変苦労した。やはり、携帯無線のようなものを配備する必要がある。（1週間ほどすれば携帯電話でも十分OK）

- 招集、訓練をやってみては

招集訓練を一度やってみてはどうでしょうか。（来年の1月17日の前後とか、但し、あらかじめ日時は発表しない。）

その際、注意してほしいことは、今回の震災の



ように招集すべきメンバー（例えば、市長とか局長クラス）も招集される側にまわった方が、より実践的だと思います。

#### ○ホットライン（専用回線）の確保を

ホットライン（関西電力、大阪ガスなど）を確保しておかないと、緊急連絡がとれず、大変こまった。

#### ○ホットラインと双方向の無線の配備を

震災当日から、数日間は電話連絡がほとんどできないために、市民だけでなく市内でも、情報伝達などに大変なロスが生じた。必要な企業も含めて関係機関でのホットラインか双方向の無線の設置は最低でも必要である。

#### ○初動時の体制はもっと柔軟なものへ

震災当日から約1週間ほどは、本来のかたちでの災害対策本部としての機能はしていなかったように思う。それは、職員自身が被災者であったことから、出勤しようにもそれが、出来なかったからである。

したがって、今回のように、参集している職員がとりあえず必要な災害対策の部署につき、陣容がそろうにしたがって、本来の対策組織にもどしていけるような体制も必要だと思う。

よく言われている初動体制とは、このようなものを私はイメージしている。

#### ○パソコンの活用で情報を共有できるように

パソコンがこれだけ普及している時代であるから、防災の帳票についても、従来の様式にこだわらず、また、必要な情報は異なった部署でも共有できるような方法も検討してほしい。

#### ○広報紙の1月23日発行は精一杯だったのか

市民向けの広報紙は、1月23日に発行された。これが早かったのか遅かったのか、情報を送る側と、受けとる側では大きく評価が分かれると思う。

送る側からすれば、あの混乱の中で、1週間程度で発行にこぎつけることが出来たとの評価も出来なくもない。

しかし、受ける側からすれば、あの混乱の中でこそ西宮市からの情報がほしかったとなる。

#### ○少々無理しても、職員向けの情報紙の発行を

市民向けの「災害広報」の発行とあわせて、職員向けの「災害対策情報」を初日からでも発行してほしかった。その日のトップの会議の結果を流してもらっただけでも、第一線の部隊はどれだけ助かったことか。

その体制は、少々無理してでもとってほしかった。そのことは、市民へのサービス向上に必ず結びつくものがあつたはず。

#### ○マスコミ情報さえ知る機会のなかった職員は馬鹿よばわりされた。

災害対策の各部署がどういう方針を持っているか、全くつかめない時期があつた。また、伝わってきても、マスコミの方が早く、新聞やテレビを見る機会、時間のない職員が市民から馬鹿呼ばわりされていたが、今後のことを考えた場合、無視できない実態である。

#### ○本部会議の決定事項が下まで流れなかったのは何故か。

他市でも同じことであつたようですが、なぜ本



部会議の決定が下まで流れなかったのか、今だに不思議に思っています。

#### ○連絡伝達体制の強化

#### ○442会議室（本部員）と252会議室（情報収集）のあり方に再検討を

252会議室が災害対策本部との認識が一般的であったが、実際には情報収集と消防公安部の機能しか有していなかった。本部機能をもたせるためには、本部員クラスの常駐と本部連絡員（又はその代理）の常駐が必要であるが、実際のところ、あの252会議室で、今回のような大規模災害の対策を練ることは不可能であったと思う。

442会議室での方針決定のあと本部連絡員への的確な指示がなされておれば、もう少し市民への情報連絡もスムーズに行うことが出来たはず。

#### ○国・県・マスコミの問い合わせに「うんざり」

国・県・マスコミからの問い合わせにうんざりする時期があった。「そこは本部でしょう？本部なのになぜ分からないのか？」等々の質問に対し、思わず「本部の責任者は市長です。文句がなるなら直接市長に言って下さい」と言わざるを得なかった。それほど、何の情報も手許にない時期があった。

#### ○新聞発表は先に、責任者からの内部連絡はあとまわしであいまいだった。

震災対策の中では、責任者からの情報伝達が不足だったと思う。新聞発表等が先にあったので、対応するのに困った。

いろいろな問い合わせに対して、聞きたくても

電話が繋がらなかったり、聞いた内容がかわっていきようなこともあった。担当の責任者のしっかりした答えがほしかった。

#### ○連絡体制の不備で右往左往

遺体を棺に入れる作業をしていたのですが、本部からの一方的な連絡しかこず、こちらからの連絡は電話が話し中でつながらない、1時間くらいしてやっとつながったと思ったら、電話番なのでよくわからないといわれ右往左往してしまっ。市民からの問い合わせ電話と職員の業務の電話をふやすべきだ。（高木小学校に行けといわれて行っていると→浜脇小学校に行けといわれた、あの混乱の中、1時間以上もかけてムダな動きをしなくてはいけなかった）これは他の業務の人も思っていると考えられる。

#### ○マニュアルはなく、管理職の指示も的を得ず情報伝達の不足を感じた。

市民からの問い合わせについて、情報不足のための的確な情報を提供できなかった。交替で災害対策本部へ詰めて、電話応対することがあったがマニュアルがないため返答に困った。

担当の管理職に指示をあおいでも、的確な指示を得られない場面が多々見受けられた。

#### ○西宮を離れるとマスコミ情報だけでは不十分

実際、西宮を離れて避難していると、細部のことまではわからない部分が多かった。ニュースやラジオの情報だけでは不十分であったと思う。

#### ○支所部への情報不足は今日でも不満が残る

瓦木支所において、今から振り返ってみて、不足不満ばかりで、満足したことの思いがない。



当初の混乱時より、今日に至っても、情報等の伝達が徹底されていなかったりで、いやになっちゃう。

○知らないのではすまされないのに情報は不足すぎ

○公表した方針をとりやめるのはぶざま

内部での情報が不足すぎている。窓口業務は直接、市民と接しているのだから、知らないではすまされない。

新聞から情報を得るということも少なくなかった。

それと一度、新聞や市政ニュース等が公表しておいて、とりやめるなどぶざまな対応にはあきれてしまう。

○情報収集班に情報が流されない

広報課からプレス発表が行われているのに情報収集班が知らず、電話対応できないことが何度かあった。

☆必ず知らせて欲しい。

次々と対応部署（救援物資、受け入れ、供給など）が変わっていき、対応に正確性を欠いた。

○当初、避難所以外の被災者には何の情報もなかった。

初期における広報活動の不備から、避難所にからず自宅にいた人には何の連絡、情報もない、との苦情が多かった。

☆日頃から、避難所がどこか、住民に徹底する必要がある。

○被害状況の集約は大規模災害では手作業では無理

被害状況は、出来ることならば一刻も早く、一箇所に集中できるようにしたい。（今回のような大規模災害の場合、手作業では無理。もっと別の方法はないものか。）

○252会議室の情報収集の電話は、臨機応変に増やしてほしい

252会議室での情報収集は、電話10台で行っていたが、1月中は、鳴りやむことはなかった。臨機応変に台数をふやすことは出来ないものか。（一市民に「百回まわしてやっとかかった」と言われた。）

252会議室での情報収集では、苦情の場合、関係部局に連絡しないことには、完結しないことが多い。それにもかかわらず「本部にかけたのだからお前の責任で返答せよ」と詰められるケースがあった。

もっと、有機的な連絡体制がとればよいのだが。

○職場管理者の状況把握が全く出来ていない。

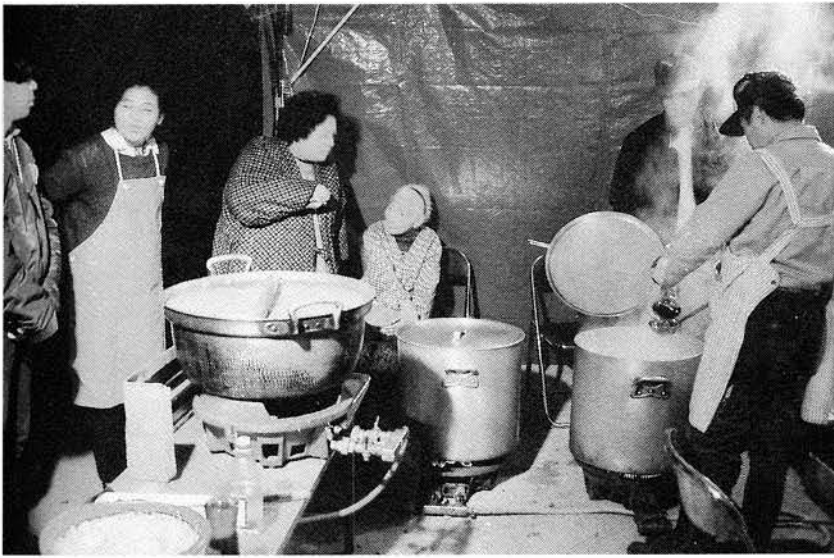
○部下の為に一肌脱いでやろうなんてかけらもなかった。

一般職も管理職もなく、管理者が一般職の者と同じ行動を取りたがって、楽をしようとしていた。

○トップはもっと組織を大事にしてほしい。（トップ不在、管理職不在の感覚におちいった。）

市長、助役あるいは局長クラスの動きが、震災当日以降よくわからなかった。有事の際には、平常時以上に組織を大事にしてほしい。

このような、トップ不在、管理職不在の感覚に



おちいったのは、昭和48年の事件以来2度目である。

○**トップに最高責任者としての行動が見られなかった。**

市長及び準ずる幹部による職場、避難所、避難者、職員への見舞、状況調査、激励、応援職員へのお礼、等最高責任者としての行動が見られなかった。

○**指揮系統の乱れ**

**責任者からの情報伝達不足**

○**責任者、担当部署が不明確**

問題にもなっているが、特に震災関係業務において責任者が明確になっておらず、また、責任の押しつけ等により担当部署もはっきりしていない。また、十分な人員、対応がなされないまま、現場の判断でなんとかした現状である。

(解決策)

役職者（特に課長級以上、市長も含めて）が、直接現場で市民の声を聞くこと。

○**指揮系統の確立**

水防に対応する時とちがう体制で、地区の割当てがしてあり、複雑である。また、局部的な対応時には、応援としての第二次地区の割当てが必要なのではないか。

○**無線機の導入**

現場にでてからは、情報がいりまじり、正確なことがわからなかった。現在の係長級の数ぐらいの無線機の導入が必要と思う。

○**上層管理職の無責任さ**

あまりにも予測しがたかったとはいえ、その場

その場の組織としての対応ではなく、個人としての対応になってしまった無責任さを感じるし、対応していても裏付けのないままの対応をしていることに自信をなくした。

○**市長・助役等の職員への配慮のなさ**

市長よりの激励慰労のなさに、情けない思い。また、他市町から応援に対して、市全体としての対応の仕方がまずかったと思われる。（みんな疲れていたが、他市応援者より西宮市職員が楽しんでいる部分があった。）

特に、被災状況の調査については、時期尚早で形ばかりを整えた感じで、中身があとあとどれだけ影響すべきかを考えるべきだった。調査班の担当部局についても財政局に改めるべき。

○**上の方で一体何が話し合われ、何が決定されているのかが、さっぱり伝わってこなかった。**

真先に市民と対応するのは我々なのに、情報が入ってこない為、身動きがとれなかった。せめて（電話等での対応が不可能だというのであれば）FAXで情報をどんどん流してくれと本部の要請したが、きき入れられないままだった。後々（ある程度落ちついてきて）FAXによる情報の提供が行われた。

○**被災証明に関してのゴタゴタは、もう思い出したくもない程たくさんある。**

解決方法……なんてあるのだろうか？とにかく上の方は現場の状態を見ておくべき。

○**行政内部の乱れは、結局、弱者にしわよせ。（被害調査の場合）**

組織体制の不備、指揮系統の乱れは各々の手続



きで市民1人1人が聞く人によって答がちがう。何を言っているのかわからんと出くわし感じたことと思います。

住宅診断の判定もしかり、再調査でもしかり、これはまわってくる人（担当の人）によって大きな判定の差があったということです。人の口に戸はたてられなく、近所で色々な事実が互いに話しあわれます。「そんな状態で半壊になったの」「うちこんな言うたら全壊にしてもらえた」等々、又、市の業務が混乱期には判決が、ばらばらで一定業務が落ち着いた頃にやっと判定が統一化され、きつくなっていた事実もあると思いました。

遠くへ避難しもどってきてからの人、又はものを多く言えない、どう言ってもいいかわからないお年よりに対して、判定がきびしくなっていたこともあります。

結局弱い立場の者に対して、又不利な位置にいる者に対して、やさしくない行き届いていない対応を多く目にし、聞き非常に残念でなりませんでした。とにかく、どの業務の対応に関しても終始一貫性がなく、不平等さに腹立たしかった。

○応援を申し出たときは断っておいて、あとでかり出された。

震災直後、子どもの少ない時は、こちらが応援を申し出ても断ったのに、子どもの登所人数が増えてから被災（害）の台帳作りや被災者証明の業務にかり出され、保育現場が人員不足になった。→もっと早い時期に適切な判断をして指揮

してほしい。

○なぜ保育所は建物診断からはずれたのか。

学校等は地震後すぐに建物の安全性が専門家によって調査されたようだが、保育所はなかった。小・中学校よりもっと幼なく、自力で避けることもできない子ども達が生活する建物なのにあんまりだと思った。また幼・小・中・高校が休校なのに、どうして保育所はすぐに受け入れるのか？職員数では、いざと言う時（10秒～20秒で）絶対に子どもの命が守れないと思った。

○対応の悪さ、もっと相手の身になって

被災者証明の発行などで、市民と直接かかわる機会があったが、役所の職員は対応の仕方が悪いと感じた。言葉づかいや物腰など上から下へという感じである。どうしてもっと相手の身になって、質問に答えたり説明したりできないのか？（特に男性職員）

○震災当日、指揮命令はなかった。

地震当日の一番思われたのは指揮系統がなかった。

市長の姿を見たことがなかった。

解決方法なんかは市長が考えることで、我々が考えることではない。

○初日は、出先職場では、ラジオ情報が手がかかりになった。市民向けの放送手段を。

全庁的な指揮系統が不明で、出先職場は所轄課のみの情報収集となった。それも人員不足や電話配線不調のため、なかなか通じず不便だった。初日は、特に連絡網が断たれ、ラジオの情報のみが手がかかりであった。今後緊急の際、別枠の



市民向け放送手段など、備えてほしいと痛感しました。

○震災対策の遅れは、国・県の財政支援策に問題あり

西宮市は、1970年2月に、地震の「特定観測地域」に指定されたと聞いています。

それなのになぜ、その指定に伴う震災対策の強化がなされなかったのでしょうか。

私は、行政の中でも、とりわけ、何の財政的支援策もたててこなかった国・県に責任があると思っています。

「都市防災化」を言うのであれば、それに見合う補助制度をつくるべきであるし、そこまできなくても、静岡県のような、「強化地域」なみの市町村への支援策は実施されてもよかったのではないかと。今からでも実施すべきだと思います。

○対策本部各部のマニュアル化は是非とも

ガス、水道、電気（場合によっては電話も）が途絶した場合の対策本部の各部の活動方法もあらかじめ決めておき、マニュアル化しておくことが大事である。

○決定された方針がなぜ一般職員まで伝わらなかったのか。今一度点検を

市内部の情報が、全体に伝わらなかったという点について、単なる問題のひとつということではすまされない気がする。その点で、局長クラスの会議ではどういうことが決定され、それがどういったルートで組織に伝達させようとしていたのか、いま一度点検すべきである。

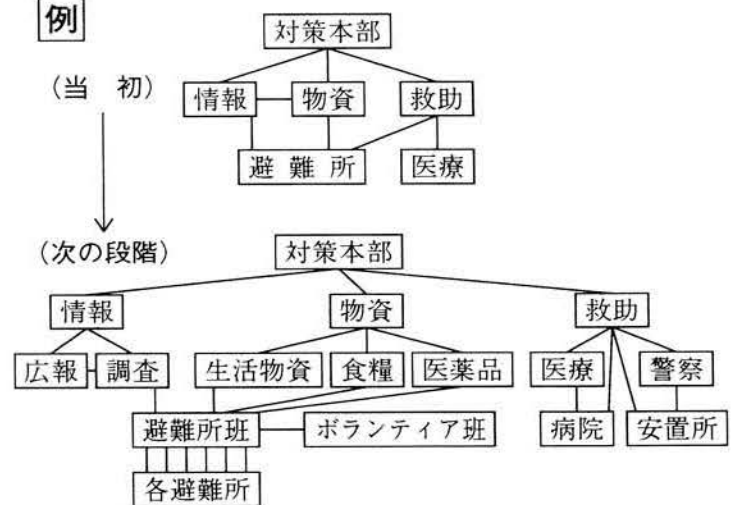
○緊急時における連絡体制、情報の収集と命令指示伝達の組織体制の簡単な組織図が必要である。

時間の経過と共に食糧はどこ、医療はどこ、物資はどこ、安否確認はどこと、組織が充実していける体制づくり。権限の分担が必要。

直後は（人員が無いので）簡単な体制から、職員・ボランティアが拡充するまで、マニュアル化する。

組織拡充の方法や権限の与え方までマニュアルをシート化する。

例



○マスコミ発表前に内部に資料配布を

震災関連の諸制度を市民に公表（新聞報道）前に市民窓口（EX. 支所・サービスセンター等）に市民に説明できる程度の資料（説明等）が必要と思う。

○マスコミ発表で事は足りない。もっと研究を。

今回、市民に対する行政情報はマスコミが先行したように思います。



マスコミ情報では、どうしても全体を伝えることには限界があります。（強調点はマスコミの判断も加えるため）

外国人などへの情報提供も含め、もっともっと研究する必要があります。

○情報不足にうんざりした。混乱時であれば、なおさら、しっかりした連絡体制の確立を。

各部署で言えることと思いますが、今日の震災での情報不足にはうんざりしました。

混乱している時であればあるほど、しっかりした担当部局を設置して、決定された、あるいは変更された施策、方針を日報形式で各部署に流す努力をすべきであったと思います。（そのためには、まず各部署から、苦情などの情報を集め対策を練ることができるセクションが必要です。）

○災害対策の各部署が職員に把握されていなかった。

災害対策の部署が把握しきれないために、とりあえず252会議室に市民を案内する場合が数多くあった。（ひどいときには、自分の部局の担当でありながら、市民を252会議室に案内してしまう職員もいた）

○各部署間の連絡がとれていなかった。

各部署の対策が、他の部署には全くといってよいほど伝わってこなかった。

伝わってきたとしても、その目的など重要なところが欠落していたことが多々あった。

○毎朝毎晩 局長会議をしていたのに、情報が下に降りてこなかった。混乱の中で市民に対して

結果的に誤った古い情報を提供したことが何度もあった。

○出勤してこない職員が多かった。職員のほとんどが被災している中、個々の事情があったと思うが、今でもわだかまりが残っている。

○課長補佐が出てこなかった。（遠方から来ている主事もいたのに）

○管理職の能力不足がもろに表われた。

指示もしないし、自分も動かない。そういう管理職があまりにも多かった。それでいて、自分の上司にはごまをすり、4月の異動で昇格している。

○調査班の調査のいいかげんなこと。

「責任をもつ」と言明した局長が全く責任をとっていない。苦情が全庁に及んでいる。

○災害対策本部の指揮者の所在が不明であった。

各部の照会に対して、部長連が揃って「俺にそんな事をきかれても知らん」の返事で、責任放棄している。

○各部署は電話受付に配置を

各部署にTELをつないでも呼び出し音のみであり、TEL受付はそれなりに配置すべき。

○災害本部は消防に設置を

災害本部は平常業務として救助活動している消防関係に設置すべき。

○管理職である責任者の勉強不足

もっとときばきとした組織体制がほしかった。

○情報が著しく変更しました。

情報伝達がいちじるしく変り、とても市民の苦情が多かった。職員として、もっと確実に情報



してほしかった。

○職員が少なくアルバイト、ボランティアの人達のかつやくで補助された。

○トップは非常時の対応特訓を

聞いた話ですが、震災直後に道路の渋滞にもかかわらず、苦勞してやっと運んでくれた救援物資のトラックが到着した。ある局長が物資の保管場所や他の準備も出来ていないので、持って帰ってほしいとトラックの運転手に伝えたい。そばに居た部長が見かねて、私の責任にて荷物をおろすと局長に言い、ことなきを得たとのことです。これがもし、本当であればマスコミでたたかれ、全国民から西宮市は何を考えているのかと言われ、肩身のせまい思いをしなければならないような所です。

この件などは、典型的なトップの認識不足で、非常時の対応特訓をする必要があると考える。

○トップの対応のまずさは、現場職員と市民に被害

仮設住宅の件ですが、新聞紙上でよく見ましたが、対応のまずさを二度・三度と謝罪していましたが、一番困るのは現場の職員であって、トップの人はもっと真剣に考えるべきで、今回の経験を今後に生かすべきと思う。

○災害時のマニュアルがあれば対処しやすかった。

○出勤や勤務態勢がころころ変更されとまどった。

○任務分担の不備

被災状況の事務について何をどうしていいか任務分担の不満。

○仮設住宅入居決定通知の不備

入居決定がしているのにボランティアが連絡ミスをしたとかで、1ヵ月ぐらいこちらからTELするまでほっておかれた。ボランティアを指揮する方がしっかりしてほしい。

○全体をつかめる「地震ノート」を作った

出勤できた職員だけで出来ることから始め最善を尽さねばならないので、誰が見ても全体をつかめる「地震ノート」を作った。

○災害時は必要な「プロジェクトチーム」を中心に

住民としてはライフラインの確保等役所からの対応が、届かない不安があった。

本当に必要な仕事のできる人たちで「プロジェクトチーム」を作って、そこを中心に動いたらよいのではないかと思った。

○使うことのできる震災対策計画の作成を

水防計画以外の震災対策をした。計画書が机上のものであったので、「実施できる計画書」にする必要があると思います。

○ローテーションの確立が必要

ローテーションが確立されないため、一部の職員に負担がかかった。

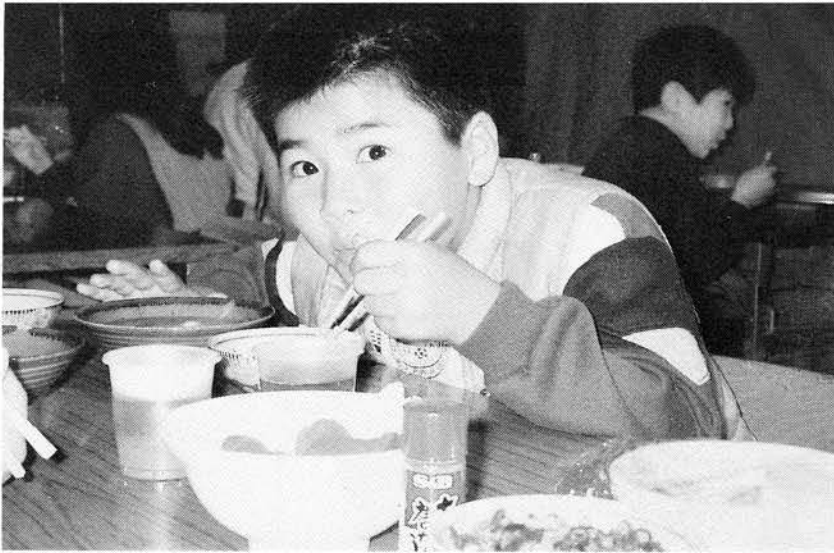
○不要業務は早期に終結を

不必要になった業務が、いつまでも継続され、職員の疲労に結びついた。

○業務手順が不徹底

業務の手順が、職員内でも徹底できておらず、そのため市民への対応も、スムーズにいかなかったり、不備な点が多かったと思う。

○市民との対応の仕方がわからず



普段の仕事と異なっているのに、仕事内容がわかりにくい。市民との対応の仕方もわからなかった。

- 災害事務を事務分担表に登載してはどうか。  
今後とも、今回の震災のように突然に、何の予告もなしに生じる災害は十分に考えられる。日頃から、職員一人ひとりが、自分の災害対策の組織と事務内容を知っておくことが必要である。（できれば、事務分担表にそうした項目を加えておくことが望ましい。）
- 職員向け防災教育が第一  
知識も何もないまま、実務に就かなければならぬ。指導面、マニュアル作り等、職員の教育が第一だと思う。
- 日頃の防災研修の不足

日頃からの防災に対する研修がいかに不足していたか、今回、思い知らされた。

- 地震対策には必ずマニュアルを  
マニュアルなしの震災対策となった。地震災害は、ほとんどが前ぶれなしにおそってくる。それだけに、なおさらマニュアルの整備が求められると思う。
- 早期人的確保も欠かせない。  
震災後、ボランティア活動が本格化するまでの間、昼夜を分かたず到着する救援物資の搬入、分類作業のために多くの職員が自らの担当業務をいったんとめてまでも携わった。今後の災害を考えた場合、物資を集める場所の確保と共に人的な労力の早期確保も考えていくべきだと思う。

### Ⅲ. 労働条件面からの問題点

- あちこちの部署で、人手が足りないという声を聞いている一方で、応援は超勤単価の安い嘱託職員か臨時職員でと言われた。お金の問題ではない。正規職員としてとてもやりきれない気分だった。女子職員でも泊りをすると申し出たが、あてにされなかったのか、仕事の割り当てがなかった。
- 避難所には、ケアの必要な高齢者や障害者がいるのに、ケースワーカーや保健婦が家屋調査にかり出されるなど、担当に専門性がいかされていない。  
西宮の手話通訳者は、阪神間の中でも聴覚障害

者の安否をいち早く把握できたと聞いているが、実際のところ嘱託身分のまま正規以上の仕事をこなしている。災害時には建物ばかりでなく人的援助が非常に重要なことから、福祉分野の専門性をきちんと評価して人を配置すべきだ。

- 市民対応の窓口に応援職員を配置して、本来の担当者が後方にひっこんでしまう傾向があったのではないか。業務内容を知らない者が苦情を聞きとり、再調査にまわすパターンが多かったように思う。
- 部署によって忙しすぎる場所とそうでないところがある。又、本来業務のできない部署で、



名前だけ有り、実態をともなっていないところがある。又、プロジェクトチーム等を発足させている所がいくつかあるが、職員が抜けたところをカバーできるよう、考慮が必要だ。

本人と周囲の人に負担がかかるだけだと思う。

- 職場が壊れたのに代替の職場がなかなか決まらなかった。
- 休暇の体制を早い時点で確立してほしかった。またその問題に対して組合が何もしなかった。
- 仕事の量が多い。片寄りすぎる。
- 退職者が4名もの多くの数であるにもかかわらず、人事異動では3名の配属しかない。しわよせのきた係はえらいめいわくや！
- 国・県の補助事業を受け、一定期間内（例えば1～2年）に事業を達成する事業については、それなりの体制を整えるべき（人員増も含めて）復興事業は、長期に渡るものであり、職員の健康も考えて事業実施していく必要がある。
- 職員の増員をおねがいします。（各支所2～4名、住宅、被災者証明等の職場は必要数）通常業務がまわらない状態です。
- 震災を通じてではありませんが、以前より仕事の中味が増えていますが、人員は変わらず、労働条件は過重になってきています。配置基準の定数より実数に格差があり、労働条件の中味が比較にならない程である。平等に考えて行く姿勢か配慮がほしい。
- 将来を見据えた人員確保を
- もともと人員不足の係であり、これからの復興

には、最低2人増が必要。

- 各職場の力関係ばかりで人事をしてほしくない！！
- 通常の区画整理に加え、山口町の市道の災害復旧、環境衛生局の各墓地の災害復旧の仕事が激増した。また今後は、山口町の市所有地の売買が明確に指示されるかもしれないというのに、技師が2人しかいない。これだけの量がすべて重複してくる。上層部や人事はどう思っているかは知らないが。
- 区画整理などの土地買収にかかわる人員不足のため、道路整備に手数がかかりそう。（鳴尾みかげ線）
- 高齢福祉課、障害福祉課は義援金の担当であるが、そのため平常業務がストップしてしまった。福祉は特に震災後、重要である。本来的に人員不足である。
- 1月2月3月、せめて日曜日は休みたかった。これも人員不足と義援金等の支払計画に無理があったのではないか。
- 事故担当（道路上の管理瑕疵）1～2名増。件数が多く、全件が回っていない状況。
- 防災本部の組織編成について、見直しが必要。部局によって業務に不公平があった。
- 保母がほとんど震災関係の仕事をするのがなく、子どもがほとんど来ていない時でも、全く要請がなかったのが不満である。（本庁の人たちはとても忙しく、休みもとれない状況だったのに）同じ市職員として、もっと役に立ちたかった。
- 緊急の場合は、出先の場所と歩いてもしくは、



自転車で行ける場所に変えて勤務出来るようにしてほしい。

- 同じルートで通勤する者が、同一職場にかたよっていると、交通手段が遮断された時、困った。
- 担当が、自己の判断で、応援要請を一本づりしたというケースもあり、これは、組織がいかにうまく回転していなかったかと言うあらわれだと思う。マニュアルのない組織がいかに役立たなかったかと感じるとともに、頼み易いところと頼むという安易な手段により、過大な仕事をおしつけられるケースもあり、人員問題以前に、こういう考え方を直していかなければならないと思う。
- はっきり言って派閥等の問題で判断能力に欠けている人間ばかりが上にたっているの、自分で決めることができないでいる。  
緊急時最も必要な、その状況において、的確に物事を判断できる能力をもった人材を上を上げて欲しい。
- 実際に働ける人間が少なすぎるので何とかして欲しい。
- 上はもっと国なり県なりに道を選んで（阪神間連合して）下が苦勞している現状か補助金業務等に対して、大幅な、簡素化を要求すべき、自分の仕事を（調整後）ちゃんこなして欲しい。
- 職場が遠くてなかなか出勤できなかった。こんな時には近くの保育所に手伝いに行けるシステム作りも必要ではないか。
- 寒いのに暖房がなく自分の家より電気カーペット、ストーブなどをもってきて急場をしのいだ。

できればどの園にも緊急物資をおいておいてほしい。

- 税務の還付担当していた人が、当初より一人ではできないと上司に伝えていたが、上司はアルバイトを増やし、人数は増やしたが、職員の適性な配置をしなかった。そのため残業と精神的ストレスのため倒れ、現在1ヶ月休んでいる。
- 災害業務で、徹夜が続く頃、「女は徹夜もせん。お茶くみもせん。」と怒鳴った補佐がいる。お茶くみと徹夜との関連性は何もないし、となりの課では、女の順番に徹夜業務がまわってきて、命令されれば断ったわけでもなく、やっているのに、命令もしないで、徹夜しないからと女を責めるのはいかなるものか。当初女も力仕事だからと拒否した人は誰もいなかった。
- 税務は食糧以外の物資を担当していたが、地震後数日は、食糧や飲料水の搬入がほとんどだった。庁内放送があったこともあり、手の空いている税務の職員が、正面玄関で、水などの搬入もしていると、「命令以外の仕事をするな」と戻された。その日は一日中何もすることがなかった。税務部長自ら、手伝っている職員を怒って呼び戻したケースもある。
- 市外居住職員が非常時に出勤できない（交通機関の不通）のに、ムリな配置が平然と行われている。（消費生活課は塩瀬支所に配備されている。）実際に動ける体制に早急に改めなければ、機能しないと思われる。
- 近くからの通勤者は、職員は1名、あとはすべて臨時で当初きりぬけた。臨時さんがありがた



かった。しかし、こんな時すぐに走って来れる職員もいないと公営施設としては、無責任すぎる。臨時さんに守ってもらったでなく、職員ががんばったと言える人員配置をしてほしい。

○災害事務の応援に行った！ 本庁は実に大変であることを実感した。

今後も、緊急時できる範囲で応援したい。

○西宮市内の職員が少なく、いざという時には役所の近くの職員をもっとふやすべきではないか。

○震災発生と同時に、交通網は遮断され、出勤不能になった時、近隣の職場への出勤等の指示があれば、混乱（特休等）も少なく、よりはやく職務に従事できたのではないだろうか。

○水防で決められている対象者が出勤して来れなかった。

個々の事情はあると思いますが、来れる状態にあっても、個人の判断で来なかった職員と、全ての個人的事情はさしおいて、出勤した職員と……。特休の付与方法についても本当に大きなムジュンを感じました。

特に委員会の人事の超勤・特勤のつけ方・特休の付与についての指導はあいまいで、何故本庁と同じような、指導ができないのかと不思議に思いました。

○震災前、本庁舎内では、保管庫の上に保管庫をのせるなど、苦勞してスペースを確保していました。それが、今回の震災でものの見事に転倒しました。もし、あの地震が勤務時間内であったら、私たちはすさまじい光景を目の当りに見たことになったと思います。

それが、震災後5ヵ月が経過した今も、何の改善もされることなく、今までどおりのレイアウトになっている職場を目にします。

管財課を含め、もう少し安全管理にも目を向けるべきではないでしょうか。

○万一勤務時間中に、震度5以上が発生した場合、ロッカー等が倒れたりして、多数の職員が死傷するのは充分過ぎる程想定される。安全対策がなされておらず、笑い事では済まされない。費用的にもさしたる出費ではない筈。

○職場と課との連絡のとり方を見ていて、ファックスがあればいい事が多々とあった。

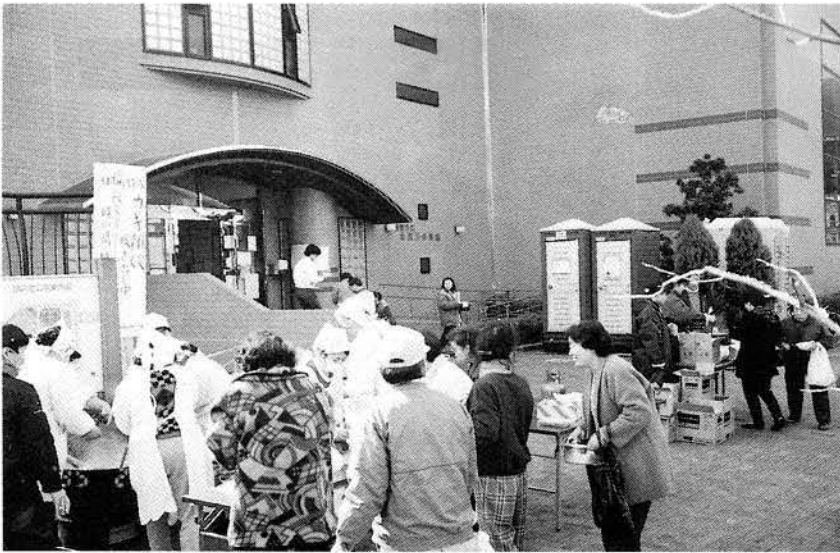
○屋内倉庫がなく、保育の細々とした物を事務室では入りきらないので廊下や保育室に置かざるをえない。これらが震災時に倒れたり落ちたりで大変だったが、棟つづきになんとか倉庫が作れないか？

○上と関連して、保育室の安全性を考えて、今職員室は物がいっぱいである。以前から休憩室がなく職員室の一部をイスを置き、休憩コーナーにしていたが、そこもすぐ物でふさがってしまう。休憩室はぜひ必要である。

○特休のことだが、夫婦とも働いている場合、子どもの学校・保育所等が休校の時は、どちらか一方の親を特休扱いにできないのか？これも家族の命を守るという意味で十分特休の内容であると思います。

○暖房手段がガスだけだったことで寒かった。

○それぞれの本来の性格が出てきていい勉強になった。



○女性ばかりの職場で、水の確保など限界があります。

保育所など人命を預る職場には、必要な物資や援助を導入できる体制を今後とってほしいです。ボランティアの方でもいいです。とにかく命令系統のすっきりした形での導入をしていただきたいと思います。

○災害関連の心のケア、子どもへの事業が全国各地から申込みがくる。

その対応を安易に当課へもってくる。全国各地からくるので件数も多くなる。震災後、仕事がふえた。

○震災による業務が増えてしまうのは仕方のないことだと思う。

しかし、忙しい部署とそうでもない部署との差が激しすぎるのではないか。

○かなりの職員が「超」長時間勤務を余儀なくされた。

2月にはいつてからも36時間勤務（午前9時から翌日の午後5時15分まで勤務する例）する部署もあった。

これでは、職員が体調をこわすのはあたりまえ

であって、当時人事当局がこの実態をどの程度把握し、どういう解決策を打ち出したのか、今は忘れてしまったが、今後のこともあり、再度聞いてみたい。

○ある職員が春の異動で職場を変ったが、震災直後に関係していた建物解体対策室の手伝いしていたため、多忙との理由にて現在も引続き解体対策室の仕事をしている。兼務辞令も出ていないので、明らかに異状としか考えられない。もっと明確な人員配置をするべきと思う。

○職員に対しての食糧確保について、確かに市民への食糧供給が優先されることが、常識かと思われるが、その救助活動を行うサイドが飲まず食わずでは、活動そのものがストップする。この辺についてのトップの指示は非常に弱い。（人事課などの部門が担当してはどうか。）

○保育所からは同じ福祉局がうけもつ被災者証明の応援に交替で出ていたが、避難所になった保育所等への応援等もできればと思った。

○震災後に職員となったので、申し訳けありませんがわかりません。

#### IV. 西宮のまちづくりに対する意見

○西宮市民は、従来よりおまかせ定食に慣れているところがある。本来まちづくりは、市民主導が理想的なのではないかと思っているが、今回区画整理に伴う都市計画審議会においても、市民がどうしてほしいのかが見えにくい。今まで

と同じまちに住みたいという住民の気持ちもわかるが、それでは、今回のあるいはそれ以上の地震の可能性のある中で、また同じ被害を受けなければならない。復旧をしてから復興というのではなく、同時に進めていかねばならない。



すべての住民が納得するまで区画整理等をすべきでない」と主張している人たちもあるが、それでは近い将来に地震があった場合、また尊い生命を失ってしまう。西宮のまちを愛するなら、住民エゴにふりまわされず、かつ、住民の意見を聞きながら、同じ地震がきても西宮市民の生命も生活も守れるまちづくりをしなければならない。

- とにかく住民の声をよく聞くこと。  
そして賛同を得てから、取りかかるように。  
行政の先行はやめて下さい。
- 今迄住んでいた人たちの意向を十分くんでの区画整理や再開発を進めてほしい。
- 公営住宅をたくさん作ってあげてほしい。
- マンションの防火用水（地下）を、生活用水として使用したが、神戸のような火事の場合を考えると耐震性のある防火水そうの整備が本当に必要と思われる。水は命。
- 出来る事なら区画整理はすべきである。  
消防車も入れない道があってはならないと思う。
- 北口の再開発地区が個性のある街になってほしい。カレッジタウンにのるわけではないが、勤労者が学べる市民大学が開設できないか。
- 緊急時におきざりにされてしまう災害弱者に対しては、緊急時だからこそ、いち早い安否確認、援助体制が必要になってくる。地元と協力して福祉担当者が救援にかかわれるようなネットワークマニュアルを作成しておくべきではないか。
- 美しい町づくりには賛成です。
- 広い道路ばかりにとられるのではなく、住民

本位に、緑豊かなまちづくりをしてほしいと思います。

たとえば、普段は緑地帯にしておいて、緊急の場合は救急車、消防車等の緊急車両のみが通れる道にするとか。

住民の立場に立った区画整理をすることが、市民の同意を得られるものと思います。

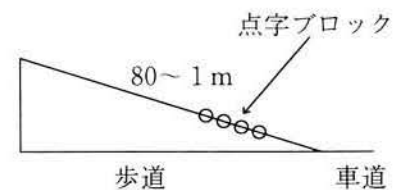
- 市の職員として、また被災した立場の者としてしっかり、じっくり、ゆっくりと復興していったほしいと願います。
- じっくり見通しをもって取りくむことが大切だと思います。だれもが自慢できる“西宮のまち”ができてほしい。
- 老人世帯などが安心して暮らせる公共住宅を民間地の買い上げなどによって、できるだけ市街地に作るべきだと思う。
- 再開発はいいことだが進めてほしいが、入居に対してあまりの高額のため、市の負担をのぞむ。
- 復興には、若い人の力が必要です。若い人が多く住める、住宅を供給しなければなりません。
- 震災にそなえて、区画整理や再開発など復興事業が進められていますが、反対する人もいるのではと思います。無理に進めていくのは私はどうかと思います。
- 区画整理は必要なことだと思うが、そこに住んでいる人、又、住みたいと思っている人の思いが、十分にくみとられた上でのまち作りを考えてほしい。
- 住民の要求、要望を住民に聞き、納得のいくものであって欲しい。



- 自然をこわさず、大切にしたい町づくりを願う。
- 既成概念にとらわれない、独創的なまちづくり。
- 住民の意見を尊重しながらも、どうしても譲れないところは思い切ってやるべきと考える。
- 下手な考え、休むに似たり、大阪第1～第4ビルの例あり。  
コンテスト方式で、広く募集すれば多少の出費であっても、結局安あがりになる。
- すべての人にとってBestな状態というのは、ないだろうけど、住みよい街にしてもらいたいものです。
- 住民の意見を十分に聴くべきである。
- できれば市民の声を、細部まできいて欲しいと思います。市民不参加のまま復興はあり得ない。納得のいく説明や計画を広く公表し、話し合いのもてる機会をどんどん作って欲しいと願います。  
難しいことはじゅうじゅう承知ではあるけれど、私達が生きてゆく場所なのです、2度と悲しい思いをしないように努力する必要は充分あると思います。
- 現在、東高校グランド下にあるような、飲水を貯留する施設を各所に設置してほしい。  
街路樹がある歩道を増やしてほしい。
- 用地の買収等について、被買収者から代替地等を要求されるが、市として、何を優先（どの事業を優先）するのか一定の方針が必要ではないか。
- ただ、道路を広くすればそれで良いものではなく、通過のための道路であれば、かえって渋滞

を招くおそれがある。その例として今回の国道2号線や43号線は現在も渋滞中である。それより、地域のための生活道路や公園及び災害時の避難場所等に重点を置くべきと考える。また、甲東瓦木工地区画整理で地元の反対勢力に押され、中津浜線の中央部分を緑地帯とし、一時期にむだをしたと思う市民も多くいた。

- 非常に細かいことですが、この際やってほしいことは、歩道と車道の高さをできるだけ一定におさえていってほしいことです。特に狭い歩道の場合、危険なので車道へ降りて歩いている人もみかけます。これだけ傾斜があると、とても危険です。



- 特に雨天の際は、すべるので傘をさして、すれちがうのは大変です。段差は少なくして下さい。
- 公園や道路を広くとり木を植え、地下に貯水タンクを完備しては  
仮設住宅も平屋だけでなく、もう少し高くしてはどうか。  
市内のすべての公園に仮設が建ち、子どもたちの遊ぶところも少しは確保してほしい。
- 公園を出来るだけ多く作り緑の木々を植え、自然との共存の街作りになればと思います。
- ある程度の広さを持った道路は必要だとは思いますが……。
- 道路をもっと広くしてほしい。通勤時間がすごくかかるようになったので、北部（名塩）から



の道をもっと整備してほしい。

- 現在、交替で避難所へ当直にいつている。避難者の中にはいろんな人がいる。圧倒的多数の人は善良な方であるが、一部「非常識」な方もいる。その人の対応におわれることが多い。避難者の中には仮設があたっているが、現在の避難所のいごごちと比べて避難所にいすわる人もいる。避難所や仮設住宅の「すみごち」をよくすることも側面から見れば問題があるのではないか。そこを出ない。自分で次の努力をしない等々。定年まであと10数年であるが仮設を出る用途かざし、その上仮設のいごごちがよければ、何年先に仮設もすべてなくなるかどうかわからない。役所をやめるまでこういう状態がつづくかもしれないと思うと……。
- 仮設住宅に住んでいる高齢の方、特に1人で生活している方に対しての暮らしやすい施設をこの際作ってほしいと思います。仮設住宅のおふろはお年よりにとっては大きくまたいで入らなければならない等使いにくいものだと聞いておりますし、その他諸々不都合なことも多いと思います。戦争と言う大変なことを経験し、大変な時期をささえ、今高齢になってこの震災であまりにも

そまつな生活条件では……。

- 避難所、仮設住宅、道路、下水道、公園、教育施設の復旧業務、区画整理、再開発等復興事業も大切ですが、これとあわせて震災直後は誰もが同じ気持ちに立てていましたが、現在はかかえる問題が、個々明確になり悩みが個別化していると思います。それゆえに悩みも深く、あげくの果てに自殺と言ったことにもなりかねません。きめこまやかなカウンセラー的業務の充実も考えすすめてほしいと思います。
- 1月16日に行っていなかったサービス以上のことはせんでもよい。自分が世の中で一番不幸と思っている人が多すぎます。建築審査や官民境界、固定資産など今後忙しくなる部署に職員を増やして下さい。
- 組織で仕事をしているので、自分の考え方と違っていてもトップ判断でしなければいけない仕事もある。但し、そのトップ判断が二転三転しているのが現状では、職員ましてや市民の合意がただちに得られるとは思われない。  
トップ もっとしっかりせい!!
- 能力のある人間がもっと総合的に市民と対話してまちづくりをすすめて欲しい。

☆ 1月17日(火) 阪神・淡路大震災  
あの日の行動

●あの瞬間どういう状況で、どう感じ、どう  
思われましたか？

(自宅の状況 etc.)

- すごい揺れを感じ飛び起きた。
- 夢のような感じで、何が何かわからなかった。  
家の中の物が、すべてこわれていた。
- 家がたおれて、死ぬかと思った。
- ベッドで寝ていたら、ゴーという音がして、何  
かなあと思ったら、ベッドからほうり出されて、  
タンスがたおれて、死んだと思った。
- グラグラとした時は、たいしたことないと思い  
ましたが、その瞬間ドンドンときてもう死ぬか  
と思った。
- すごい、家がつぶれる。
- あの時は地獄を見たと思いました。
- 死ぬかと思った。
- いきなりで、何がなんだかわからず、飛び出し  
た。
- 家族の安全。
- 寝ていて、とつぜん地震がきて、家の中のもの  
がたおれたり、こわれたりして、ほんとうに死  
ぬかと思った。
- 家ははげしくゆれ、身に危険を感じ、もうダメ  
かと思いました。
- 自宅には特に被害もなく、大きな地震だと思っ  
た。
- ベッドで寝ていたから、シャンデリアのガラス  
が揺れて天井に当たり、割れた破片が顔に当たっ  
て目が覚めました。“一瞬何が起きたのだろう”  
と思いました。
- あの日は、5：30頃に目が覚めて、しばらくほ  
～として、又すこし眠っていたが、あのゴー  
とうなるような音で、アツと思い、たて揺れと  
横揺れで、死ぬと思った。
- 窓を開けると外は真っ暗で、懐中電灯をもって  
外へ出ると辺りの木造住居はぐしゃぐしゃに倒  
れ、今まで見たことのない風景にア然とした。
- すごい地震がきたなと思った。
- 自宅が激しく揺れ、全壊した。その後、家族を  
救出し、近所の人々の救出に走り回った。
- 頭の上に物が落ちて目が覚めた。2階で寝てい  
た妻子、無事たしかめ夜明けをまった。
- アパートがつぶれたと思った。
- すごい振動でタンスやテレビが倒れた。まだ寝  
ていたので何が起こったのかわからなかった。
- 戦争のようだった！
- 飛行機が落ちたと思った。
- 一瞬のことでただ呆然。
- 住居が全壊で住むところが心配。
- 何事が起こったのかとびっくりした。タンスや  
食器棚が倒れ、ガラス片がとびちった。
- 家中のタンス、食器棚、本棚すべて倒れ、足の  
踏み場もない。おそろしかった。地獄だと思っ  
たが、そんなバカなという感じ。揺れている間  
「やめてくれ」とさげんでいたと思う。
- ベッドの中で就寝中、揺れにおどろいた。
- わけが分からなかった。



- 恐怖が大きかった。家族の心配（家具などの倒れ）、下敷き。
- 家が半壊の状態、タンスが倒れたが、家族はみんな無事だった。
- まず、外に出た。家が全壊。
- 水屋が倒れた。TV（16inch）も台から落ちた。
- こわくてこの世のおわりと思った。
- びっくりしてすごいと思った。家の中より外に出た時びっくりした。
- 家は全壊、こわい。
- タンスがたおれ、32インチのワイドテレビと、オーブン、水屋の食器などふっとんだ。びびった。
- バクダンが落とされたと思った。
- 自宅、寝ていた。何がおきたかわからなかった。
- 自宅は全壊。
- 今までは地震とは無関係と思っていたので、まさかという気持ちだった。
- 自宅で寝ていた。飛び起きた。戦争かと思った。
- 全壊になった。
- 地震の時間が長く感じた。
- 家の一階で4.5帖程の洋室、高さ60cm程のパイプベッドで一人で寝ていた。窓ガラスが割れたので目が覚めて、ゆれを感じた。直後に電気が切れて、暗くなり夢かと思った。
- 家で寝てて、おどろいた。
- 暗闇の中で不安で、動けなかった。
- 洗面所で顔を洗っていた。一瞬何が起きたかわからずにとまどった。
- タンスの下敷きでパニック状態。

- 何が起こったか、わからなかった。
- 家が傾き逃げようと思った。
- 朝方でよく寝ていてドンという音とゆれで、とび起きた子供にふとんをかぶせ、その上から物が落ちるのをふせぐのでいっぱいだった。
- 突き上げるような振動と横揺れがしたと思うと、タンスが自分の上に乗ってきた。死ぬかと思った。
- 妻をかばい、タンスの下になったが、何がなんだかわからなかった。
- 寝ていて、いったい何が起こったのか… ドンー そのあとすごい横揺れ、ゆれが止まるまでは動くことが出来なかった。
- タンスなど家具が倒れて、食器類がこわれた。
- 一体何が起きたか、わけがわからなかった。
- ステレオや家具などが倒れ、すごい地震だなあと思った。
- 寝ているところでした。高層住宅の13Fだったので、そのまま建物が倒れてしまうかと思いました。
- 寝ていたとき、地震が起こったけれども、あまりにも眠ったかったので、又寝た。でも兄におこされ、それでおきた。あまりすごい地震だと思わなかった。
- 30秒前に目が覚めて地震が起きたのがわからなくて、ラップ現象かと思った。
- 自宅全壊。大きい地震と思った。
- まだ寝ていて、目がさめ、阪神高速が落ちているのを見て映画のシーンのように思えた。
- 前日より旅行に行っており、関東地方で地震を



- 知った。最初は状況がわからず子供のことが一番気になった。
- 下から突き上げられてすぐに目をさましたが、急に横揺れが始まり、すぐにおさまると思ったが、何がなんだか分からない状態でした。
  - 今までにない揺れを感じて、目が覚め、ベッドの上で揺れがおさまるまで何もできなかった。さいわい自宅の被害は少なく無事でした。
  - 2、3日前からカゼをひいて寝ていたので、何がおきたか、わけがわからなかった。関西地方には地震が起こるとは思わなかった。
  - 何が起こったのか、わからなかった。一階がくずれて、倒れると思った。家の中は、すべて散乱していた。
  - 揺れがあまりにも大きかったので、死んだなあと思った。
  - あ～地震や、と思って子供の上に乗った。
  - タンスの下敷きになって、動けなかった。
  - 自宅のベッドで寝ていて、地震の起きたときは、何が何かわからなく、電器が頭の上に落ちたので、とんでもないことが起こったんでな、と思った。
  - 死んだ。
  - タンスが倒れたり、照明器具が落ちたりし、あまりにも異常な揺れなので、このままでは「家が壊れる。早く止まってくれ」と思った。
  - 家がマンションの1Fで、寝ていたところを地下の方から、かいじゅうのような大きな生物が地面を突き破って出てきたのかと思った。その後強い横揺れで起きることができなかった。
  - 家が全壊して何もかも失った。ガレキに埋まって上半身に全部のっているし、何回死ぬといったかわからない。動いたのは足だけだった。死んでたまるかと思った。どれくらいの時間かかったのか分からなかったけれど自力で出てきたら自分の家だけがつぶれて情けなかった。誰も助けに来てくれなかった。
  - 水なし、ガスなし、食べ物は全然手に入らなかった。仕事をしていた者はなお手に入らなかった。風呂には入れず、洗濯もできなかった。赤ちゃんのいる家庭ではオムツが手に入らなかった。
  - 働いていたので給水時間に間に合わず、水がもらえず困った。液状化でガス管が駄目になり、2カ月ぐらいガスが出なかった。
  - 食器棚が倒れ、食器が割れ、冷蔵庫が移動し扉が全開し中の物が落ちた。ベランダの窓のカギがふっとんで落ちたり、書棚やタンスが倒れ、部屋の隅々までガラスが散乱していた。玄関ドアもそりかえり下駄箱も倒れていてすぐに出られなかった。直後から非常ベルが鳴りっぱなしだった。
  - 阪神高速道路倒壊の側にあるマンションでジェットコースターに乗っている状態でした。家具は全部倒れ、食器戸棚の下敷きで割れたガラス、せとものの中からはい出しました。主人はテレビが横から飛んできて大怪我をしました。
  - 余震が毎日のように続いたので恐かった。
  - 食料品の買い出しは尼崎とか大阪方面にしていた。
  - 兄弟、姉妹に良くしていただいた。



- 地域的なこともあり、物が落ちたり、食器棚が倒れるなどしましたが、電気もガスもその日から通り、水は1週間近く出なかったため、確保は必要でしたが、他市に比べ助かりました。
- 地震だとは思ったが、これほどひどいとは思わなかった。
- バスに乗っていたのでわからなかった。
- 寝ていた。地震と思った。
- タンス、食器棚、内壁のくずれ、瓦の落ち、ずれ、外壁のくずれ、風呂場のタイルのずれ落ち、など、その他。
- バクダンが落ちた。
- 起きてすぐの状態の時に大きな揺れなので、何がかわからず家財の下敷きになっていた。
- 寝ていて、タンスが倒れてびっくりした。
- 寝てた。びっくりした。
- 目が覚めたとき「地震だ」と感じた。起きあがろうとしたが、ゆれが激しく、ベッドに頭からフトンをかぶって揺れがおさまるのを待った。
- とりあえず家から逃げた。
- 起きたときで、もう、死んだと思った。音、揺れ、家がつぶれてしまうと思った。
- 下から突き上がるのが2回あり、それから回転するような何やらわからんような振動が大分感じた。
- 普通の地震でないことを直感した。
- ドーンと音がした瞬間に上に飛ばされ、何が何だかわからなかった。すぐにグラグラと横揺れが始まり地震と思った。次にメキメキと周りから音がして家がつぶれると思った。
- ゴォーと地鳴りとともにたたき起こされたと同時に激しい揺れがきた。地震だーと感じた。さいわい家は壊れなかったが、水屋が倒れたので台所の整理をした。
- 状況は寝ていた。瞬間はトラックが突っ込んだと思った。その後地震だとわかり子供をかばった。自宅は室内はメチャクチャで玄関はつぶれ、ベランダから出入りをした。
- アッ地震やと思った。
- 兵庫県で47年間住み、あんな地震は初めての経験なので、ただ驚いた。と恐ろしかった。
- 爆弾を落とされたと思った。友達の家で寝ていたので自宅が心配だった。地震の直後マンションから下におりて周りを見たら、ほとんど土ほこりと、けむりとガスのにおいがしていて、あちこち燃えていた。
- ドカンといった瞬間にテレビ、サイドボードが倒れ、足に落ちた。妻と子供と一緒に寝ていて、助けてといた声が出た。2人はタンスの下になっていた。
- 家族みんなよく寝ていたので、一瞬何が何だかわからなかった。とりあえず、家族全員の安全を確認したかった。
- 高層住宅なので飛行機にひっかけられたと思った。
- いまだにない経験をした。
- 寝ていたが最初の揺れで目を覚まし、恐くて何もできなかった。
- 全焼。
- 何が起こったのかわからなかった。



- 体の上にタンスが倒れてきたので、天井が抜けて家もつぶれたと思った。
- 当時西宮協立病院の集中治療室で入院中で看護婦共々「あっ地震だ！」と恐怖におののいた。薬品の棚が僕のベッド際へ倒れてきて、僕のベッドが端から端へころげていった。
- ちょうど起きる時間で、よっころしょと体をあげた瞬間でした。自宅は三田ですがかなり揺れました（自宅はカベ等がヒビが入り一部損壊）。去年の11月から猪名川の群発地震が、まともに三田にもあり、大きな地震が来るんじゃないかと話をしていました。
- 「ドーン…」とものすごい音と揺れで、家がつぶれると思った。
- 子供の声で目が覚めて、真っ暗の中を家族の方へいった。立った瞬間、かべが真っ黒なのに前後に動くように感じた。
- （全壊）家が傾き、外へ出たとき2階が1階になっていた。考えるとぞっとする。
- 海外旅行中。
- 恐ろしい。家屋半壊。
- 何が起こったか、ラジオを聴いてびっくりした。
- すぐ飛び起きて、外へ飛び出した。そして夜が明けるのを待って具体的なことを考えることにした。
- たまたま起きたため、すぐ安全な場所に移ったが、いつもなら熟睡している時間なので、そのまま寝てたら、大ケガをしてるなと思うとゾツとする。
- 大変恐ろしい。思っただけでも背筋が寒くなる。

- 家がつぶれると思った!!
- びっくりして怖かった。
- 何が起こったのかわかりませんでした。家の壁じゅうがひびだらけで、とにかくビックリです。
- 家がこわれて、外に出ると近くで火が出ているし、周りも家がこわれて、だんだん恐ろしく思った。
- どうなったのかわけがわからない。
- 真っ暗な上、目が悪く、特に何も見えないので、とにかく怖かった。このまま地割れして家もつぶれてしまうと思った。この世の終わりと思った。
- ドドンという音で目を覚ましました。人形のケースが上から落ちてもう少しで頭の上に落ちるところでした。本当に命があって良かったと思いました。
- 文化住宅に住んでいて、全壊、ガスもれしてかなり、ガス臭かった。とにかく、その場から離れたかった。あたり一面くずれているところばかりで怖かった。
- 公休日だったので、まだ眠っていましたが、ひどい揺れでびっくりして目が覚めました。
- 早出だったので起きていました。揺れが激しくなってきたので、こたつにもぐりこみました。怖かった。
- 寝てました。覚えていない。
- もう起きる頃と思っていると、大きな揺れがきたので、いつもと違うので、階下の義母をみにゆくと各部屋ともに足の踏み場もなかった。
- これは大きいな地震だぞ。危ない。立っていた



- が座り込んだ。
- もう起きようかなとしているとゴッーときこえ、何？と思うとグラッときた。
  - これでもか地震。
  - 朝仕事の用意に起きようとしていたところへ地震が起き、体がふるえた。玄関のドアがあかなくて外に出れず、近所の人でドアを開けてくれた。
  - 食事の用意、身動きが出来ずこわかった。
  - 自宅で寝ていた。地震とは夢にも思わなかった。
  - 今となっては「うそ」のようです。まだまだ解決しない問題がいろいろありますが、気ながく焦らずに生活していくしかないと思っています。
  - 何が何だかわからなかった。タンスが倒れて足と手を痛めた。
  - 今までに経験したことのない揺れで、ただ恐かった。
  - 今更、思い出したくない。
  - 大きな揺れだと感じましたが、あんなにひどくなっているとはその時わからず、懐中電灯で部屋を照らし出して、これは大変なことだと思いました。
  - 寝ていて、物が割れる音に目が覚めて何事が起きたか、自分の家だけかと思った。
  - 寝ていたのですが、突然、体が宙に持ち上げられ、たたき落とされたが、何がなにやら分からない内に横揺れになり、初めて地震と思った。タンス、鏡台等々が部屋を埋めつくした。
  - 3連休を利用して息子のいる長野へ行き、夜中に帰り、夜中2時に就寝して3時間半後ドーン、その一瞬正月より置いてあった机に頭を突っ込み静まるのを待って、気がついたら私が寝ていた机の上に大きなテレビが落ちていてビックリ。
  - 自宅にて寝てた。気がついたら、たんすが上に乗っていた。
  - 親子3人川の字で寝ていたのですが、建物全体が、止まりかけのコマのように揺れていました。我が家は12Fある団地の8Fですが、家具はすべて倒れ、100kg以上ある水槽に穴があき、家中水浸しになりました。
  - 夢か現実かわからなかった。
  - まるで、夢を見ているようでした。家の中はひっくり返っていました。何の情報も入らず、テレビで被害状況緒を見ていました。
  - びっくりした。タンスなどが倒れていた。部屋の中メチャクチャ。
  - 自宅で寝ていました。あばれ馬に乗っているような感じ。家がつぶれる〜と思った。
  - 自宅で就寝中、激しい揺れで目覚め、子供をかばう。揺れがおさまるまでは何が何だかわからず気がついたら足元のタンスが倒れていて、隣の部屋の本棚が電灯をひっかけてガラスが飛び散り、手のつけられない状態だった。
  - 自宅の2階で就寝中だったが、ものすごい揺れで飛び起きた。家具など倒れ危険だったためすぐ逃げる。
  - 寝ていたが飛び起きて、すぐに止まると思った。
  - AM7:00野出勤に会わせて身支度をしていた。揺れが来たとき、地震だ…と考える余裕があり、



ストーブを消して布団にもぐった。壁が落ち、立っているものすべてが倒れた。我が家は文化住宅の2Fだったのでもうこの家にはダメだと思いゆれがおさまってすぐ懐中電灯を手の外に出た。

○寝ていたが強いゆれで目が覚め、地震と思って布団の中にもぐったらタンスが3つ倒れてきたのがわかった。

○すごい揺れと共に食器のこわれる音で、何がどうなっているのかわからなかった。

○こわかった。(10名)

○びっくりした。(3名)

●一番初めにとった行動は？

○ガスの元栓を止めすぐに外に出た。

○近所の人助けに走り回っていた。

○タンスの下敷きになり無我夢中にタンスをのけました。

○家族の安全を中心にしました。近くの老人を公園に連れて行きました。

○奥さんの無事確かめた。

○とりあえず、家から飛び出した。

○家族の無事確かめて、とりあえず外に避難した。

○家族で避難。

○身内の心配。

○家族を誘導して、階下にいる母親を助け出していた。

○タンスをおこした。

○外に出た。家族をさがした。

○隣近所の救出。

○立とうとすると、すごい揺れのため立てず、ただ布団にくるまっていて、揺れがおさまるのを待っていました。

○とりあえず早く(3分後まで)親元へ電話(通話可、3分後不通)入れた。

○明るくなるのを待って外に出た。

○家族を全壊した自宅から運び出した。

○妻子が公園に避難。私は室内のタンス、机、テレビ、冷蔵庫等、おこしてから出勤した。

○部屋の中を見回し、近所の安全確認をしてから7:00~家のかたづけ。

○玄関を出て周りの様子を見た。

○嫁の上にかぶさりかばった!

○自分の車、家族を心配した。

○必要品を持って外に出る。

○住居探し。

○明るくなるまで待って家の片づけをしながら電話がつながるか何度もためした。

○家族と別の部屋で寝ていたのので、家族のいる部屋へ行こうとしたが、タンスがじゃまでなかなか行けず、子供の名前を大声で叫んだ。

○親、親類、兄弟が心配で見に行った。

○娘に電話。

○釣り具の安否。

○割れたガラスを片づけていた。

○家族の無事を確認し、大丈夫だったので、すぐ外へ出た。

○みんなの無事を確認してから、すぐ家を出た。

○親類に連絡。

○車が動くかどうか確かめた。





- 人命救助。
- 懐中電灯と携帯ラジオを探した。
- 家族をかくまった。
- 炊飯器に火をつけたときで、何もかもわずすぐに消しに行った。
- 1Fで寝てたので妻の身をかばった。2Fには子供が、何かわからんけど言うてた。
- 両親の家（神戸市中央区）にいたので、すぐ部屋をできる限り片づけ、自宅へ向かった。タクシーを探して石屋川まで来たが、橋に段差が生じていて先へ進めず、タクシーを乗り捨て、神戸市東灘区の自宅まで歩いて帰った。その日はまる1日自宅の整理に追われた。
- 子供等は大丈夫かと声をかけた。
- 朝になって、家の外に出てみると、尼崎の私の町内は家屋の倒壊はなかったので安心した。
- 家族、両親、兄弟の無事を確認、そのままAM 7:00頃職場へ行った。その日は帰れず。
- 目の前の洋服ダンスを押さえる。その瞬間となりの整理ダンスが頭を直撃。後はダンスの下敷き。妻も子をしたにひき、またもダンス。どうにか引きずり出し、とりあえず合い鍵を車につけていたので、車にエンジンをかけ、夜が明けるまで待機。
- 家族の心配をしました。家は大丈夫だったが中はパニックだった。
- 車の中に電気を取りに行った。
- ダンスを起こそうとしたときにガスのにおいがあったので、そのままにしてガスを止めに行った。
- 妹が大きなダンス3つの下敷きになっていたの

で引っ張り出した。

- とりあえず外に出ることだけ考えた。
- 子供の部屋に行く。
- 子供、嫁の確認。電気のブレーカーを落とす。
- 両手両足を縛られていたので何もできなかった。
- 子供部屋へ飛んで行きました。
- 立つことも這うことも出来ず、ただふとんを被りじっとしていた。
- 家族4人で窓側に行った。太陽の出るまでの時間がむちゃくちゃ長く感じた。外の方も人の声がしていたり懐中電灯の明かりが見えていた。
- 家の下敷きになった人を救出した。
- 海外旅行中。
- 家の片づけ。
- まず水をエビス神社に取りに行った。
- 家の外に出て避難した。
- 朝家の整理をしていたが、時間になり出勤した。
- 家族みんな大丈夫か声をかけた。
- 人命救助。
- 家がつぶれて、家族を助けるので、必死でした。
- とにかく子供とふとんの中でおさまるのを待った。それからローソクを探した。
- 少し夜が明けて明るくなってから起きて家の中を見回りました。
- ケガしている人を病院に連れていったが、相手にされなかった。
- 家の周りはそうひどい状態ではなかったので、そのまま休んでいました。
- 家族が落ち着いてから、チーフに電話を入れました。（西宮もひどい状態とは思わなかったの



- で早出を誰かにお願いするつもりで!!)
- 仕事の準備をして出た。
  - 母の無事を確かめ、電気がすぐ通じたので母を安全な場所に移動させて、仕事に行く。
  - 子供の名前を呼び無事なことを確認した。
  - 子供を毛布にくるんで一番安全だと思った車に連れていった。
  - ドアを開けに行った。
  - 子供をおいて仕事に行こうと思って用意をした。
  - ガスの元栓をしめるのが。
  - 家族のケガなどの状況。
  - ガスの元栓を閉めた。
  - 揺れがおさまるのを待って何故か電気をつけようとした。
  - 娘の家が倒れるか、家具の横で寝ていたので、家具の下敷きになったのではと思い、玄関を破って表に出、車で娘宅まで行きました。
  - AM5:55頃職場に駆けつけ入居者に異常がなく自分の避難場所に行く。
  - ふとんからの脱出(10分ぐらいかかったと思う)。
  - 年寄りがいるので、この10階からどうして逃げるのか、その前に玄関に置いてあった灯油がこぼれ灯油の海、大火事になうのではと恐かった。
  - 懐中電灯を探した。
  - 主人がまずガスの元栓を止め、電気のブレーカーを切りました。私は子供を抱いて、ふすまを足下にしくようにしてから家の外に出ました。近所に一人暮らしのお年寄りがいたのでその方の家へ救助しに行きました。
  - 身内に安否の確認をするため、公衆電話に並び

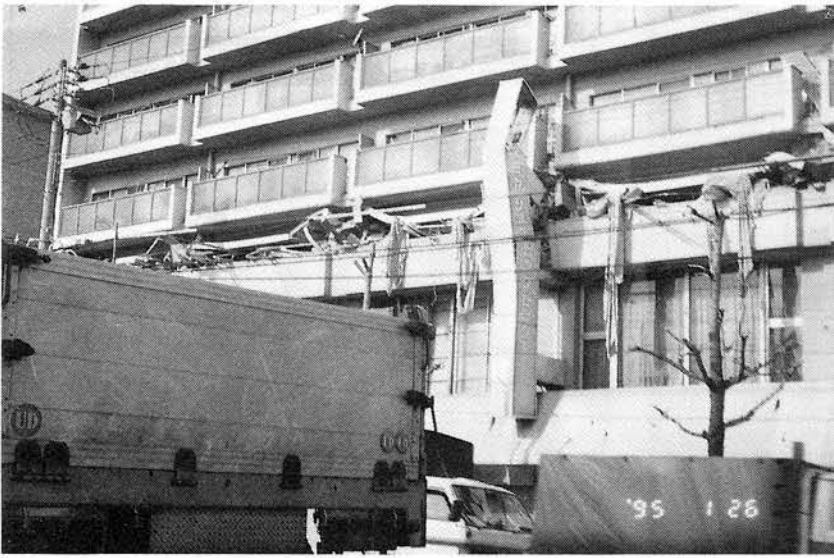
ました。沢山の人が並んで、寒い中、順番を待ちました。

- ふとんを頭からかぶって、丸まっていた。
- 様子を見て外に飛び出した。隣の家がおじさん一人暮らしだったので、気になり声をかけ安否確認する。
- 身の安全を確認しながら避難する。
- 立ち上がった。
- 子供がいるので子供に寒くないかこうをさせ、とにかく外に出ることを考えた。階段がくずれかけてあぶなかった。
- 2階にいたので1階の両親が心配になり、何とかタンスの下からはい出して下に降りていった。
- 割れた食器の片づけ。
- 家族の無事を確認した。(20名)
- 外に出た。(12名)

### ●それからどうしたか?

(その日、1日のだいたいの行動)

- 公園に避難して、親戚を助けに行った。夜は小学校のグラウンドで朝までいた。
- 近所の人を小学校の避難所へ。
- 家の方は家族にまかして、親元に行った。
- 家族の安全を確認して、簡単な片づけをした。
- 消防団員ですので救援に行きました。2週間ぐらい。
- 若竹会館に避難した。
- 親、兄弟の無事を確かめた。
- 外ではハプニングで、色々とみんなで語り合った。
- 家の中のものに片づけて、小学校の体育館に避



- 難していた。
- おばさんたちを助けに行った。
  - 人命救助。
  - 助け出した親の病院にいた。
  - 家族、自宅共に被害もなく職場に出勤。
  - とりあえず、親と一緒に大事な物だけを持っていとこの家に行き、みんなで避難しました。
  - 身内の安否の確認。
  - ガレージの壁がくずれていたので車は出せなかった。家で帰り近所の人を救出に行った。
  - 妹、友達の家を見に行った。
  - 近所の人々を救出し、平木中学校に避難した。
  - 出勤したが仕事にならず自宅待機となった。公園に避難（17日～19時朝まで）。
  - 隣の家の片づけ。
  - 家の前が学校なので、学校の校庭に行きそこで避難した。
  - 車で外の状況を見に走り、親戚や友達の家を訪ねた。
  - 15分後職場に向かったが、道路がめちゃくちゃで高速がおち、火災がひどく途中で引き返した。
  - 職場の様子を見に行き、家の片づけ。
  - 住居探し。
  - 身内が安全か確認をとりにバイクで走り回り食事などさがしまわった。
  - 近所に住んでいる両方の親の安否確認。それから職場に電話し「出勤の有無」「自宅待機」言われたので、子供達を近くの小学校へ避難させた。
  - 親類が埋まっていたので救出に行っていた。
  - 親族などの無事を確認しに家族みんなで歩いていった。一度家に帰り集会所へ避難した（約20日ぐらい）。
  - 近所の様子を見た。
  - おさまってから、家の中へ戻って、ある程度片づけをした。余震を気にしながら逃げる用意をして家でくらしした。
  - 親、友人、等の安否を確認してから仕事場に行った。
  - 水、食事の対策。
  - 避難所（27号棟）にいたが家を見に行った。
  - 親や弟のことが心配で家へ行った。
  - 親戚の家が全壊のための後片づけなど。
  - 近所の人々の救出。
  - 倒れている家具類や、飛び散ったガラスの処理をした。自転車で親類宅を廻った。
  - 親類の安否確認。テレビ・ラジオで情報収集。食料・水の確保。
  - 家族を家から出して、市民体育館へ行った。
  - 自宅及び妻の実家の安全確保。出勤。
  - 避難所に家族で行き、その後家に戻り倒れた家具などを片づけた。
  - 娘、祖母などの家へ様子を見に行き、自宅の片づけ。
  - 実家へ行って家族の無事を確認し、避難所へ行った。
  - 家の片づけと食料で回った。知人、友人も気になったので見回った。みんな家がこわれたりしていたので、手助けをして回ったが、ほとんど何もできなかった。



- 外に出て近所の状況を見て、アパートが壊れて下敷きになっていたので、助けてから、家の近くの職員の状態を見に行き、職場に行った。
- テレビでニュースを見て、職場に出勤し車輛の確認と東部工場のピットにあがる道の確認、職員の電話連絡。
- 真っ暗の中、服装を整えて（パジャマのままなので）、くつをはき外へ出た。少し明るくなるまで待った。家の中がめちゃめちゃになっていた。
- 妹の家に行って、こわれた物を出したり、水など食品など買いに行った。
- TVで状況確認。
- 親戚の家に片づけに行った。
- 8時頃出勤しましたが、何人も出てきておらず、仕事の出来る状態ではなかったので、午前中はとりあえず待機して、午後は親の家の方に様子を見に行きました。
- 空も明るくなってきて、家が倒れてたのを見て驚き、人が埋まっているのを見て、おどろいた。その後（昼ごろ）は学校に避難した。
- お姉さんの主人とおばあちゃんが亡くなったので、いそがしかった。
- 週休で休み。生き埋めの人を確認。
- 常時、TV、ラジオの放送を聞いた。交通情報などが気になった。
- 親の家が近いので、すぐに行き安否を確かめ無事だったので、若竹会館の方に避難をしました。
- ちょっと落ち着いたのでTVを見て、すごいことになっているのでびっくりした。水が出ないので店に買い出しに行った。
- まず家を出て、車で待機し、家族に会い、学校にいました。
- 妻の実家（豊中）に連絡をとり、被害がなかったことの確認をとって、車で豊中に向かった。
- 近くの人が埋まっているので、とりだし、マウス、マウスをした。家の下敷きになった人を4～5人助けた。
- 実家の様子や親類の家を見に回った。
- 普段は人気のない地区なのに、あの日はいっぱいいて、ワクワクした。自転車でそこら中を見て回っていると親戚の人にあって「早く親元に帰れ」と言われた。
- 両親の家の近所の家が数件壊れていて、身の回りの品物を持ち出すのを手伝った。その後腰の骨を折った人（後でわかった）の救助をした。
- 近くにいる弟の無事を確かめた後、車のキーをさがし、ラジオを聴いたり、明るいうちに足の踏み場のない家の中を片づけていたり、2時間も水をもらうのに並んだりした。
- 職場に行って、帰れと言われたので帰って、家の片づけをした。
- 救出。
- 親元に行って安否を確かめ家の片づけ。
- 病院へ行く。家の片づけ等。
- ジタバタ。
- 夜が明けるまで全員、揺れ戻しがくるかもしれないと思い、フトン等でくるまってじっとしていた。
- 仕事に出たけど、途中で帰った。



- だいたい家にいた。
- 身内の状況の確認。
- 近所に住んでいる両親の無事を確認し、すぐ出勤した。上司が誰も出勤していなかったので他の職員からの電話に対応し、いったん帰宅後、午後より対策本部に出向き物資輸送、遺体収容に従事した。
- 近くの公園で待機、おばさんが埋まっていた助けた。
- タンス、仏壇、テレビ、水屋、冷蔵庫等散乱で立て直した。
- TVを見まくって状況判断をした。近所周りに声をかけるのと、仕事場及び親類へのTELをしまくったが全く通じない。
- 家の中の家具がめちゃくちゃでしばらく呆然と立っていた。少し家の中を片づけて仕事に行かんとあかんと思ひ、職場に連絡をする（AM10:00）「すぐ出てこい」と言われ、家をほっといて仕事に行く。
- これは普通の地震ではないと思ったので、通常の出勤時間より早く家を出て、尼崎市内は、大したことはないで西宮市内に入ってびっくりした。
- 家族の無事の確認。バイクで両親、兄弟の確認。家の片づけ。
- 電気がつかなかったので、家族一つの部屋で、じっと電気がつくのを待った。震災がくるかと思ひ、自分だけは両親の家を見に行く。
- 友達の家を部屋を片づけ、すぐに西宮に帰った。R43がボロボロで芦屋の橋が（R2）50cm位う

いていた。1時間ぐらいかかった。家が建っていたので良かったと思ひながら家の中の片づけで1日が終わった。

- 家の片づけをして子供と一緒に仕事場を見に行った。その日は何人かの人が出勤していたので会社で待機していた。
- うちの瓦が隣の家（3軒連棟）の通路に落ちていたので、すべて取り除く。家の中の片づけ、使える物はすべて持ち出せるようにまとめる。飲み水をもらいに行く。
- 親・兄弟・親戚の家へ向かった。そして親（実家）で祖母（90才）と、従兄弟の子供（12才）の死を知らされた。それから、5日間門戸幼稚園で家族と一緒に避難した。
- タンスを支える。家族を避難所に移す。職場に電話を入れる。
- 隣の家の人命救助。水くみ。
- 落ち着いてから、家の片づけと身内の家へも確認に行く。
- 家族はどうなっているのか心配でたまらなかった。
- 大変迷いましたが、出勤することにしました。妻は「こんな時に出勤しなくても」と行ってきましたが。
- テレビは写らず（共同アンテナ）、ラジオで情報収集につとめた。ライフラインが途絶え、水を近所で分け合った。余震が多かったので貴重な物を手元に置き家の中にいた。
- AM8:00に隣から下の公園にみんな出ていると聞いて子供の服をさがしてラジオを持って公園



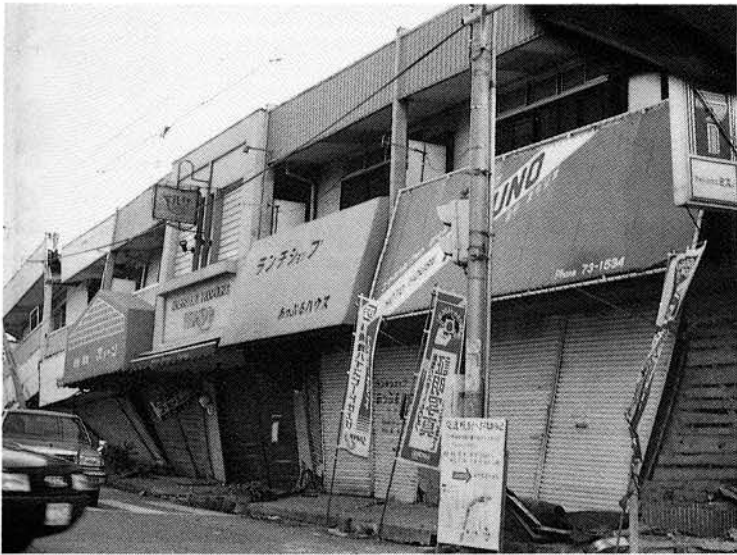
に出た。団地の人はみんな出ていて、それぞれに無事を確認し合っていた。しかし、まさか団地のまわりはそんなにひどくなかったのに指月電機の崩壊を見てびっくり、単車で親の家へ行ってみる。途中文化住宅が1階がなくなったのを見てゾーッとした。親は何とかカスリキズ程度でホッとしたが、家は斜めになっていた。親は集会所へ避難すると聞いて一度家へ戻る。公園に行くと一人の人が顔から血を流していた。ガラスで切ってしまったようだ。電気がついてから家の中にはいるが、靴をはいたまま台所へいかなど、破片のすごさで歩けないくらい。初めて体育館で一夜をあかした。もちろん寝ていない。余震でワイワイする体育館のざわめきは忘れられない。

- ワゴン車で毛布を輸送し、水道水の救援を応援した。
- 海外旅行中。
- 飲み水確保。
- 実家に行く。電気がつかないので宝塚に避難する。
- 親のことが気になり親元へ原付で走った。
- 午前中家の中を片づけて午後から出勤。
- 家の中の片づけ、避難場所の確保。
- 家の中の様子を確認したのち表にでる。全壊の家の人を助けに行った。
- 仕事場に行きレンタカーを借りて、タンクを積んで給水をしていた。
- 家がないので自動車だけ助かったので自動車の中でくらしした。

- 救出・消火活動。
- ガラスなどあぶないので床に落ちている物は、とにかく片づけ、掃除してから職場へ行った。
- ガラスとか足もとのあぶないものを片づけました。
- 神戸にいる知り合いの家に行った。
- 長男の家の方が大変なことになっていたの、そちらの方へいった。
- 自宅を片づけて家からいつでも出れるように車に荷物を積み込んだ。職場に電話（普通）。
- 仕事をしていた。
- 病院には患者がいるため食事を作るため急いだが、ガスがでないため、パンと牛乳で補い、後の食事のことで上司と協力した。
- 外出着に着替え、電池で部屋を照らした。ものすごい。勤務先、中央病院へ行った。7:00着く。
- 家の中を片づけるのに精一杯。
- 夫は出勤、幼児（4才と1才）を抱えどうしようもないので、実家まで行った。
- 窓から外に出て、近くの姉の様子を見に行った。
- 避難所へ家族全員で1日過ごした。
- 足もとの片づけをして後は子供に頼んで出勤。
- とりあえず家族は無事だったので、すぐ職場に行った。
- 仕事へ行って、家に帰ってから部屋の片づけをしました。
- とりあえずガラスの整理をして、体育館に行った。
- とにかく家の中を片づけた。次に親類全員に無事の確認のため電話し、おじの家に行き、夜か



- ら近くの避難所に行った。
- 娘の家から職場まで歩いて10分位でしたので、娘一家の無事を確認してから、職場まで走って行きました。それから入居者の無事を確認し、朝食の用意をし、食事を提供しました（1日中）。
  - AM6:45頃家に帰り、しばらくして職場に行き、それから仕事をしながら2週間避難していました。
  - ①隣の部屋にいる息子を助けに行く。②近所の人たちの安否。③すでに出勤していた夫の安否。④四国の両親に、皆無事のTEL。⑤出勤。
  - 灯油を片づけ。年寄りを交替におぶって階下まで、女で一つで子供を育て住宅ローンを払い続けた家が、ビルがくずれたことで、気持ちは放心状態です。
  - 外の様子を見ながら親戚の家の様子を見に行った。
  - 身内の安全を確認したのち、昼過ぎまで車の中で様子をうかがっていましたが、しばらくして近くの学校へ避難するため家に戻り大まかに片づけました。避難場所へ着いたのは夜になりました。
  - 出勤する父を、阪急石橋駅まで、車で送りました。雅楽荘に電話して、大変な様子なら出勤するつもりでした。変則勤務なのでその日は休みでした。家の片づけをしました。
  - 職場に行き無事かどうか確認。まず年寄りの朝食を出した。
  - ガラスを片づけた。2時間後、職場へ向かう。
  - 勤め先へ行き、少し手伝ってから親戚の家を回った。
  - 近所の家が、生き埋めになっており、2人は助け出したが、男性はすでに亡くなっていた。全壊した家が何軒もあり、近所の人たちが集まって、炊き出しなどして今後どうするかなど話し合う。
  - 避難所で待機。親戚にTEL連絡。
  - 風邪をひいたので少し片づけてすぐに祖母の家へ行き休んだ。
  - AM7:00から出勤のことが気にかかり、まず電話をかけに行ったが電話が通じず、仕方なくしばらくは近所の人の中ですでに寒さをしのいだ。その後父が車で心配してかけつけてくれ、その車で仕事場まで行き、入居者、職員の安否を確認した。その後自宅にもどり、明るくなってから家中の片づけをした。家の整理はついたが壁はおち、戸も閉まらない状態であったので夕方になって父の家に身を寄せた。
  - 夜が明けるまでとにかく待ち、周りの家が倒れているのを見てショックを受け、近くの親類の安否をTELなどで確認し、家の中の危険物を片づけた。
  - 出勤をする前に、荘の年寄りが全員無事の知らせをいただいたが、いつもより早く出勤した。
  - 一応出勤した。（10名）
  - 家の片づけ。（20名）
  - 仕事についてはどう考えましたか？  
（出勤する・出勤しない・出勤出来る・出勤出来ないetc.）
  - 出勤できる。（4名）



- 出勤できない。(72名)
- 出勤する。(13名)
- 妻と子供2人を避難さすことしか頭になかった。  
両親がいないため。
- 何とか職場に行きましたが、家の心配で、すぐ  
帰りました。
- 家の心配は別になかったので、出勤すれば何か  
することがあるだろうと考えました。
- 庁舎がダメと思ったが、午後3:30ごろに公用車  
が走っているのを見て、18日から出勤しました。
- 自宅は神戸だったので道は滞り2、3日出勤す  
ることが出来なかった。
- 考えられない状況であった。
- 仕事のことなど頭になかった。
- まず仕事には行こうと思った。
- 出勤できない(負傷、足)。
- 家がある程度片づいたら出勤しようと思った。
- 出勤するつもりだった。
- とりあえず行ってみた。
- 突然出勤できないし、状態ではなかった(水の  
確保・けが人の助けetc)。
- その日は出勤できる状態ではなかった。
- とりあえずは出勤するどころではなかった。
- 出るつもりでいたが、家の片づけなどで行けな  
かった。
- 妻が妊娠中だったので仕事には行かず一緒にい  
た。
- 職場へ行く方法。朝早く自宅を出る。通行可能  
な道をさがす。
- 家族、親類などのことが気になっていたので、

- 仕事には行けないと考えた。
- まず、家の片付けでした。
- 通常業務が出来るか、出来ないか心配で出勤し  
た。
- 出勤したかったが出来る状況ではなかった。
- 状況が、神戸、西宮など火の手が上がっていて  
子供を残して仕事に行く状況でなく近くの人  
の手助けなどで手がいっぱいだった。ガス漏れが  
ひどく、どこで火の手が上がるかという気持ち  
が強かった。
- 考える余裕がなかった。
- とりあえず職場に出勤。
- 家が壊れ、出勤できる状態ではなかった。
- 出勤する気持ちにならなかった。
- 仕事場がどうなってるか電話確認。
- 仕事は出勤しなくていいだろうと思った。
- 出勤する(ケースバイケース)。
- 出勤していない。
- 交通網が名古屋までしかなく、帰る状態ではな  
かった。
- 1.17日の当日は、出勤するとは思ってなかつ  
たので、自分の判断で家族と一緒に1日居りま  
した。
- 出勤できる状態でした。
- その日は、仕事のこと頭にはなかったので出  
勤していない。
- 自宅が全壊で、とりあえずその日寝るところを  
探すのが、精一杯だった。
- 午後3時頃から本庁に行って、死体など運んだ。
- 17日は、出勤できる状態ではなかったし、出勤



- する気にもなれなかった。
- 1週間休んだ。
  - 救助するのに消防署や病院を行き来していたので出勤できないと思い、職場に連絡をとったが、誰も出勤していないとのことでどういうふうに対処すればよいか係長宅へ連絡を入れた。
  - 何度も当日の朝、電話したが、つながらず、昼前に通じ、出勤できないことを伝えた。
  - 出勤しなければならないと思った。
  - TELで連絡をとった。自宅待機の連絡あり、本当は、午後から出勤するつもりだった。
  - 出来るわけがない。
  - 子供たちが落ち着くまで家にいたが、出勤のことを考えていたが、避難所に家族を置いて出勤した。
  - 出勤しても仕事が出来ないと思った。
  - 出勤できたが自宅待機。
  - 出勤する気がしなかった。
  - とりあえずTELをし、自宅待機。
  - 出勤すると言って、家を出た。
  - 行こうにもJRが止まって、私鉄も駄目、2～3日してからやっとスクーターで出勤できた。TELしても全く通じなかった。
  - 市役所に電話を入れたが、通じず直感的に市役所も被災しているかもしれないと思った。
  - 17日AM11:30出勤。
  - 死体収容班であったので、自分のことより、まずこの混乱状態を早く整理することだと思った。
  - 家族のことは両親が見てくれたので、とりあえず出勤した。
  - 家族のことで手いっぱい。出来る状況ではない。
  - 市民のために人命救助の方が先だと思い仕事場へ出勤する。
  - ふと、そういえば、うちの課は（環境衛生課）、死体収容の班とちゃうかな、と思い、明日から仕事に行こうと思った。
  - 次の日出勤すると西宮大橋が通行止めになると本庁からTELがあったので、全員が本庁に出勤するようになった。
  - 仕事どころではない、家族のことしか考えなかった。
  - 出勤しようと思った。
  - 親の家が全壊だったので、出勤は不可能と思った。
  - 西宮浜なので建物が壊れていないか心配だった。
  - ライフラインが途絶えていたので通勤が出来ず（住所は神戸市垂水区）困った。
  - まずは家の中と親の家のことしか考えられなかった。子供はおびえているし、嫁さん一人にはできない状態であった。親のこともあったし。
  - 海外旅行中。
  - 親元が全壊していたので、まずはそのことから、そして本庁に行った。（出勤しない）
  - 近くなので歩いて出勤した。
  - 家の中が一応整理後、出勤する。
  - 何も考えずに出勤した。
  - 出勤できる人が頑張ったらいいと思う。
  - 出勤できる状態でなかった。
  - 公休日だったので、良かったと思った。でも気になるので昼前にやっと思った。



- 家具もひっくりかえったまま、とにかく出勤しました。
- とりあえず職場に行ったが、誰もいなかったので帰った。でもそのあと仕事のことは気になっていた。
- ニュースを見てどうして出勤したらよいのか?!
- 病院には患者がいるし、食事のこともあるので、家はともかくと思い出勤した。
- 勿論行かなくちゃ患者が待ってる。公務員だ。
- 出勤できる状態ではなかった。
- 幼児二人がいるので出勤できなかつた。様子だけでも見に行こうかと思ったが無理だった。
- 午前七時には職場に到着した。非常時は必ず出勤するのが義務と考えているから。
- 出勤すると言って夫におこられた。
- 老人ホームの入居者が心配だったので、すぐ職場に行った。
- 早く出勤しなくてはと思いました。
- 1時間ほど遅れて出勤しました。
- 足と手を痛めたのでその日は出勤できなかつた。
- 4月からの採用なので行かれません。
- 生活施設ですので、どんなことがあっても出勤しようと考えました。
- 住宅も住めるし、なんとか、仕事にうちこめる。
- 公務員の使命と思い、バイクで出勤。
- 妹の家に避難しましたが、三日三晩泣き続け、仕事に行く気力さえなくしていました。
- 出勤できなかつた。
- 避難場所について職場の人へTELしました。実家の仕事場が(自営)全壊したため、子供を預

けることもできず、その日(17日)は、休みました。

- 出勤しないといけないと思った。
- 変則勤務なので、その日は休みでした。雅楽荘に電話をすると、大丈夫ということなので休みました。
- 出勤月だから出勤するのは当然と思った。
- 早く、行かなくては……
- 早出勤務だったので、まず出勤した。
- 子供がこわがって離れず、近所の家を助け出したり、仕事に行ける状態ではなかつた。
- 出勤できる状態ではなかつた。
- 仕事のことが気になったが体調が悪く寝た。
- 絶対誰かが出勤しなければならない職場だったが、家も住めない状態で、小さい子供をかかえ出勤したくても出勤できない状態だった。
- 普段から体の弱い母が動けなくなったり、家も倒れそうだったので出勤はできそうにないと思った。
- 年寄りは無事というのはわかったが、生活の場であるので出勤しないわけにはいかない。

## ☆いつから出勤しましたか?

### ●職場の状況はどうでしたか?

(出勤出来なかつた人については、自宅の状況)

- 当日から出勤した。(9名)
- 地震の起こった週の日曜日から。自宅は土曜日に初めて片付けた。一人で全てやりました。
- 小学校の食事と水の配分等で3日ほどして出勤しました。



- 1月17日もうめちゃくちゃでした。
- 震災2日後。
- 1月17日から2週間後。
- 1月20日。一部破損。
- おばあちゃんがケガしていたので、病院に連れていったり、みんなで避難した。
- 半壊。(3名)
- 自宅は半壊で、親戚の家の手伝いをした。
- 休みが多い。
- 水、衛生が悪い。
- 食事に困った。
- 忙しかった。
- 親が死亡したので安置所にいた。
- 18日。(3名)
- 家の中はめちゃくちゃ。
- 全壊。(3名)
- 職場内の備品などに被害があった。
- 1/18から出勤したのですが、わずかな人数しか来ていませんでした。
- 職員の3分の1ぐらいの人しか出勤しておらず大変に困った。18日。
- 職場は傾いて、今にも倒れそうだった。
- 1月18日から出勤した。自宅は全壊。
- 自宅は全壊で、家族を救出するときに足を痛めた。その後、平木中から亀岡市の方に避難したため、2月13日まで出勤できなかった。
- 入口、階段が壊れ、室内ロッカーが倒れ、建物が傾いていた。
- 1月23日、自分の家の方がひどいので、別に驚かない。
- 家の中でごちゃごちゃになり足の踏み場もなかった。
- 2月より。(2名)
- 2課が傾いていて、2次災害を心配した。
- 1月19日、大変の一事。
- 家の片づけ(全壊)。
- ロッカーが倒れ、庁舎は傾き、ひどい状況だった。
- 1月18日、職員の出勤が少なかった。
- 1月21日に出勤。(3名)
- 1月18日、建物が傾いていた。
- ほとんどの人がいなかった。
- 1月24日ぐらい。庁舎の状態を見て、傾いているので驚いた。
- 家の中ぐちゃぐちゃ。
- 1月18日、庁舎が傾いていたので驚いた。
- 1月22日、あんまり人数が少ない。
- 18日から、最悪の状態。上司の指示がなくなってない。上司がうろたえていた。
- 1月23日から、仕事がえらかった。
- 1週間後より出勤した。あまり出勤率が良くなかった。
- 1月18日、職場は傾いて前の道路は1mぐらい陥没していた。
- 1月19日から出勤、待機ということで指示が正しく下りてこなかった。家具が倒れたがあまり被害なし。
- 1月25日、庁舎が傾いていた。
- 1月19日に出勤。(3名)
- 当日、出勤して、2課庁舎が傾いているのでビツ



- クリした。
- 1月20日、庁舎が傾いていた。
  - 庁舎は全壊。仕事ができる状態ではなかった。
  - 家は傾いていました。物もとれなかった。
  - 少し出勤が遅れたので恐縮ですが、片付けはすすんでいました。建物は傾いていました。
  - 1月23日（月）から出勤しました。
  - 一週間後。（2名）
  - 2日目に職場にTELしが出なかった。子供を連れて職場に向かったが、道路の状態、交通など大変なものだったので途中で引き返し、友人などの家を心配したが大したことできなかった。
  - 17日（火）午後3時ぐらい（人命救助をしてから出勤）、朝出勤している職員に状況を連絡をした。
  - 家が全壊して、後片づけが大変だった。
  - 1人で住んでいるので後始末をしないので1月19日。
  - 18日に出勤し本庁に行った。
  - 現実に仕事をし始めたのは18日から（私が）職場としては17日夜から災害救助活動をしていました。
  - むちゃくちゃ。（3名）
  - 1ヶ月後ぐらいです。
  - 1月18日から出勤した（本庁）。遺体搬送。
  - 1週間後の21日（土）に帰ってこれた。翌日より出勤したが、出勤している職員は半数以下であった。
  - 1月18日から出勤しましたが、来ている人は少人数で、本来の仕事ではなく、遺体収容の作業につき夜中の2時ごろに帰宅した。
  - 職場の方は無事で、出勤してくる人も2～3人いました。
  - 1月19日、実家が半壊なので、自宅、実家の片づけ。
  - 次の日、職員はごく一部出勤していた。
  - 1月19日から出勤した。思ったよりは出勤している人が多かった。
  - 本庁に行った。三課は無事でした。
  - 19日から出勤したが、半分くらいの職員が出勤していた。
  - 電車が動いてから出てきた。連絡がつけられないので、ずっと家にいた。
  - 17日の昼頃係長から自宅に連絡が入り、職場には行かず本庁に来るようにいわれ本庁に行った。
  - 自宅の被害がかなり大きく、住めるかどうかわからなかったなので、その判断が出るまでの間、実家や知り合いのところにいて遠くて通えなかった。1月30日から出勤。
  - 子供のおかずが少ないので、限られた材料で、おにぎりや、味噌汁を作った。
  - 冷蔵庫などが倒れたり、消毒機やガスレンジ、調理台、流しなども動いていた。又、調味料や鍋なども散乱し、足の踏み場がなかった。
  - カセットコンロで、牛乳をあたためたり、あったかいおやつ（ふかしいも、やきいも等）等出来ることをした。
  - 出勤して、まず水汲み（お茶用、トイレ用）職員全員で並び10往復ぐらい。
  - 約2週間の間、牛乳パックで腰掛け、箱作り、



おもちゃの修理。

- 1月30日～給食開始、内容はゆで卵、ソーセージ、のり、ふりかけを交互に。
- 仕事場ではわりと早く水道がとおったため、洗い物はらくだった。
- 寒くて、よくぞ風邪をひかずに仕事が出来たものと思った。
- ほとんどの保育所の電源は改善されていないと言うこともある。
- 職場周辺の家の被害がひどく急遽避難所になった。
- 当日出勤して帰らされた。
- 18日から。職場に行けないので本庁に出勤。
- 次の日から本庁の方へ出勤、職場へは行けず。
- 2週間後。
- 2日後。(2名)
- 1月17日、午前7時頃。
- 19日。70cm以上陥没。機械の故障も多かった。
- むちゃくちゃ。
- 仕事できる状況でなかった。道が割れて通行不能。
- 3～4日してから。幸いにも多少の破損は生じたものの十分生活できます。
- 1月20日より出勤。職場は本庁に移動していて、最初はどのような勤務体制なのかわからず面食らった。
- 17日AM11:30分位。バラバラ。
- 平成7年1月17日(AM7:20出発～10:05に職場)。出勤したら4名ほどトラック(3台)で本庁の対策本部に行っていましたので、対策本部と連

絡をとり、トラックの水道局への貸出(4台)、大橋が壊れて通行止になるので、連絡車、作業車の移動などをやって、夜になってから全職員(環衛)宅にTELを入れるが、連絡が取れたのが数名であった。

- 震災直後。パソコン、ワープロは机の上に落ち、書類、電話などは床に落ち、机、コピー機はそこらへんに動いていた。事務所で電話番をした後、本庁への呼び出しがあった。
- 1月19日。連絡がとれず、とりあえず職場に出勤(西宮浜)対策本部が本庁と知り、いざ出陣。マイカーが4日間浜に置き去り(浜行きの橋すべて閉まる)。
- 1月17日朝9:30に出勤した職場には3名出ていました。職場の事務所は物が飛び、机も移動していた。2月3日は、作業員には連絡をとれる状態ではなかった。
- 18日に仕事に出た。西宮浜の橋がつぶれかけていて、警察が止めていたし通行をし庁舎は30cm位ういていた。
- その日の10時頃。係長、班長がTELにおわっていた。
- 1月26日から(18～22日まで忌引)死体収容をしていたらしい。
- 18日。職場で作業は可能のため本庁で作業。
- 1週間後。ほとんど出勤していた。
- 3週間後。全焼。
- 18日から出勤。数人出勤していた。
- 2日後。てんてこまい。
- 2月20日。入院中。家族が女ばかり(3人)で



おまけにマンションも4F部分なので、給水車に水をもらいに行くのも大変だったし、それを家へ運ぶのももっと大変で泣きたい気分だったらしい。

- 1月17日。西宮大橋もくずれそうだったので怖かった。液状化現象で庁舎の周りが60cm～1m地盤沈下していました。
- なんとか自家用車で西宮に着き1月20日から出勤した。職場が西宮浜だが大橋が渡れず本庁勤務となっていた。
- 1週間ほど、親の家の貴重品などを親類の家へ運ぶので、何日もかかってしまう。あの車と人、人、人のスゴさ、もちろん人、自転車、単車も。本庁へ出勤と聞いていたがなんとか西宮浜へいった。
- 8時30分頃出勤。
- 7.1.20。職場戦場のよう。
- 1月23日（月）から。（半壊）。
- ほとんどの人が出勤してなかった。
- どこから手を付けたら良いかわからないほど、ぐちゃぐちゃになっていた。
- 17日出勤の出来ない人もあり大変でした。
- 職場は出勤のTELあり。
- 何もかもひっくり返り、何から手を付けて良いやらわからなかった。
- 17日の午後から出勤し職場の情報はわからない。
- 親戚の人が何人か死亡したり、家の片付けとか住む場所をさがしたり、いろいろ忙しくて出勤できなかった。
- 別の活動をしていた。

- 次の日から。
- 中病の給食なので朝の食事のことを考えて家はそのままにして出勤しました。
- ガスが出なかったので、電気でまかなった。水もあったけど、食器が使えず、使い捨て、ゴハンよりもパン中心だった。
- 2月1日から、自宅は一部損壊だったのですが、交通状態が悪く、母も身体の調子が悪かった。
- 当日から出勤したが病院は大変な混雑でした。ガスは出ないし、水も制限しながら患者の食事を確保するのに大変だった。
- 1月17日午前7:00から。ロッカーは倒れ、倉庫のビンが割れ悪臭。
- 翌日から（1/17 PM8:00に仕事場を見に行った）。仕事場はきれいに片づけてあった。外も中もむちゃくちゃ（自宅）。
- 4日目から、子供を夫の両親にあずけて出勤。自宅の中はグチャグチャ、ガラスが散乱。
- 地震の次の日から。
- 水道が止まっていた。
- その日1/17の朝、6:40には職場にいった。その日は遅出だったが、とりあえず早く出勤した。
- 事務所は足の踏み場がないくらい、物が散乱していた。入居者は誰1人ケガをせず無事でした。
- 21日から出勤しました。ガスも出ない、水道も出ないの中大変だった。
- 当日から、玄関は下駄箱が倒れ、厨房の中は大型冷蔵庫、その他のものが倒れ、食器が割れ、めちゃくちゃになっていました。
- その日から出勤して入居者の人も落ち着いてい



て安心しました（施設、回も異常なし）

- 当日、朝10時頃。ロッカー等が倒れて、足の踏み場がなかった。
- 4日後、気持ちは放心状態のまま、水は出ない、ガスが出ないため患者に思うような食事を出してあげられない。
- 家具が倒れたりして、物が散乱してた。
- 18日に出勤しました。患者さんを十分に処置することの出来ない状態でした。何から手を付ければよいか、わからない状態でした。
- 当日出勤、物の移動はひどかったけれども破損は少なかった。
- 1月18日に出勤しました。大体の片付けは昨日の出勤の方がして下さっていました。常備食がなかったので心齋橋のそごうまで、車で買い物に行きました。
- 事務所、調理場などは物が倒れていて大変だった。
- 水びたし、詰所は棚がたおれて足の踏み場がない。人（患者さんであふれていた）。
- 電気は消えて、1階は水びたしでした。次々と患者さんが運ばれてきて、先生方も大変でした。器具とかもたくさんダメになっていました。
- 18日より出勤。前日出勤した人たちによって、ほとんど片づけられていた。
- 自宅は全壊、一週間後に出勤する。
- 数人の人が出勤していた。
- 出勤という状態だったのは18日から。が、17日は何度も職場に足を運んだ。自宅は住める状態ではなかったので、父の家から出勤ということ

になった。上司は17日一度も顔を出さず、どうすればいいのか、又他の職員の安否確認の連絡もせず、18日からは、通常の勤務表通りの出勤をしてくれといわれた。

- とにかく一度は職場に行かなくてはと行ったが、家の方が心配で帰らせてもらった。職場は自宅に比べ電気も通じていたので少し安心した。
- 17日から出勤、事務所の中は机などが移動していたが、それを片づけることは、何日かしてからしかできなかった。

#### ●出勤して何をしましたか？

（出勤出来なかった人については、その日の行動）

- 事務室の整理、業務1課の仕事。
- 車が多く仕事はかどらなかった。
- 仮設便所の設置。（4名）
- 午前中、電話の渋滞と、事務所の片づけ。午後には業務第一課の仕事。気だけがはって。
- 正直いって仕事する気がしなかった。
- 救助活動していました。
- 亡くなった人を運んだいた。
- いろいろ。
- 買い出しや、避難場所をさがした。
- 買い出しと、水汲みと家の手伝い。
- 家族を捜しにいったりした。
- 遺体の搬送。（5名）
- 移動便所、遺体搬送。
- ごみ収集。（9名）
- 親が死亡したので安置所にいた。
- 職場内の整理や本庁への応援。



- 1/18の夜中に移動便所を運び、1日中動いていましたが、何かやらなければという気持ちだったので、しんどくはなかった。
- 最初は移動便所の設置、19日の朝まで。19日の夕方から、亡くなった人の搬送。
- 道はいたるところで滞っているので1日2台走ればいいほどだった。
- 平木中で、飲料水と食品の確保。
- 19日出勤、定時収集の作業した。
- ごみの収集。普段の数倍の量で、かなりしんどかった。
- 実家や親戚の家はどうなっているのか心配だったので様子を見に行った。
- 塵芥収集、車の停滞。
- 道路が混雑して業務がはかどらなかった。
- ロッカーなどをおこし、次の指示を待っていた。
- 1月18日は夜中まで遺体搬送、棺おけ搬送、子供の遺体を見て、涙が止まらなかった。
- ゴミの収集。ごみの量が多くて仕事はかどらない。
- ゴミ収集、ひどいと思った。
- 遺体収容。もう2度としたくない。
- 家に帰った。
- ゴミ収集をしましたが、ゴミの量がいつもと全然違い、多すぎて驚いた。
- 片づけ。
- 本庁の方へ行ってから、各所へ行った。遺体運びをした(2体ぐらい)。
- ゴミを混合で取った。
- 遺体運び(初日と2回目)、通常業務(3日目から)。
- 死体搬送。したくない仕事だ。
- ごみ収集。多くてえらかった。
- ごみ収集。ひどいと思った。
- 道路交通のためゴミ集め。
- 保有車両の整理。
- ゴミの収集。日が暮れても続けていた。ガラスなどでよくケガをしなかったと思う。
- 家のかたづけ。
- 遺体搬送。庁舎復旧(道路の段差)。
- 家族を家から出して、市民体育館へ行った。
- 電話対応。その後、遺体の搬送。
- 遺体収容などを行った。
- ゴミの収集をしました。すごくゴミの量が多く、又車の停滞などで仕事が思うようにはかどらず大変疲れました。
- 想像以上の被害に驚いた。
- 震災で死亡した人の遺体を運んだ。
- 上の指示に従って、ゴミ収集、後かたづけなどで大変だったと思う。
- 他の課に電話連絡と職員の対応。
- 自分の家、身内の家、すべて全壊になり、順番にかたづけをした。
- 1月19日よりゴミの収集など粗大ゴミ収集をした。
- 死体を運び、こわかった。
- 昼は職場において電話対応。夜は対策本部で物資の搬送などをしていました(18日)。
- 家のかたづけ、身の回りの整頓、etc。
- 遺体搬送、後ゴミの収集。



- 今までの状況、今後の対応などを打ち合わせ、少数の人員しか確保できななので仕事量が通常の3倍ぐらいになってしまった。
- まさか遺体の収容をやるとは思っていませんでした。それと棺桶を夜中まで搬送したことを思い出す。
- 電話連絡など、午後からは、本庁の方に行きました。
- ゴミの仕事なので、ゴミの量が大変多い。
- 中央病院から各学校へ、遺体を運び、棺桶作り、棺桶を各学校へ運びました。貴重な体験をしました。
- ゴミの収集。人手が足りないので何倍もの収集量を1人で収集した。
- 死体運び、棺桶運び。本当にすごいことになってるな～。
- ゴミの収集。ステーションにはゴミの山が出来ていた。
- 午前中は、いつも通りの仕事をしたが、もっと他にすることがあると思った。
- ゴミ収集の仕事だった。不燃と可能がごちゃ混ぜになっていてめちゃくちゃだった。不燃物を取って重たくて、腰が痛かった。
- 遺体の搬送、毛布、カンパン等の搬送。
- 1/30から水運びや、物資の運搬、給食業務。
- なめとんかと思った。
- ごみとり。
- 救援物資の搬送（避難している人の多さにとまどう）。
- 死亡した人を安置場所へ搬送したり、斎場の運

搬等。

- 帰りたい。
- 職場に着くなり、遺体搬送の仕事についた。
- 家にいた。
- 電話の対応。管理課へ指示を仰いだ。
- 修理。
- かたづけ。
- 出勤したが、誰も来なかったので帰りました。
- 熱が出て寝込んでいました。TVやカーラジオを聴きました。夕方から13Hかけて親類の救出に向かいました。
- 遺体搬送業務に就き、自衛隊のヘリに乗って京都市の仮葬場まで棺を運んだこともある。
- まず、死体収容後、ヒツギとドライアイスの手配と各死体収容施設に全職員（環衛）で、配達をした。4日目より震災避難所の便所の消毒も、あわせて実施してまわった。
- 本庁に呼ばれてからすぐ遺体の搬送業務を行った。初めのうちは、いやだったが、あまりにも被害がすごく、遺体も多かったので、あとは無我夢中だった。
- 遺体関係の仕事。あれがいや、これがいや等言っているひまなし。
- 人命救助と遺体を小中学校へトラックで運び込む作業をしていた。
- すぐにトラック等
- うちの課は差害では死亡者収容班なので本庁にすぐ行った。
- 避難所のトイレの消毒（水が出ないため）。
- 遺体収容。二度とやりたくない。



- 死体運送。親族の方を思うと……。
- 退院後、初めて出勤したとき、職員から死体運搬したり、崩壊家屋の消毒等、大忙しだったと聞かされ、大変だったんだな～と思った。
- 遺体搬送班で遺体を運びました。悲しくて悲しくて涙が止まりませんでした。また、初めて自衛隊のヘリコプターに乗り、京都の仮葬場に行き骨上げまでしてきました。
- まず最初は、遺体収容時にいる棺桶とドライアイスの運搬。2日目以後は遺体収容所から満池谷斎場への遺体の運搬。感想は、まさかこういう仕事をするとは夢にも思わなかった。ただ、ただ大変だった。
- 各体育館や公民館、人の集まるところの死亡した人たちをくるんでいた毛布などを回収してまわった。道の混みかたがハンパではなかった。
- 早く本庁へ行かなくてはと思った。
- 物資の運搬。とにかく車が多く、道路など悪くて通行が出来なかったところがたくさんあった。
- 物資運搬。(2名)
- 食料を取りに行った。
- 1週間ほどしてから出勤。食物の配布。つくづく大変なことが起きたなあとと思った。
- 18日より本庁で救援物資の搬送。
- 死体搬送、衛生消毒等。
- 給水車で朝まで走り回った。
- 給水車であっちこっち走った。道がデコボコで恐いし、めちゃくちゃ寒かった。
- おそろしかった。
- 救出、消火活動。
- おにぎりなど作って食事を出した。とても簡単なことが、一つ一つ大変だった。
- 中病の給食なので朝の食事を患者さんに配りました。暗い階段を1階から6階まで一人ずつパンと牛乳、バナナをくばりました。
- ゴハンの用意、水汲みがめんどくさかった。
- 出勤できなかった。自宅のかたづけ、職場に電話。
- 救援物資を運ぶ。
- 患者の食事の確保に上司が大変だったこと、私達調理士も自宅からカセットコンロ及び炊飯器を持参して患者さんのみそ汁を作り、上司が確保した器具のご飯を炊いて患者の食事を確保。
- 朝食、とにかくパンと牛乳を出した。エレベーターは使えず、階段の電気はつかず、おまけに水浸し、よく5階まで上がったこと、患者のありがたいの一言で頑張った。
- 様子を見て帰る。自宅では外の点検、中の片づけで一日中。
- 当日は子供2人と実家まで行くのがやっと。
- パン食を病棟に配分に行った。
- 食事の用意と片づけ、水汲みが大変だった。
- その日の朝ごはんの準備。
- 地震の大きさを改めて痛感しました。
- ホームの三度の食事の用意をした。
- 食事の提供、後かたづけ(割れた食器、米など)その日からの食料の確保に走りまわりました。
- 調理場の仕事で物がほとんど割れていて後かたづけに大変でした。
- 倒れたロッカー等を起こし、通路の確保と窓口



業務etc（年金について窓口で10件ぐらい受け付けたが、コンピューターが止まっていて質問に答えられない人もいた）。

- 水汲み、水くみ。なぜ300床の患者をかかえた病院で、防水対策と食のたくわえのないのにビックリしました。
- 親戚に家の様子を見てまわって、近所の手伝いなどしていた。
- まず、トイレに便が山のようになっていたのをビニールにうつしました。トイレを大まかに片づけた後、ベッドメイキング、処置後の器具の消毒（水がないのでエタノールで拭きました）後はほとんど毎日、水をくみに走っていました。
- 入荘者の食事の確保。常備食の必要性。
- 朝、昼、夕の老人の給食の準備と、1月19日の食料を確保しました。
- 部屋を片づけまず第1に朝食をどうするか話し準備した。
- 倒れた棚をおこして、片づけ、水汲み。
- 朝の食事を配りました。詰所の片づけを手伝いました。
- 担当ケースの安否確認。水・食料の配布など。
- 休んだ分の仕事の連絡を受ける。通常の仕事。
- かぜのため寝ていた。
- 食料、水の確保。掃除等。
- 停電し（もちろんガス、水道もストップ）、食べ物もなく被害の少なかった親類宅で食べ物だけ分けもらった。
- まず、食事のことを考えなかったらいけないので、冷凍のお餅と食パンを焼いた。

## ☆応援・救援活動について

### ●どう思いましたか？

- 大変助かりました。（22名）
- 大変よくやってくれたと思う。水のありがたさがとくにわかった。
- たいへん人間であって必要と思った。
- 全国から応援やボランティアの方ありがたいといいたい。
- とうぜん
- みんな、一だんとなっていて、感動しました。
- ありがたい（24名）
- ありがたかったし、感動した。
- うれしかった。
- なにも思わない。（3名）
- もっと災害対策をやっておくべきだと思った。
- よくがんばってもらった。
- とても感謝しています。
- 自分は、する暇がなかった。
- 他市からの応援は、本当にうれしかった。他市の車に乗った時、移動中、車の中で、仕事の話、収集方法、組合の話などができ、とても有意義だった。
- 気は遣わなかったが、言葉がわかりにくい。ありがたいの一言につきる。
- よく頑張っていた。
- 大変お世話になりました。
- 大変、助かった。大変助かった。ありがたかった。
- 対策本部の対応が最低。責任者はそれなりの謝



- 罪を全市民にするべき。
- うれしく思った。助け合いがうれしい。
  - 他府県から、多数来ていただき、感謝している。
  - がんばった。
  - 他市からの応援で、仕事ははかどった。感謝しています。
  - 応援に来た人のやる気に合わせて仕事をするとしんどかった。
  - 有難かったが、大変気は遣いました。
  - とても助かり感謝しています。
  - 感謝の気持ちで一杯です。
  - 対象が遅すぎると思います。
  - 自分たちは一生懸命走り回っていたので、その車でとにかくやるしかないと思っていたが、他市の応援で助けてもらった。いつまでかかるかわからなかったと思う。
  - 応援が来てありがたかったが、受け入れ体制で、対応出来ない所があった。
  - とても有難く思いました。(水、食べ物、衣類、日用品など)
  - 他市より応援に来て下さいましたが、作業する場所など教える職員が少なかった。
  - 救援にきてくれて助かった。
  - 大変だとは思いましたが、来る人数が多かったため、その対応に苦労しました。また、色々な人が来るため、中には少し迷惑な方もおられました。
  - ありがたい。地理に慣れてないため、てこずっていた。
  - 寝る場所、休憩場所もない状況の中で不満も言わず作業されました。感謝しています。
  - 色々な市の方が来て、いやな事をいわずに、何にでも、やってくれたのですごく助かったと思う。
  - 三課に関しては別にいらなかった。
  - 業務三課については、いらなかった。
  - よくガンバってくれたと思う。
  - 話をしなかったので、あいさつぐらいしかしなかったが、仕事の面では人手が足りない分を助けてくれたので、だいぶ早く片づいたと思う。
  - 出勤職員の数も少なく、またあれだけの莫大な量のゴミの収集が、できたのも応援のみなさんのおかげです。またライフラインの復旧にがんばってくれた方々にも大変感謝しています。
  - 子供が少なかったので、もっと人を必要としているところに手伝いに行けたらと話しをしていた。
  - 他府県の応援については感謝している。
  - 他市の応援は、予測も出来ない程、多くの方々が来てくれたが、本市の職員の作業に対する気構えが、他市の方々より、悪かったと思う(ガレキ処理業務)
  - 良かった。
  - ボランティアや他市の方々ががんばっていた。
  - 職場の人達は皆一生懸命よくやったと思う。
  - 遅い。
  - ゴミ焼却が出来ない状態。
  - 大混乱に陥っていたが、職員はよくがんばったと思う。
  - 役所に入って、まさか死体を運ぶとは思わなかつ



- た。最初に死体を運ぶ時ゾーとした。
- 堺市、姫路市等近くの自治体、名古屋市からの支援等又県からの支援は、ありがたいと思った。
  - ボランティア、自衛隊、警察、消防、市、他の団体はよくやったと思う。ただ交通規制はダメだった。
  - 応援はすごく助かったが、しきを取る人がもっとしっかりしてほしい。
  - 頭がパニックになった様でしたネ。
  - その時は余り思わなかった。
  - 感動した。
  - ひとつの事をするのに時間がかかった。
  - もっとできることがあったのではないか？
  - ありがたくて、多いに励みになりました。
  - 大変、ありがたかった。誰もが、いやがる事でも率先してやっていた。感心した。
  - まずは、道の確保がとても大事だと思う。だれでも人それぞれの理由があって、行動するからあまりにも、範囲のひろい震災では、動きようがなかったのでは
  - 大変だけれど、するしかないと思った。
  - ボランティア活動
  - 特になし、良い所もあれば悪い所もあった。
  - よくやってくれていると思った。
  - 交通渋滞がひどく思うように走れない。
  - 我々の職場でも命令系統がばらばら、車両使用関係についてはわかった者を1人にしばってほしい。
  - 他の市町村からの応援・救援はありがたく心強かった。
  - みんなの力をあわせれば、何でも出来る。
  - 他市町村から応援があったら行く。
  - 救援の人がおそく、何人かの人が死んだ！
  - 自分には、何もできないと感じた。すぐに行動に移して実行する人はえらいと思う。
  - 他府県の人々応援活動、ほんとうに有りがとう御ざいました。
  - 多くの方が、協力してくれてありがたかった。
  - テレビで放送されているところは救援物資もくばられて良かったと思いますが、私の家の方は、物資もくばられなかったし、スーパーのはん入もなかったので、これからどうしたらいいのかと思いました。
  - こんなに有難いと思った事はなかった。みんなですぐに助けあった思いがする。
  - 非常にうれしかった。
  - うれしかった。衣類、パン等に古いものがあった。牛乳など日持ちのしないものが多くあった。
  - 業者を見直した。
  - たくさんの人に助けていただいたと思います。
  - 民間のスーパーなどが翌日から店を開けたり、水の給水をしてくれて助かりました。
  - とても心強く嬉しかった。
  - 救援物資、ありがたかったです。その中から、色々工夫し、食事を提供することができました。お礼を申し上げます。
  - 世間では、不公平だとか、色々言われたけど、あの状況では皆、良くやったと思う。
  - 各地都市の看護婦さん、学生さんのボランティアの方には大変助かりました。



- 他市からのボランティアさんが、手伝ってくれたことを本当に感謝しても、したりないくらいです。
- とてもありがたかったです。患者さんの身体も拭くタオルが、洗濯できなかつたので、タオルの差し入れは本当に助かりました。
- 本庁の応援に行った際、市民の質問等にどう答えればよいのかわからなかつた。
- 沢山のボランティアの方々に親切にしてくださいました。その時は、救援物資等貰わないと損なような気がしてるので乞食のようでした。今更ながらボランティアの方々に恥ずかしいと思いました。
- とても頼もしく、ありがたく思った。助かった。
- 充分ではない点があると思った。
- 沢山いただいたが、無駄になったものも多かったと思う。
- 市の職員として応援活動をするのは当然だと思います。
- 大変ありがたかったが、地震後すぐの他府県からの泊まりで来られた方々は、水もガスも止まり食べ物もあまりない状態で申し訳なかつた。  
(職場で宿泊を受け入れた)
- わからないものが集まってしているので、市民の方々に申し訳なかつた。
- 他府県市で震災が起こったら応援に参加しますか？
- 上司命令なら応援に行きます。(2名)
- できれば行くと思う。(4名)
- ぜひ、参加したいと思います。
- 参加します。(61名)
- 自分からは参加しないと思います。
- 参加しようと思う。(7名)
- ぜひ参加したい。
- 出来ればする。
- 是非とも参加したい。
- いけるときはいきます。
- まっ先に参加したい。市としても、応援体制を取って必ず行くべきである。
- しません。(4名)
- 行けたら行きたい。
- 参加させてもらう。
- 当然、参加する。
- 応援にいきます。参加する。
- 命令であればいく。
- いけといわれたらいく。
- 進んで参加する。
- 業務として行かしてくれたら行く。
- 参加したいと思います。
- 参加できる状況であれば
- 出来るして上げたいが、家庭の状況で今はわからない。出来る状態であれば、やって上げる事だ。
- 一番に行く。
- 職務命令であれば
- 時間が許す限り、応援したいと思う。
- できれば
- する。
- 状況に応じ出動します。
- 応援したい。



- できたら参加したい。
- もちろん参加する。
- 仕事を休んでまではいかない。
- その状況になってみないと、わからない。でもいやじゃない。
- できる限りの事はやらせてもらいます。
- 行ける状況であれば行きたい。
- 積極的に参加したいと思う。
- できない。
- もちろん。沖縄からも来てくれたので、もちろん行きたい。
- 応援してくれたので、参加しないといけないと思う。
- 応援する。
- 状況に応じて
- 参加するかではなく、参加すべきである。
- 参加できるならする。
- 公務として、要請があれば参加する。ボランティアとしては参加しないと思う。
- 自分達の事が、何ひとつ出来なかった。
- 身体が余り丈夫でないで………気持ちはあるが……
- 応援に行きます。
- 参加するかではなくしなければいけないと思う。
- わからないけれどたぶん参加する。
- 出来る事があれば参加してもよい。
- 上からの要請があれば？
- 喜んで参加する。
- 出来たら応援に行く。
- 何らかの形では、応援したい！

- 時間があれば参加したい。ボランティア活動を見てみたい。
- 是非とはいわないけれど、参加しないと思う。
- できることがあれば、参加したい！
- ぜひぜひ
- その時の状態がどこまで参加出来るかわかりませんが、なんらかのかたちで参加したいです。
- 気持ちはあるが、子供がいるので参加できない。
- 今まで通り、義援金の参加を続けたい。
- 是非参加したいと思います。
- 本当に応援にきて下さってありがたかったので、私ができることならなんでもしたい。
- 仕事にさしつかえない範囲であれば、参加したい。
- 自分のできるはんいの中で、出来る事があれば、参加したい。
- 行かせてもらえるのならぜひ行きたいと思います。
- 健康であれば
- 行けるなら、行きたいと思う。
- はい。体験を生かし、被災した方々が、本当に今欲しい物を自分なりにカンパしたいと思います。
- 職務命令であれば
- 指示にしたがう。
- 仕事の都合がつけば行きたい。
- 仕事が無理だと思う。
- できるだけ協力したい。
- 応援できるような自分の状況（子供のこと他）であれば参加したい。



- 時間や仕事の関係上、都合がつけば参加したいと思う。
- 今回、他の市・県の応援はありがたいと思ったので、私で協力出来ることは、したいと思います。

## ☆仕事をしていて

### ① 苦勞した事

- 道路状況
- 交通のマヒがひどかった。
- 震災で道路が、行き止りが多かった事
- 現場までいく道路と、車のていたい。
- 交通でいたいで、仕事が進まなかった。
- 道がこんで車が走れなかった。
- 風呂に入りたかった。
- 忙しい。
- 普段しない事をした。(2名)
- いつものしない仕事をした。
- 車が進まない。(18名)
- 仕事が多い。
- ふろがなかった。
- 死体を運ぶ時に、重くて落としそうになった事。
- 人手がたりなかった事。
- 新潟の応援車両に乗り仕事をさして頂きましたが、言葉(方言)などで、通じないことなど、肉体的より精神的に苦勞した。
- なかなか、平常業務にもどれない。
- ごみ収集の為、風呂なかった。
- ムチャクチャひどかった。
- 交通状態。市民の文句。取っても取ってもへら

なかったゴミ。

- 皆も一緒に苦勞なし
- 道路がいたみ交通渋滞。
- ゴミのなかにガラス・ガラクタなど一緒に出していたこと。
- 車の大渋滞。最初の頃の食事。暗くなってからの収集。
- 疲れた。
- 他県の人に気をつけて、つかれた。
- 交通事情がたいへんだった。
- ゴミ多い。
- こんさいの為、重いものとかがあつてつらかった。時間も長かった。
- 道路が悪くて走りにくかった。渋滞もひどかった。
- 家がつぶれ、道路がでこぼこで、車輛が走りにくかった。
- 時間に関係なくゴミ集めをがんばった。
- 渋滞で仕事にならなかった。
- 仕事が計画どうり進まない。通勤に往復6時間かかった。
- 市民へ正しい情報を伝えられなかった。
- 人手不足、情報入らない。
- 仕事がおわっても風呂もなく体のつかれがとれなかった。
- 交通停滞と交通機関の破損、身動きがとれない。
- ゴミが多かった。
- 手際よく作業が出来なかった。交通渋滞のため。
- 車両が思うように走れなかった。
- 毎日作業量が、多かった事。



- ゴミが多い。
- 可燃物や不燃物がたくさんでていたこと。
- 他市応援の方々が、職場に泊まり込んでいたので、その対応（食事など）に気がつかいました。
- 家（自分の）がくずれて、精神的にしんどかった。（仕事どころじゃない）
- 道路が悪かった。
- 交通渋滞で思うように作業が進行しなかった。
- 何から手を付けていいかわからない状態だったので毎日が苦労した。
- 車が思いどおりに動かず、仕事はかどらなかつた。
- ゴミ、ガレキ etc. が多いので朝から晩まで仕事になった。
- 散乱ゴミの収集
- 道が渋滞していて、作業がすすまなかつた。
- 考えるひまもなかつた。
- 車が渋滞して動かないので、思う様に仕事ができなかつた。
- いつ終わるか、わからなかつた。
- ゴミの量の多さ。壊れたせとものが多かつたので異常に重い。いくら収集してもきりなく、あとから、あとからゴミが出てくる事。
- 給食内容、調理。
- イ、ガスが全面ストップの為
  - プロパンガスが応急的に必要であつた。カセットコンロが入り、緊急用にかなりの日数使用しましたが、業務用にはボンベが短時間しか持たないので苦労した。
  - 炊飯器、電気ポットが必要だつた。
  - ガスが出たのが、3ヶ月も後だつたので、数少ないカセットコンロで大変だつた。
  - 地震当日に子供が登園したが、保管食量が必要だつた。物資の届くのに日にちがかかつた。
  - ロ、水道が止まって、園で一日中水汲みをした。水がないと集団の為、衛生面で一番困つた（下水が固まってしまった）。給水車が近くに巡回してほしかつた。
  - ハ、保育所の電源は数も少なく、ワット数の量も非常に小さいので、大きな数に
  - ニ、全体の職場で話し合いでのもっと困っている人達を、助けに行けたら良かつたと思つた。
  - ホ、園のトイレが被災者と一緒で、足りないのので、調理室用トイレも職員につかってもらい、下水を流すのに道路の水道管の割れた水をくんでためた水をつかつた。
- 家が全壊したのに救援物資を一度ももらつた事がない。学校に行つてもここにいる人しか渡せないと冷たい返事、どこに行けばいいのか、またどこに言えばいいのか。
- お金がないのが一番困つた、着替の服も何もなかつた。パジャマも血だらけで、着のみ着のままだつた。辛かつた。
- けがの治療をしてもらえる医院がなかつた。
- 家がなかつたので、心がやすまらなかつた。
- なれない仕事でしんどかつた。
- 道がとおれない。
- 慣れない事をしたこと。休憩がとれなかつた。家族と一緒にいてやれなかつたことが残念。
- なれないことした。



- 最初遺体の収容はいやだったが、しだいに馴れてきた。
- 毎日しんどかったし、爆発もしていたのでこわかった。
- 工水ストップのため、川の水で焼却作業した。ガラス、セトモノ、ナベ等混入で焼却作業出来なかった。
- 全く思い通りに焼けてくれないので苦労した。補修補修ばかりやった。
- 棺にドライアイスを入れてくれと言われ困った。
- 電話で連絡が取りにくいのが困った。食事がこまった。通勤でこまった。
- 交通渋滞で時間が計算出来なかった。
- 動きたいのに動けない事が多い。
- トラックで遺体をはこんだことが
- あたり前の事ですので、余り感じなかった。
- 交通が不便
- 家がないため1日1日の過ごし方
- 通勤に苦労。
- 休めなかった事
- 遺体運搬時に遺族を乗せて走っていたので、大変気をつかった。
- 道がこんでいて、何時にどこにつくか検討がつかなかった。
- 色々
- 物資を持って行った時、また同じ物を持って来たと良くしかられた。
- 道路が全壊
- 道が込んでいた。
- 出勤途中の道路状況
- 食べ物、飲み物がない
- 道路の走りにくかった事が一番
- 用のない緊急車両が、沢山走り回って邪魔ばかりして、ハラたった。
- 全部が苦労
- 学校も保育所も休みで、子供をみてもらう人がいなかった。
- エレベーターが動かないので、水びたしの階段を何回も上がったたり下りたりした事。
- 水くみ。厨房がいつも以上に寒かったので、それがイヤだった。
- しばらく出勤しなかったので、わからない!!
- 調理士として、ガスと水道が出なかった事。
- 水くみ
- みずくみ、消毒が充分でなかった。
- 水道、ガスが止まっていたので、水くみが大へん。
- 仕事が思うように運ばない。
- ガスが出ない、水が出ない。お米をとぐのが大変だった。
- 水くみ、水をもつての階段の上がり下がり。
- 水くみ。食事の準備。
- 入浴、洗濯、水くみ、トイレ掃除 (50室)
- 水を運ぶ事。
- 水の確保。
- お茶わんがすべて割れて、アルミホイル使用した事。水くみ、洗物、食事など
- コンピューターの回復まで、具体的な話ができなかった。年金加入者の死亡届を受けた時
- 水などが出ないためそれを運ぶこと、水がない



時の洗い物。

- 水くみが大変でした。普段はなにげなく使っていた水のありがたさが、ひしひしとわかりました。
- 水くみ等の力仕事。入荘者の衛生状態。
- 常備食の必要性
- ガスに頼る器具が多く、電気製品で、食事の準備をするのは非常に大変でした。
- 水くみ、一番しんどかった。他の仕事の応援。
- 遠い所、段差のある所を通っての水くみ。
- 電話、水、ガス特に水の確保に苦労した。
- 水がないので苦労した。
- 不規則勤務なので、休みがとれなかった。
- ホームの入居者が状況がよくわからずにふだん通りの生活をしようとしていた。
- 水・ガスが出ないこと。

## ② うれしかった事

- 少しの善意でも喜んでくれる。
- 作業をされていて、ごくろうさん。
- 家族が元気だった事。
- 自分が仕事をしている事がうれしかった。
- 友人が見舞いに来た。(2名)
- きゅうえんぶっし
- 少しでも人の役にたてて、よろこんでもらった事。
- 心からお礼をいわれた時
- ほとんどが、混合で出されているゴミステーションなのに、分別(もえる、もえない)で出している所があったこと。
- 他市の応援(6名)

- 電車が開通した事
- ゴミの収集の時に「ありがとう」「ご苦労様」と声をかけられた事
- 家族が無事の事。
- 市民の方からの「ご苦労さん」の一言。他市からの応援。
- 1週間後に弁当が出たこと。
- こんな状態で仕事をしていて、市民から声をかけられた時、うれしかった。
- 他人のよろこぶ顔
- ゴミがへっていくのを見ると楽しい。
- ごみがだんだんかたづいてきたこと。
- 応援・救援がうれしい。
- 応援してくれた人たち。
- 市民の反応。ありがとうと言ってくれた。
- 他市からの応援により、仕事が正常に戻るのが早かった。
- 市民から、お礼の電話をいただいたとき。
- 市民からの明るい返事。(3名)
- 震災のあと仕事をして、市民がよろこんでくれたことなかった。
- 他市からの応援。出勤してきた職員で、作業を遅くまで対応してくれた。
- おたがいに震災しているのに、ごくろうさまと市民からの声
- 他市より応援があった事。
- 少ない人数で皆が、夜おそくまでガンバってくれた。
- 他市からの応援はもちろん、課の中で人数が少ない出勤の時でも、みんなが一生懸命やってく



- れた事。
- 仕事することか
  - 職員が、時間も気にせず仕事をしてくれたこと。
  - 仕事できたこと。
  - みんなで力を合せれた。
  - なし。
  - こういう時なのに「ごくろうさん」と声をかけてくれた時。
  - 他市の方の応援とはげましの言葉。
  - 団結していた。
  - ・救援物資でガスボンベやお水を頂いた。
    - ・近所で井戸水をみんなにわけてもらった。
    - ・友だちなどが心配して様子をみにきて下さった。
    - ・職場、友人、家族が無事だったことが何より嬉しいことです。
    - ・身内や他人様の好意など、大勢の方々の親切がとてもうれしかった。子供、孫達がみんなでささえてくれ、心丈夫だった。
    - ・ボランティアの方々がたずねて下さった。
    - ・多くの物資を頂き大変有難うございました。
    - ・保育所にタンクがあまりなかったので、たくさん持って来て頂き、本当に助かりました。
    - ・蛇口をひねって水が出た瞬間「こんなに水って大切なんだ」ってつくづく感じました。
  - 応援、救援活動。お礼を言われた時。
  - 他府県の救援活動。
  - ボランティア
  - 自分が運んだ救援物資を喜んで受け取ってもらった時。他市の応援の職員が大勢来てくれた事。
  - 水とガスがきて風呂に入れたこと。
  - 娘の会社に来る人が、水入りポリタンク4缶もらって来てくれて嬉しかった。
  - あると思うか？これは（愚問）やで、ない！
  - 最初（17日）水、食物がまったくなかった。PM 9:00にようやくカンパンを食べれた。
  - 奈良からドライアイスをもって来た高校生の女の子には感動した。ちょうど、私がドライアイスをとどけ様としている時、ドライアイス10kg位持ってうろうろしていた。
  - ボランティアの人が、助けてくれた。
  - 忙しい合間をぬって、見舞いに来てくれたこと。
  - ボランティアの人達が一生懸命働いてくれたのがうれしい。
  - 困っているひとやボランティアの人のありがとう、ごくろうさまの一言。
  - 色々
  - よろこんでもらえた時。
  - ありがとうと言われたとき。
  - 物資を届けて喜ばれる事
  - みんなの力を合わせてがんばった。
  - 出勤した人だけで、力を出し合って仕事が出来た。
  - ガスがでて（やっと使える様になって）あったかいみそ汁がのめたこと。
  - みんなの気づかいがうれしかった。
  - みんなで支えあえた。
  - プロパンガスをとりつけてくれた事。
  - 2日目にしておにぎりを出せたこと。救援物資の早く届いたこと。



- 救援物資が届き、患者の食事が出せた時。
- 紙コップで熱い汁物を配れた時。
- ガス、水が出るようになった時
- たすけあうことのすばらしさ。
- 水道、ガスが出た時。
- 水が3ヶ月ぶりに出た時
- とにかく水道が出た時。
- お年寄りから三度三度食事ができて、ありがたいと言われたこと。
- 水がなく、近くの水道管が破裂した所が有り何回か水くみした。
- 市民の人から逆に、私達の家族の安否を聞かれ、無事を共に喜んでくれた。
- 家が全壊し、うちひしがれていましたが、仕事があり助かりました。
- ボランティアさんが、助けてくれたこと。
- 充分にお茶もあげられず、一人コップ一杯でも、患者さんに“ありがとう”と云われた時はとてもうれしかったです。
- 年寄りのお弁当の配給が、早くて助かりました。水の確保も助かりました。
- ボランティアの方々の協力
- 感謝の言葉をいただいた時
- 皆が同じ立場だった。
- 救援物資、水がとどいた時
- 水が出た時。ガスが出た時。
- すべての機能がもどった時
- ③ 気がついた事**
- ライフラインの強化。すばやい行動。
- 日々が立つにしたがって、命の大切さを忘れて

- いく様に思う。
- ひがいがひどい。
- かなり、ひがいがひどいなと思った。
- 大変。(2名)
- 震災対策を考える。
- 災害対策をもっとしておく。
- やっぱり助け合いというのは、必要だと気づきました。
- 公務員としての自覚のない人がいた事
- ステーションによっては、もえるもの、もえないものの看板があった。
- 大きな災害に対して簡単に対処できない。
- 西宮市は最低(アホ)
- 職場と市民との連絡が不充分であった。
- 上司の対応が遅れている。
- 効率のいい収集方法を取るためにも、現場の職員の意見に耳をかたむけ、取り入れるべき。
- 市民のゴミの出し方がひどかった。
- 救援活動のありがたさを知った。
- 一生懸命で何も無い。
- 道がなくなったのが困った。
- 応援にきてもらって、助かった。
- いろんな物、燃えないゴミ等もいっしょに集めたのでカマが心配だった。
- すぐに混載でゴミをとるべきだった。
- 連絡の徹底と現状を良く知る事。
- どの地域でも、救援物資をもらうためにならんでいるのをみかけて、改めて震災のすごさを実感した。
- 職員がよく働いてくれた。



- だれかリーダー役になる人が、おらないとだめ。
- 職場内の職員の信頼関係
- くわしい連絡がなかった。
- 出勤できなかつた事。
- 市民のマナーがわるかつた。
- とにかく対策本部からの情報が、全くといっていい程流れて来ず、市民に聞かれても的確な返事をする事ができませんでした。
- だいたいの方が自分の事でせいっぱいだつたと思う。
- 国の負担が少ない。
- 市民のマナーが悪かつた。
- 住民のエゴ、ルール無視に腹が立つた。
- 仕事に来てやってやろうかという者と、どうでもいい者の差が？
- 職員、他市ががんばってくれた。
- いい人、悪い人がよくわかつた。
- この震災はエグイ
- 現場で働く職員の事を、えらいさんはほんまにわかっているんかいな。
- こういう時の対応のマニュアルみたいなものがあれば良いと思った。
  - ・震災、災害が起こつた時の対処の仕方、自分達の行動をどの様にすべきかマニュアルが何もなかつた。今後の為、この経験を生かしたマニュアルづくりが必要なのではないのでしょうか。
- 信じられないくらい、バカな人間がいた。
- 地震はこわい。
- パニック状態になつた時、人間の性格も変わっ

てしまう。

- 上司の無能さ。
- 勉強不足。
- 水が大変重要な液と思ひました。
- 非常時といつて、皆ががんばってくれた。
- 連絡、指示がバラバラ
- みんなが初めてなのであせていた。しっかりとした指揮が必要。
- 自分が公務員であること。
- もっと他にも役立てることがあつたのでは
- 上司の命令系統
- すべての経験で苦労したけど今後に生かせる経験をしたと思う。
- 公用車も一般車も同じ道路を走るやぼつたさ。
- 指揮者の徹底指導
- 良くだぶって持つていくことがある。
- 日がたつにつれて、苦情が多い。
- 仕事と家の事で手がいっぱいで、特になにも気づきませんでした。
- 働らいている人の食事ぐらい？
- 食糧の確保を充分にすること。
- もっと段取よくしたらよかつた。
- 仕事から、ガス機具だけでなく、電気機具も設備する必要がある。
- 水が十分つかえず、衛生面がこわかつた。
- 救援物資の出しおしみがあつて、充分に活用できなかったこと。
- 上司が頼りない！
- とつさの時、公務員は無能だ。動き出すまでに時間がかかる。



- もう少し、上司がしっかりとしてほしかった。
- 電気の復旧が早かったので、電熱器機具を調理の予備品としておく必要がある。水の準備。
- 大きな施設は水の保存、大形電気器などがあれば
- 公共場所に“伝言板”があれば、尋ねてきた人が、目的の人の安否の確認をしやすかったと思う。
- 市民はあわてていました。役所の広報、東に走って被害情報や避難場所やあらゆる便利な情報を教えてほしかった。
- 水がないので、洗濯が出来なかったのだが、洗い物は、毎日でてたまっていくし、それをどうするのか上からの指示がない。
- 上司の対応が、現場の人間の気持ちを少しも考えていない!!
- 市全体が災害時の対策をしていなかった。

## ☆今後もし震災があったら……

### ●今回の震災で教訓になった事

#### ① 私的部分（家庭）

- 子供のパスポートを取るのに苦労した。もう少し国の柔軟な対応。
- 妻や子供までが近所の人をめんどろをみてくれるのでたよりになった。
- まずガスせんをきり、タンスの上に重い物をおかない。
- 家族の安全が第1に思う。（3名）
- 家具はかるいものを置いて、ねる場所には、物のない所でねる。

- 家を丈夫にする。
- 備えをする。（4名）
- 色々な人とのはげましあい。
- きょうふ
- 物をおかない。
- 非常時における食料などの貯蓄
- 震災時に必要な物を準備し、周囲の人達と助け合いが必要だと思います。
- 家具の設置方法（6名）
- タンスは固定しておく。
- 耐震構造の家でないと、木造ではやっぱりダメ。
- 人は信用できない。
- 家を建てる時、軽量鉄骨にしようと思った。
- 建築部分に気を付ける。
- おちやすい所に物をおかない。
- タンス、食器棚などの配置。防災グッズの充実、備えておく事。
- お金をためる。来たら来たであきらめるしかない。
- 水がないのが一番苦労したので、ため水などしようかと思う。たんすを小さくしようかと思う。
- 水と食べ物が大事。
- じたばたしない。
- 家具がたおれないようにくふうする。
- かい中電灯を必ず手の届く所においておく。
- 身の安全（家具類の倒れ、家具の固定）物の落下。寝室には倒れる物は置かない。
- 生きるも死ぬも天が命ずるまま
- 家庭内の家族の分担作業の徹底（災害時）
- 避難用具を常にわかりやすい場所においておく



こと。

- 資源の大切さ。
- 急な出来事で身を守る上で、家具等物の下じきにならない様にする。
- このようなことがあった時、まずどこに避難をするか場所の確認
- 大事なものは、まとめておく。日頃かたづけておく。
- 一人で住んでいるので連絡が出来なかったので
- 資源のむだ使いをしない。
- 物が倒れないようにする。
- 水の確保
- すごく弱気になりすぎたので、もっと精神をきたえて、親や友人の心のささえになり、いつも前むきに行動したい。
- 自分でうごかな、国はなにもしない。
- 頑丈な家を建てる。
- 震度7でも壊れない家を建てたい。(自宅は全壊)
- 今まで電気・水道など気にもしてなかったが、震災後、風呂には水を入れておき、懐中電灯をすぐに手の届く所に置いておく。
- 物の上に置かない。
- 何もない部屋でねること。
- 家、車のカギなどは、まくらもとに置いて寝る方がいいと思った。
- 多すぎる。
- 天災にかなわない。
- 同じ様な地震が起こったら、今回と同じ様に何も出来ないと思う。

- 文化住宅には住まない。(ちなみに家は文化で全壊でした。)
- 保存食の常備。ラジオには電池を入れておく。今回の地震では、家族がいっしょだったが、もしバラバラの時は集合場所等の統一。
- 常備品
- 日頃のそなえ、丈夫な家の必要性。
- 高いところには物を置かない。
- 自然の恐さ。人命の大切さ
- ダンスや冷蔵庫の前で寝ない。
- 人間の良し悪しがいっぺんに見れた。
- 水、ガス、食べ物
- 木造より、ALCに建て直したいぐらいや。本当に！
- 家庭内での役割りが出来ました。
- 家庭での危機管理を痛感。
- 震災はもうこりごりや
- 地震に強い家屋がほしいが、金が無い。
- 数年たてば今回と同じだと思う。
- 家族が多い所は、みんなで助け合えるが、妻と子を二人残して仕事には出られない。家庭をおさめてから出勤するしかない。
- 上司の対応がまずいと思った。
- いつでも連絡のとれる所、食料補給、医療品等
- 家族だけではなく、となり近所の助け合い。
- 救急避難セットを作っておかなければいけないと思った。寝巻には一斉家具を置かない。
- 震災訓練必要
- 家全体の強化と家具の転倒防止。災害時に必要な物をまとめておく。



- すぐに懐中電燈を探さないこと、あかりがないと心細いとひしひしと思った。
- 3日目に家に帰る。
- タンスの上に物をおかない事。身のまわりの物をバックにつめておく。
- 古い家はダメ
- いつも当たり前のように使っているガス、電気、水の大切さ、人助けの有難さなど
- 自然は恐ろしい。
- 水の確保（食品類等）
- タンスの上に物をおかない。避難場所の徹底。
- 震災がきたら自然にまかす。
- 物にしゅうちゃくしてはいけない！
- 持って出るものを一つにまとめてあるが、いざと云う時は何も出来ないと思う。
- 文化住宅（古いアパート家 etc.）はこわくてもうイヤ!!
- タンスの上などに物を置かないようにする。おちついて行動する！
- 危ないものは下におく。
- 必要な物は、整理しておく事。
- 家具の置き方。水のためおきを考えさせられた。
- 生活の回りに危険物をおかないこと。
- 物は少なく。
- 人のために何かをしてやりたい。自分のことなるべく、自分の力で越えていきたい。
- 避難所で子供が早起きして、みんなの食事をくばっていた。（人の為に何かが出来てうれしい）
- 食品の買置。飲料水の確保。
- 懐中電灯、ラジオ、携帯電話と非常持出しの品

#### の用意

- 水、食品、ヘルメットの用意
- 高い所に物をおかない。
- 教訓などありません。大きな震災で無くす物が大きく、自分の精神に自信なし！
- 非常時の為の用意を何もしていなかった。電池や非常食、家族の集合場所を決めておく。
- 寝室には家具を置かない。懐中電灯、ラジオなどは寝室や目の付く所へ置く。
- 震災は早朝だったので、家族は皆、家にいました。運がよかったと思います。連絡方法、避難場所の日頃の家族との確認をしました。
- 一番大事なものは水だったなあとと思う。
- 前日に水をくんでおく、非常食をたくわえておく。電池を買っておく。
- 常に水は確保しておく。
- 家具はおかないこと。
- 家具の配置、災害時の備え、心構え。
- 家具は少なく、食器も必要なだけに
- ② 公的部分（仕事）
- 横のつながりを大切に。
- 職場仲間と力をあわせてがんばりたい。
- 消防団員なので、救助がさきなので、出来るだけ早く仕事に行きたい。
- 仕事が忙しい。
- ボランティアで参加したい。
- 道のていたい。
- 何でも、出来る事はしなければと思います。
- 公務員としての自覚
- 無線関係を車に備え付け、他の車にすばやく応



- 援に行けるようにすること。
- 伝達系統がマヒすると機能しない。
- でたらめであった。
- できるだけ出勤し、市民のためにがんばる。
- 各職員の安否確認は必ずすべき。各職員間の連絡方法（例えば、無線など）
- 市民のゴミの出し方を考えてほしい。
- 情報関係の徹底。
- 最初から混さいでしていたら良かった。
- 災害に備えてのとりくみを考えるべき。
- 始めから混載でとるべきだった。
- 日頃からの訓練・研修をするべき。
- 正しい情報の入手。
- 仕事ってなんやろう。
- 災害時のマニュアルの確定。
- みんなで力を合わせて仕事をがんばりたい。
- 市民の協力をもっと得たい。
- 消防所や自衛隊の対応がおそい。
- 人員が少なく、仕事の態勢が悪い。危険なので班態勢が良い。
- いつでも仕事ができるように、ある程度準備しておく。
- 他市の人に何をしてもらおうか早く計画するように。
- 連絡網を作って安全確認。
- 情報は大事。指令を出す所は一つに統一し、確実に伝達しなければ、末端は必ず混乱する。
- 本当に大震災がないことを願うが、誰でもいいから、人のためになれたらいい。なにごとも一生懸命でやる。

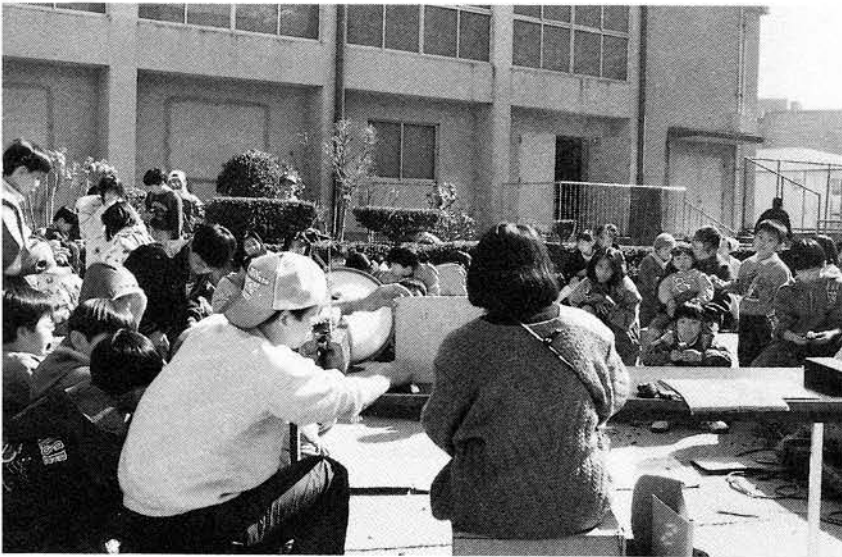
- 仕事は大切だと思った。
- 個人個人が全力をつくす。
- 職員間の連絡・情報がすみやかにとれるように
- 今回の震災では、連絡のつくつかないが多かったので、もう少し連絡のとり方を考え、少しでも多くの人が出勤してもらえるように？
- 当日出勤する。
- あんなものだ
- みんなで力を合せる。
- ゴミ収集の場合、車が思うように走れないので、震災にとっても弱い。
- 同じ事をするだけ。
- なるべく早く出勤できるようにする。（人手が助かる）
- 処理センター（鳴尾浜）への道を複数にする。
- 常備品（給食に使用できそうなもの）。
- リーダーシップがとれる上司がいない。
- にげる。
- 慣れない仕事も何でもしなくてはいけないことがわかった。
- がんばる
- 緊急時の仕事の体制作り
- できるだけのことをする。
- 水、ガス、食べ物
- バイクも購入したので、出来る限り出勤したい。
- 災害に対して、有効なシステムが必要。
- やればやれる。
- 数年たてば今回と同じだと思う。
- 職場に出勤するだけが、仕事だろうか？ 両親の家に向かう途中、何度も（助けて）と云う声



がした。そう云う、救援作業も出勤あつかいするべきだ。

- 一分一秒でも早く職務につくこと。
- 敏速な指示を出してほしい。
- 被災者へのもっと何か、できると思う。
- 縦、横の連絡網をきちっと
- 震災訓練必要
- 災害における訓練をもっとしなければいけない。被災者に対してもっとできたはずだ。
- 職員としてすぐに、仕事できる心の切り替えをできるように
- 早く職場に行く。
- 災害訓練も意味が無い。
- 命令を出す人と職場の人との連絡を密にするように
- 私自身、あれ以上のことはむり！
- ガスもない水もない電気もない困りました。
- どんな時でもがんばりましょう。
- 今までは、どの道からも仕事に行けると思っていました。今回のことで、仕事を長い間休ませてもらって、少し考えないといけないと思いました！
- 危ないものは下におく。
- 大変むづかしいが上司と話し合う必要あり。
- 上司の指揮でどうにでもなる。
- もっとすみやかに、他の部署にも手伝いに行くべきであったし、要請をしてもらいたかった。
- 今度は少しでもまじに動くことが出来るかな？
- 老人をけがのないように注意をします。
- その場面に遭遇していないのでわかりません。

- 水の確保が一番
- 水、食品、ヘルメット、大形電気器用意・保存
- 出勤出来ない人も職場へ、連絡をすることを徹底すること。
- 病院は貯水槽、食料予備完備が大切。
- 水の必要性
- 雅楽荘は建物が古く、心配しました。震災はいつ起るか分かりませんから、その時々への対応は違うと思いますが、何事もやる気と体力が必要だと思いました。
- しっかりしたマニュアルのもと、勤務体制等もっと考えてほしい。
- 水食料の蓄えや設備の充実
- 食事がその当日から困ったので、ストックをしておくよう心がけたい。
- 今後の対策について何か考えていますか？
- 大事な物や、少し生活にこまらない物をカバンに入れてすぐ出れるようにしています。
- 特に考えていません。
- とつぜんくるものなので考えてない。こないでほしい。
- 家にもものをあんまり置かない。
- 寝る所に物をおかない。
- 家を頑丈にする。
- 安全
- 震災は予知出来ないの、必要な物を準備しておく事しか出来ない。
- 自分自身、他の地域から仕事に出て来ていたので、身内が近場にいなく、避難する所をすぐ探すこと。



- 自分自身が何をすべきかを常に考えておく。
- なる様にしかならん。
- 水や食料の確保
- 一人の考えでは出きない。
- 貴重品をすぐもちだせるようにしておく。懐中電灯を用意。
- 各職員一人一人が、今何をすべきかを考え、最善の方法を取れるように、研修すべきである。  
(市長、局長から一般職員にいたるまで)
- 来るなら来い!!
- 逃げる為の最低限の物をカバンにつめて置いておく。
- 自転車・単車通勤がふえてあぶなかった。
- 災害のあったときの仕事を訓練・研修しておく。
- 非常持出品の準備。日頃から隣の住民と親しくしておく。
- 車内泊の出来る車がほしい。
- 家族の安全、水の大切さ。
- 水や食物を大切にすることと、家族みんなで団結すること。
- 震災時の冷静な行動。
- 地区態勢の協力等、回りの事から始める様になると良いと思う。
- 倒れるような、物を置かない。家具などの位置など考えたい。
- 政府の対応がおそい。
- 上の人にもう少し考えて欲しい。
- 前向きに考えています。
- 一日も早く、自宅を建てたい。
- 家では、子供が多いので、家族がバラバラの時
- に集まる場所を決める。また、タンスの置いてある部屋では寝ないようにしている。
- バイクを買おうと思っている。
- 考えていてもどうしようもない。
- カンパンを買う。
- 今はそこまで考えている余裕がない。
- キン急ヒナン場所の確認。ヒナン袋の用意(現在もまくら元においてある)。すぐ出勤できる足の確保。
- 緊急時の公用車の回転灯などの装備
- 考えすぎないようにしている。
- 物が上から落ちないように、タンス、ぶつだんが倒れないようにしたいです。
- ローンをもうちっと見直したらええのんとちゃうん? 政府は自分のことばかり、考えんな。
- 交通整理、道が通られない所が多かった。食物、飲料水の確保
- 今回の地震でも、現場の職員ががんばっているし、身体をはって仕事をしているので、職員の減員をなくすようがんばりたい。
- 各所属の役割を明確にする。(※所属長だけでなく末端まで自分の役割を知っておく)
- おきてみないとわからないが、個人では何も出来ない。みんなの協力が必要。
- 震災になってからではおそいと思う。なる前から少しでも予防に心がけてほしい。
- 今まで住んでいた西宮にもどしたい。
- 家具防倒対策、携帯コンロ等を常備しておく。
- 一人では何も出来ないが、家庭では近所との連携。仕事では、みんな協力し合う。



- もっと公的避難所を多くする事。
- 地震（震災）の大小によって違うので、あまり考えられない。
- 何も考えない。偉い人が考えたら良い。
- なるべく、荷物をふやさない。
- 持って出る物を1つにまとめて有ります。
- 家具とか背のたかいものはおかないようにしている。
- 普段から何があっても動じずに、冷静でいる様にしたい。
- 交通もストップしているし、車で出勤するにも道路が一つですごい渋滞!! どうにかしてほしい!!
- 地震まえには知らせて欲しい。
- 今回の経験をもとに、上司と一般職員がよく話し合って、組織立ったものを考えていく必要がある。
- 病院全体、市全体で各職場に応援要請をもっとすみやかにしてほしい。
- 寝室には物をおかない様にしている。
- その時にならないと分からない。
- 伝達方法のマニュアル（適格に迅速に）
- 個人的で申し訳ないですが、全壊の我家の再建に“地震に強い”と言われる方法で、建てなおし中です。
- 震災が二度と起こらぬよう祈るばかりです。
- まさかと思うことがありうるということを頭に置いて市としての対策や一人一人の備えをしないとはいけないと思う。

## ☆震災なんでも言いたい放題

- 他府県市の救援活動に感謝します。
- 国、県、市役いろいろしえんをいただいて、たいへんたすかりました。
- 金かせ!!
- 国の対応がすごくおそかったと思う。
- 災害の時こそ、人それぞれの中身がわかったような気がしました。
- 仕事の頑張りを、もっと認めてほしかった。
- 行政には何も期待できない。
- 応援に来てくださった他府県の皆様に大変感謝しております。ありがとうございました。
- 自分が一番被害をもったと思うな。人に頼らず自分の力で何とかしようとする心がけがほしい。
- 上司はもっと部下をいたわるべき。
- 今回ほど公務員という立場に感謝した事はない。  
（倒産や解雇がない）（やりがいがあり、市民に感謝される）そして又、公務員という立場をうらんだ事はない。（家の中の後かたづけができなかった。余震がまだある中、子供達のそばにいてやる事ができなかった。）地震後3日目からごみ収集開始、この時期ごみ収集していいのか、他にすべき事がないのか？ 市民の方からも「今ゴミ取ってる場合違うやろ」と云われる心配があった。が「この時期ごみ収集してくれてありがとう。よう来てくれた。」と云われて感激した。
- 超勤、特勤をきちんと欲しい。（業務第二課だけ特別少なかった）



- もう少し、特休がほしかった。
- 応援に来てくれた人、ありがとうございます。  
震災の休暇がたらない。
- てきぱき指示をもっとくわしくすること。
- 応援のみなさんありがとう。
- 避難には自家用車が役に立たず。
- 緊急、消防車、救急車の走行を困難にしている。
- 地震予知連はなにしてた。
- このアンケートの質問がわかりにくい。
- 職場の建物をもっとしっかり建ててほしかった。
- 自衛隊やボランティアの方々に、お世話になったことに感謝しています。
- 他府県から救援活動をしてくれたこと。
- 住宅の損害審査が悪い、義援金等で公営住宅を一つでも多く、建ててほしい（義援金の割当が悪い）
- 身内の中に死んだ人がいるのに、当日から出勤して仕事をし、つらくともやっている職員もいることを。
- 自立しようと考えている人たちにも援護してほしい。持ち家の再建に援護してほしい。
- 義援金が少ない。
- がんばるしかないと思う。
- 国の負担が少なすぎる。
- 全体的に疲れた。救援物資をありがとう。
- 地震、雷、火事、おやじやっぱり自然が一番こわい。5000万の借金こわい。
- 全てにおいて対策がおそい。
- もう二度といらない。
- 市長などの対応の遅いのが目についた。「義援

金もっとくれ〜」

- 17・18日の本庁での仕事の時、事業部のえらいさんはだんどりは悪いし、くちばっかりで、がっかりした。
- とにかく地震はこわい。
- もう二度と起こっては欲しくない。
- 震災の事をあまり考えずストレスをためないように。
- 本庁前に、常駐していたマスコミの放送中継車がとてもじゃまになった。
- 死ぬかと思った。
- 親せきの人や友人に御見舞をもらった時、物がなかったから助かりました。
- 前の大阪の知事、よーくきけよ。おのれはだぼじゃ。立候補せんでよかったの何が自分の所は自分でせーじゃ。よいかげんにせいよ。ダボ！  
むらやま。ワレは、いね。いね。いね。いね。  
ワレを見とんとやな、いてもうたりたくなってくるんじゃ。ワレ、総理所か！ 社会党もつぶれてまえー。
- つくづく水、ガス、電気などのライフラインの有難さを感じた。
- 職員のがんばりに対して、見返りのお金が少ない。
- 被災直後はしかたがないが、日が過ぎるにしたがい避難者はあまえずぎ。
- 出勤してから仕事はあたり前だけど、こまっている人を助ける、これで充分（市民サービス）仕事になっていると思う。
- 市民の為に何かをしてあげると言う自覚をもっ



と職員がほしい。

- 住宅ローン。家を建て替えやすい方法
- “情”と言う文字がやけに心に残った地震だった。
- 住宅問題、救援物資（衣食住）etc.
- ボランティアの人達には、頭の下がる思いです。自分ならあそこまで、やれるかどうか、人と人とのきずなに支えられていることを感じました。
- 持家の一部をどうにかしてほしい。
- 私的意見だが、震災時、国の対応（特に普段いばって見える警察員の対応の仕方が一番おそく見えた）私が見てたかぎり、消防、市職員、その次ぐらいに警察の順で動いていた様に見える。（私はその日、市民グラウンドにいたので、そう見えた）。
- 市や国はもっと早い対応をすべきだったと思う。（あらゆる事に対して）
- 飲み水はもう少し早くしてほしい。
- 大半の大馬鹿野郎の被災者がどあつかましい権利主張ばかりして、自分らは何もせず文句ばかりいいやがって……。税金の無駄使いだ。マスコミも役所の悪口ばかり言いやがって、どいつもこいつもええかげんにせえ〜。
- 水がこんなにも貴重だとはおもはなかった。
- 水が特に大事である。
- もういらん。
- なんで地震なんかきたんだー!!! もう二度ときてほしくないー!!!
- もう二度と経験したくない。
- 長い間休ませてもらって、みんなに迷惑をかけ

ました！ でもみんな何にも言わず仕事にもどれたので、うれしかったです！ 当日もう少しで家を出るところだったので、出ていたら、死んでただろうと、後で、こわかったです！

- 震災のためとは云え、自分さえ良かったら、他の事は、その次と云う態度の人達が多かったので、考えさせられた。
- 食器棚やテーブル、本棚 etc. をすてることとなり、悲しかった。たとえ一部破損でも水道・ガス（3ヶ月間）が止まり、長い間不自由な生活をした。大人だけよりも、子供がいるととても大変だった。お風呂一つとっても大変な思いをした。（電車にのって大きな荷物をもって）もう二度と体験したくないです。
- ずるい奴はどこまでもずるい！
- 水を運搬していただいた自衛隊、他府県の方に感謝します。
- 救援物資、本当にありがたかった、ありがとうございました。
- 外県内の人にやさしい言葉を掛けてもらった事、電話などありがとうございました。
- 私をあとに、公を一番に最優先して救援活動した。組合員皆様ご苦労様でした。
- 役所に勤務して、仕事最優先で家全壊した職員に何んの対策もしてくれないのが、悲しかった。立直れたのは、組合本部執行部が、家が全壊しても、市民の為組合員のため頑張っているのを見て、私も頑張れました。家が全壊した私達にはまだ震災は続いています。家が建つのは4年〜5年後となっています。そうすると定年すると



再度ローン、退職金を回したとしたら、退職後の生活はどうか。不安満載です。せめて、塩尻や普賢岳のように全額とは言ずとも半額でも、援助があればと願います。

○全国からの救援物資やボランティアというものが、本当にありがたいと思った。逆に他市で震災が起こった時、できることは協力したいと思います。

○全壊、半壊と一部損壊との金額のちがいがありません。震災見舞金には腹がたった。

○全国から義援金、救援物資、復旧の応援など、たくさん助けて頂き、ありがとうございました。

○義援金はどこにいったんだろうか？

○書面をおかりしてぜひ訴えたいことがあります。

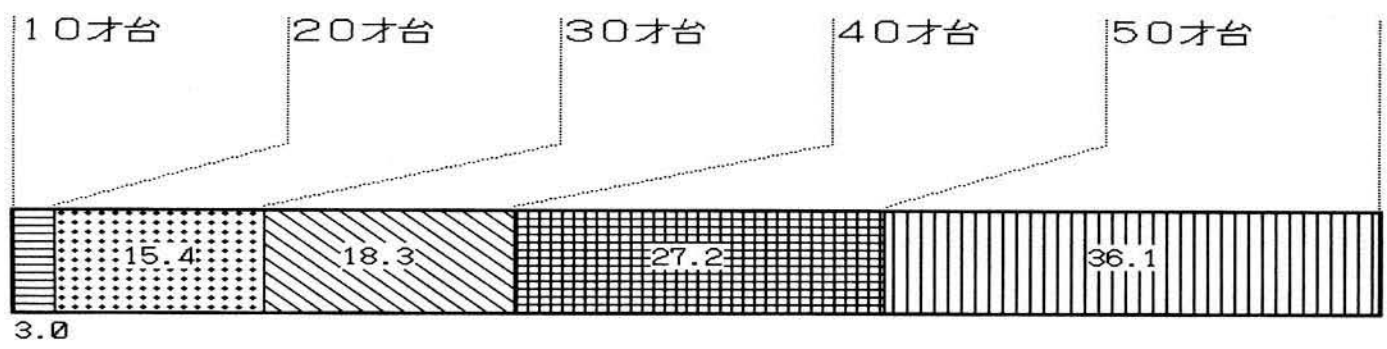
※私達の職場は不規則勤務のうえ女性ばかりの職場です。又、ほとんどが家庭をもち子供を育て

ています。人間相手に誰かが出勤しなければいけないという状況は百も承知ですが、そのために、家が全壊し、乳幼児をかかえている場合でも勤務表通りの出勤をしなければいけないのでしょうか？震災の後上司は全員を招集することすらせず、勤務表にしたがって出勤しない者に対し「ずるい」などと非難しました。私は小さい子供をかかえているので2日に一度なら主人と交互に出勤できるから考えてほしいと何度も涙を流しながら訴えました。又、全員を集めて家庭の状況をきいた上で、あらためて勤務表を作り直してほしいとも言いました。が、上司は、自分達も休みなし。

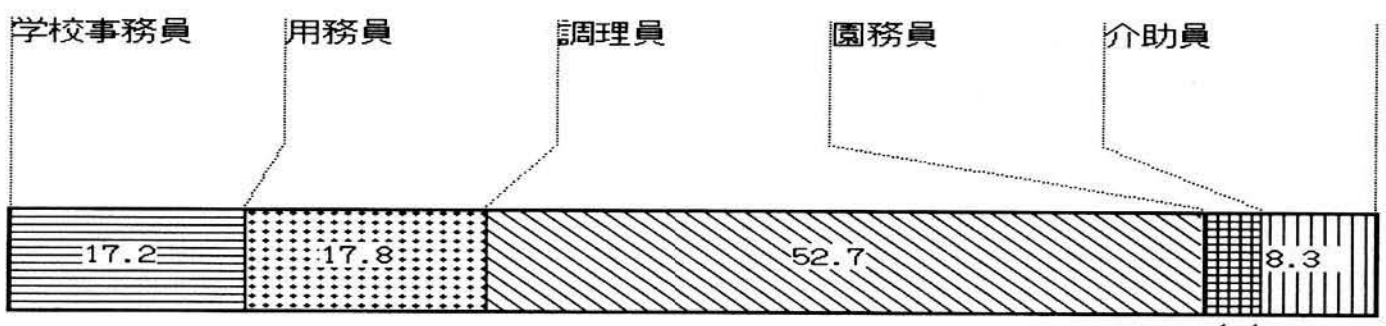
○皆はじめての事で、いろんな面をとまどうことばかりであった。

# 学 校 支 部

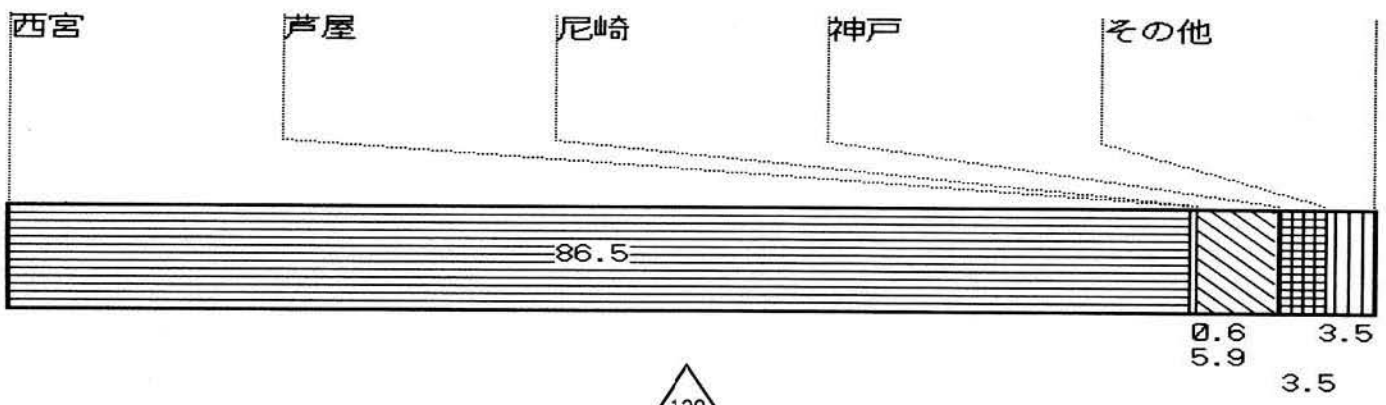
Q1. 年 令

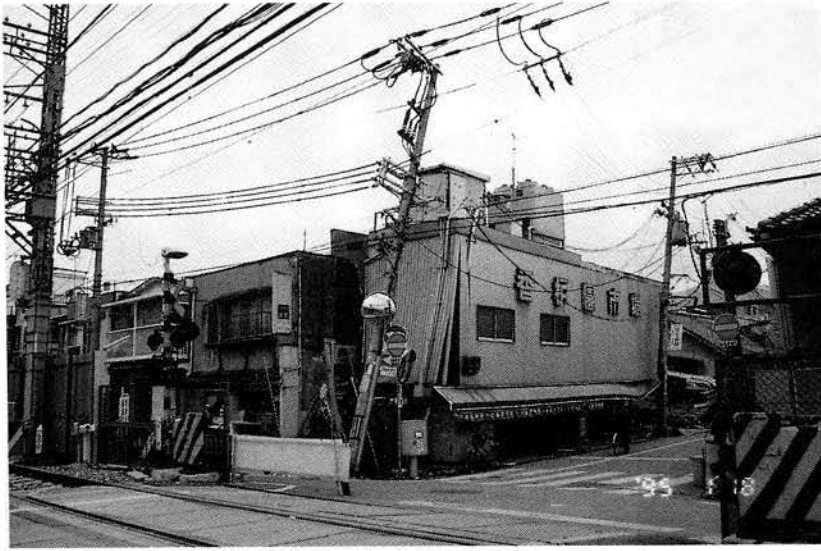


Q2. 職 種



Q3. 住居は何市ですか (震災時)

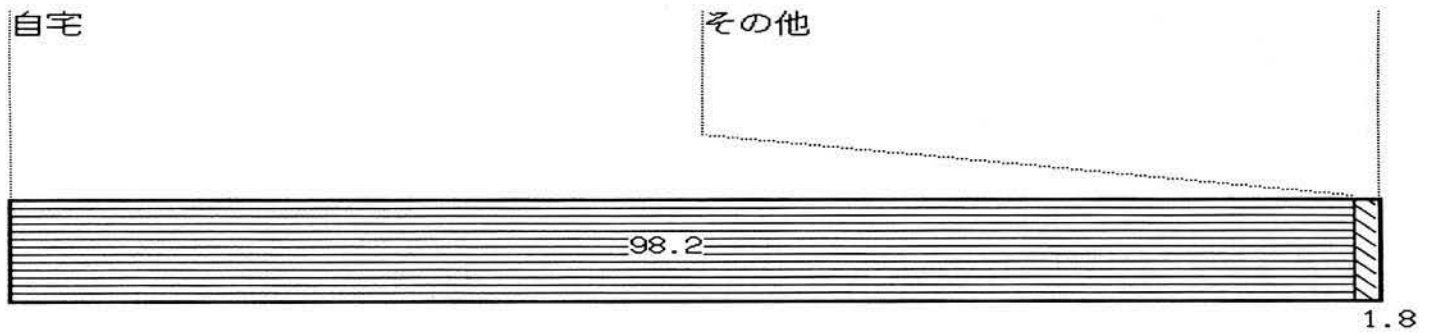




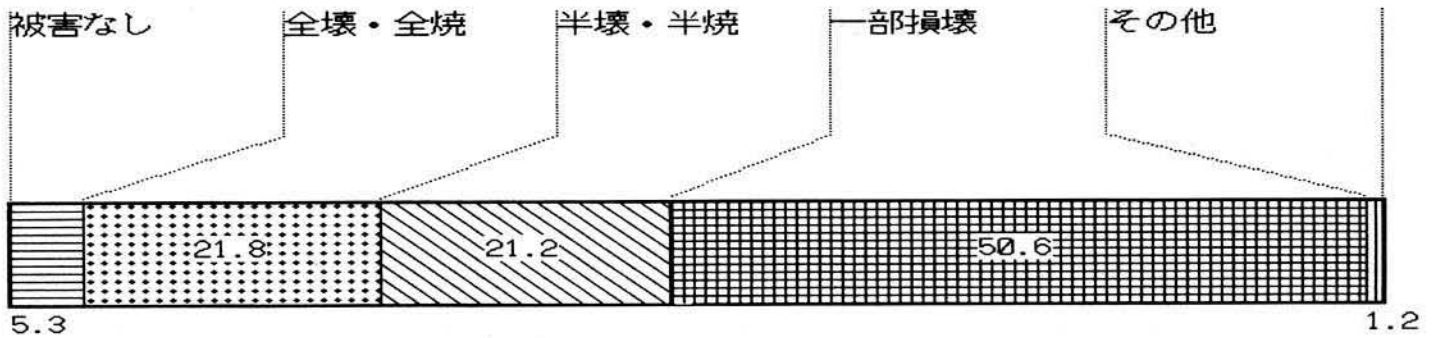
各支部アンケートより

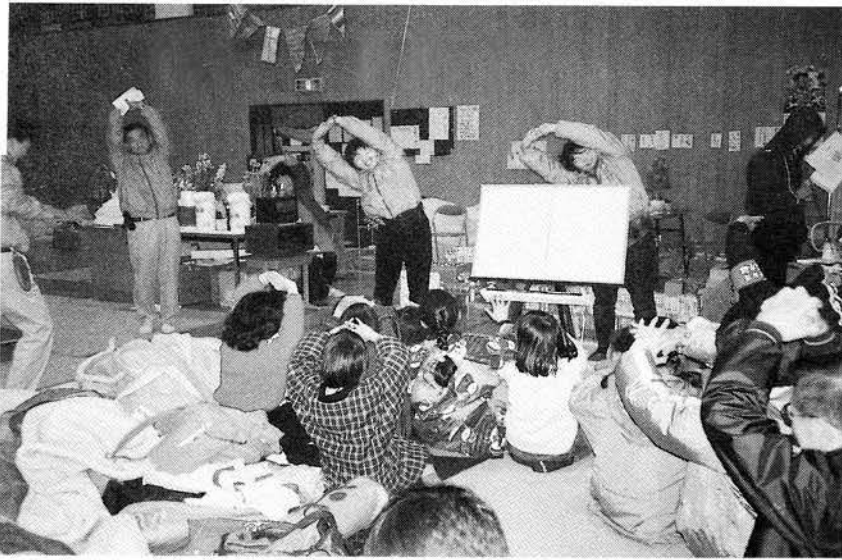
○震災についてお聞きします

Q 4. 1月17日の震災発生時あなたはどこにいましたか。

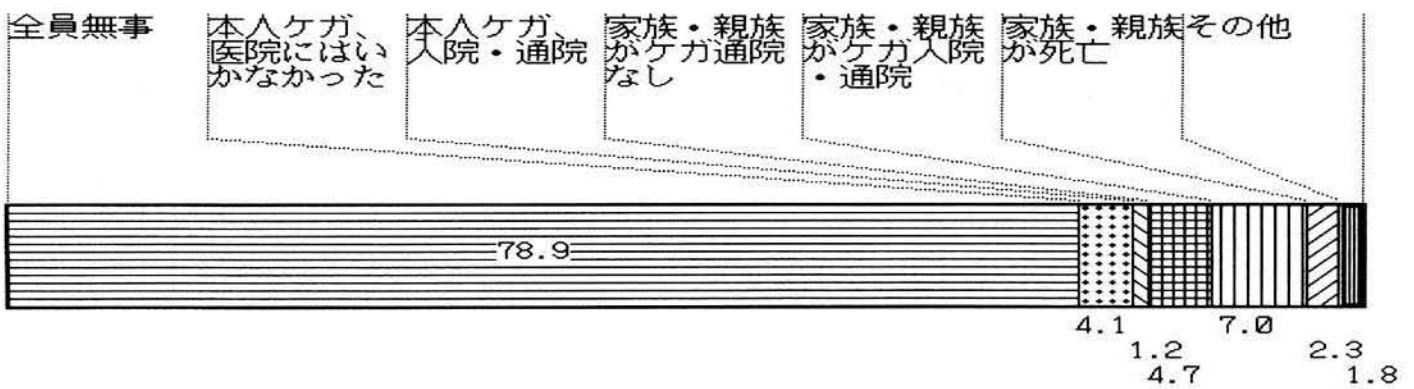


Q 5. あなたの家の被害状況はどうでしたか。

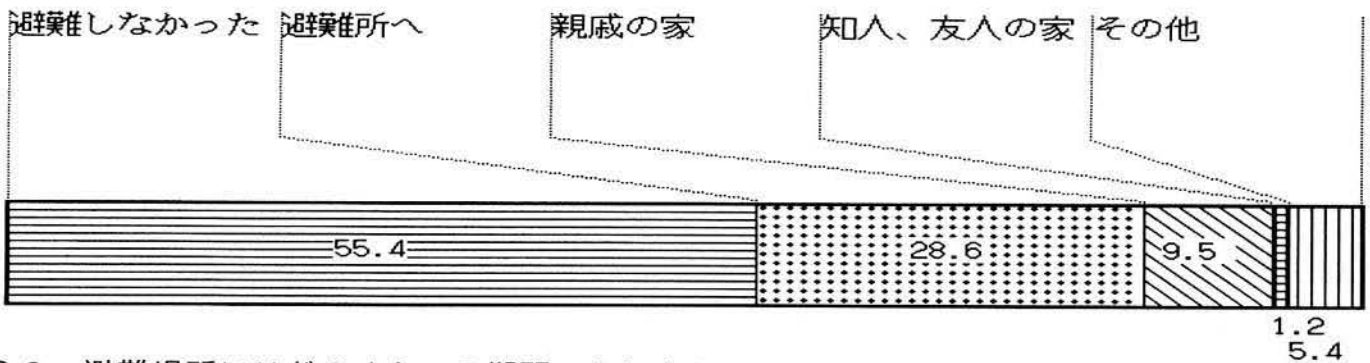




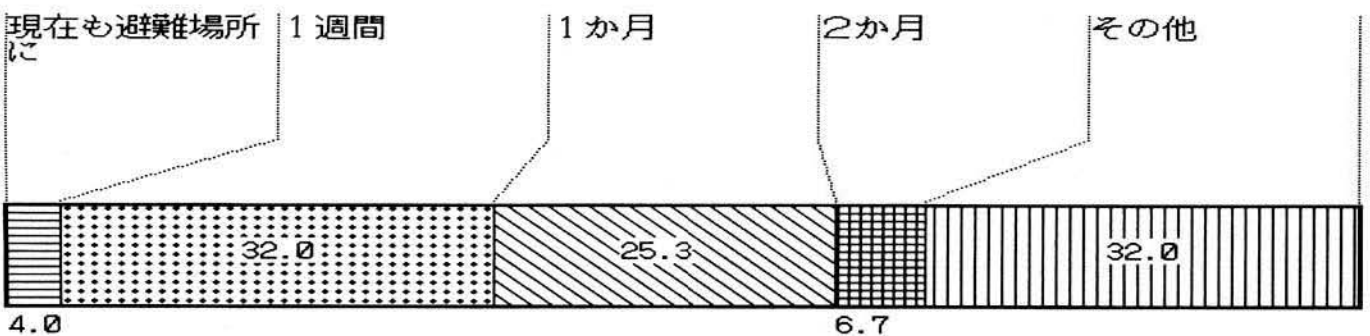
Q 6. あなたと家族の状況はどうでしたか。

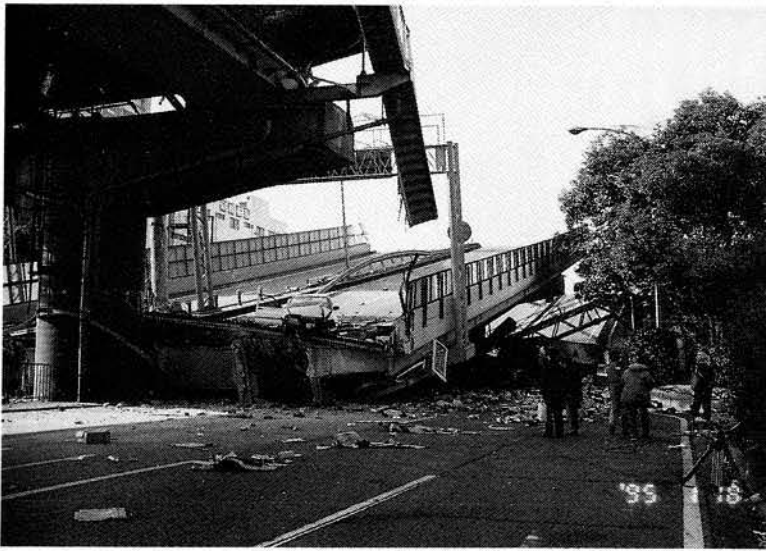


Q 7. あなたは1月17日当日どこかへ避難しましたが。

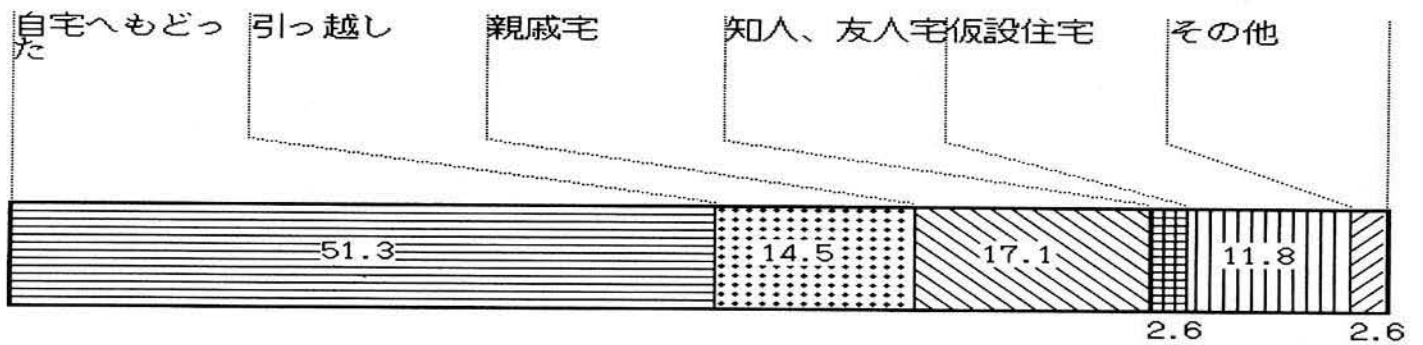


Q 8. 避難場所にはどのくらいの期間いましたか。

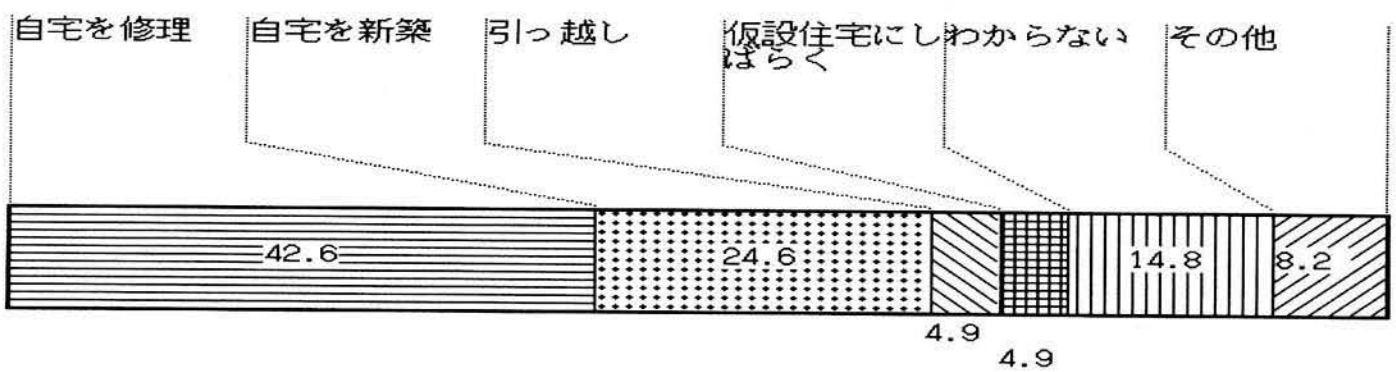




Q9. 避難場所を出られてどこへ行きましたか。



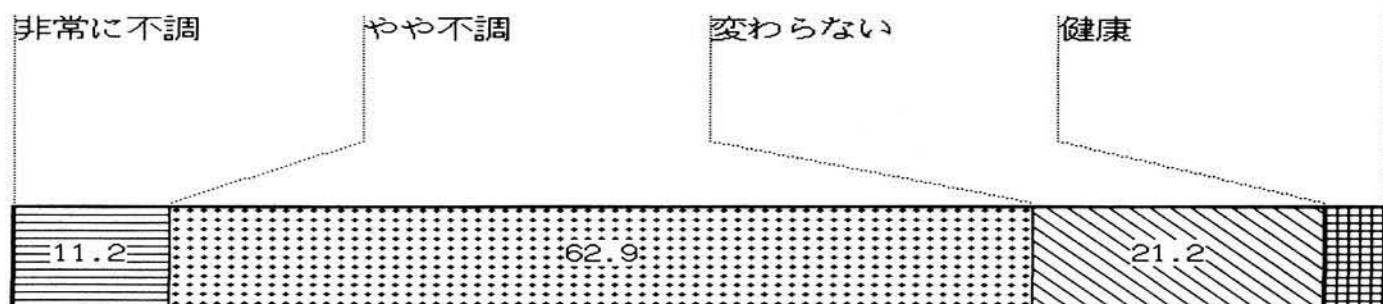
Q10. 今後どうされますか。



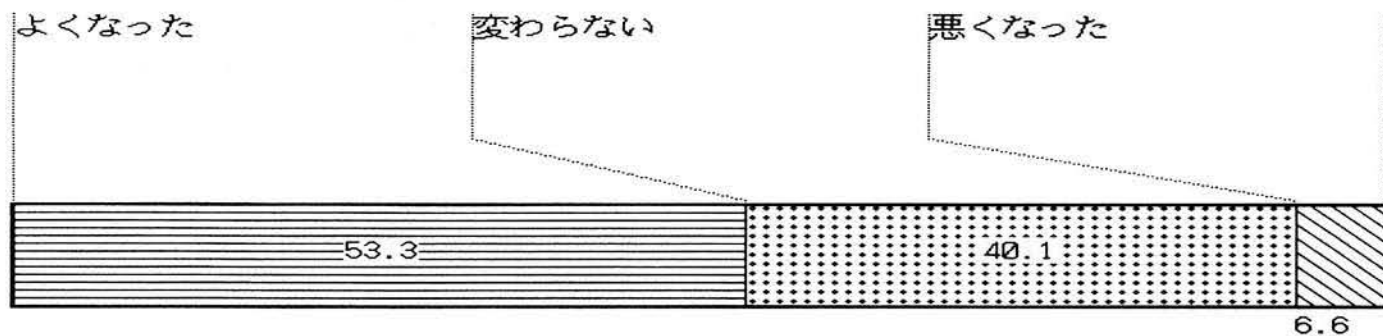


○あなたの健康状態についてお聞きします

Q11. 震災後のからだの状態はどうでしたか。

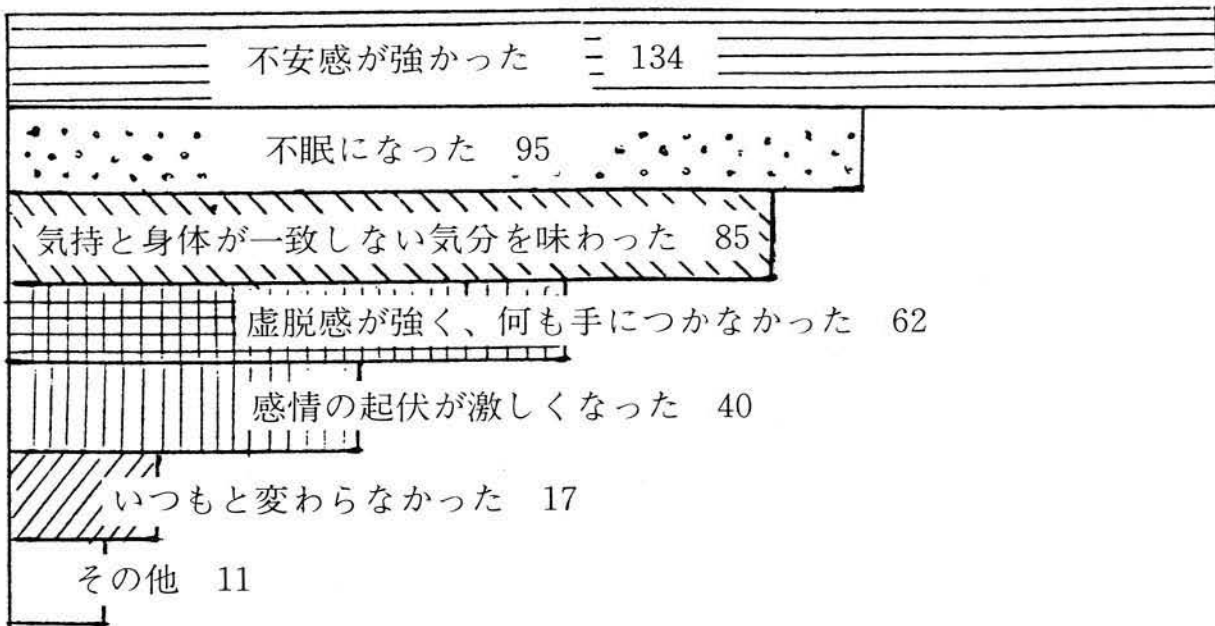


Q12. 現在の状態はどうですか。

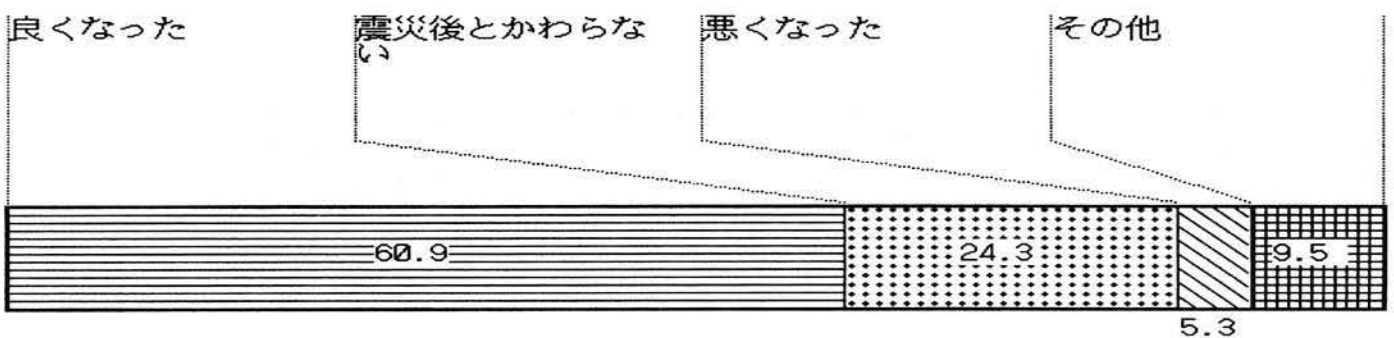




Q13. 震災後あなたの心の状態はどうでしたか。(当てはまるものすべて)



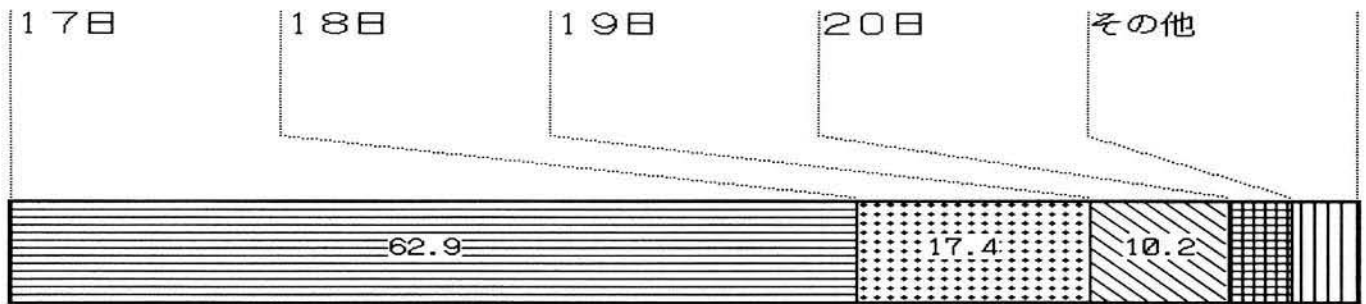
Q14. 現在の心の状態はどうですか。



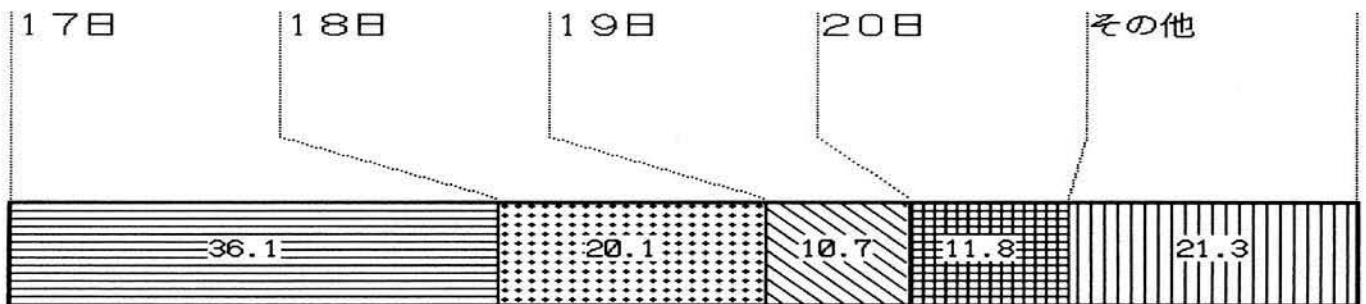


○仕事についてお聞きします

Q15. 職場への連絡はいつしましたか。

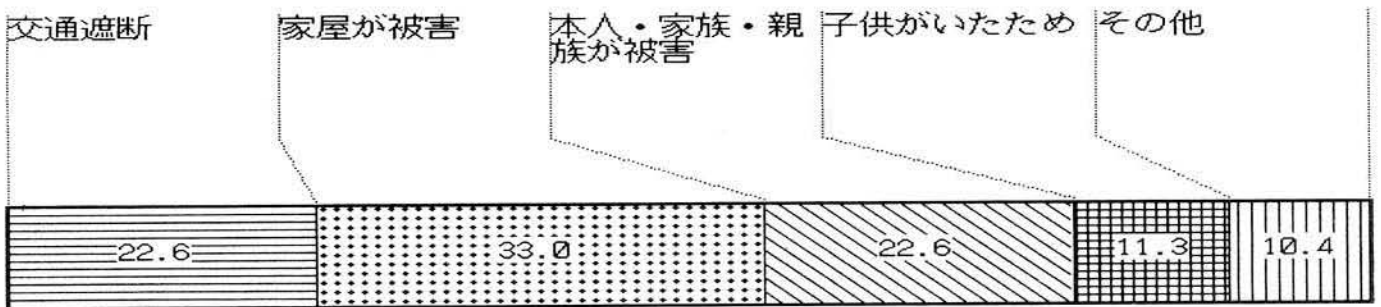


Q16. 職場へはいつ出勤しましたか。

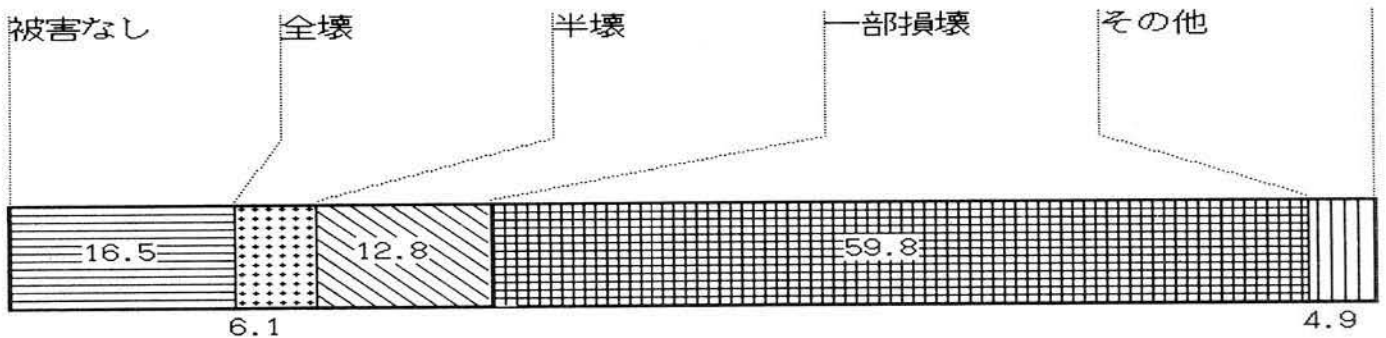




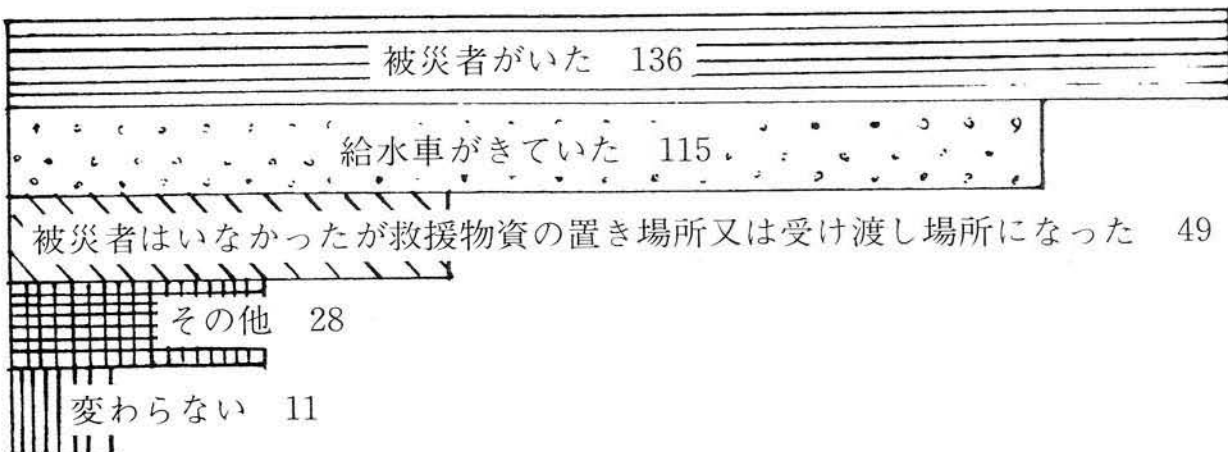
Q17. 出勤できなかった方の理由は何ですか。



Q18. あなたの職場の被害状況はどうでしたか。

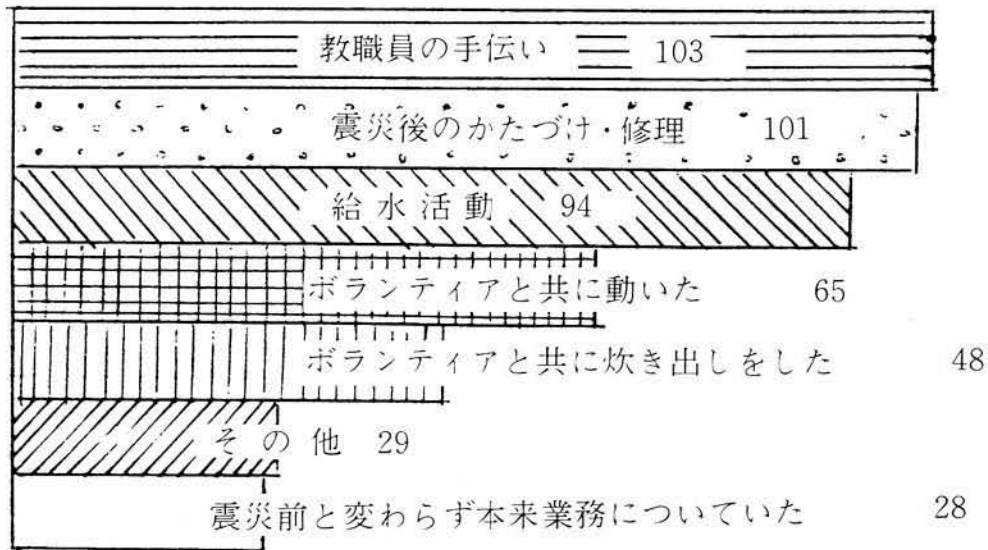


Q19. 職場の状況はどうでしたか。(あてはまるものすべて)

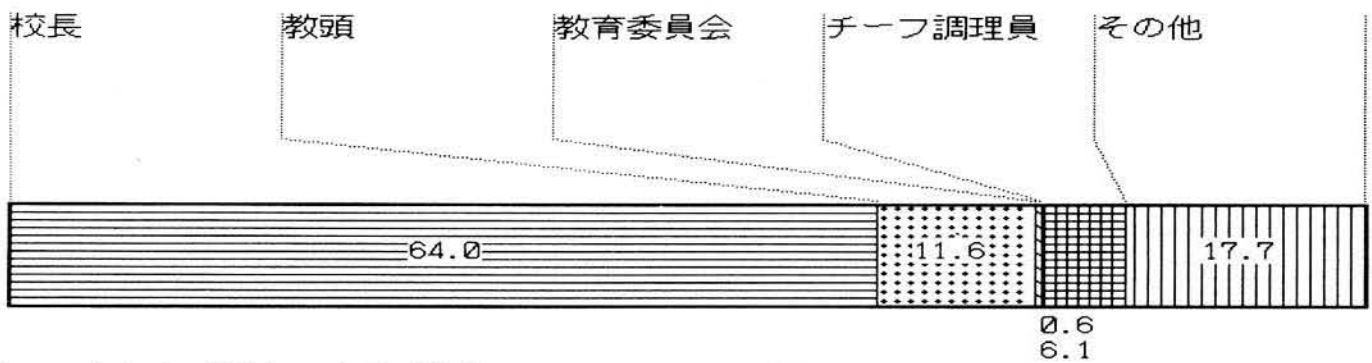




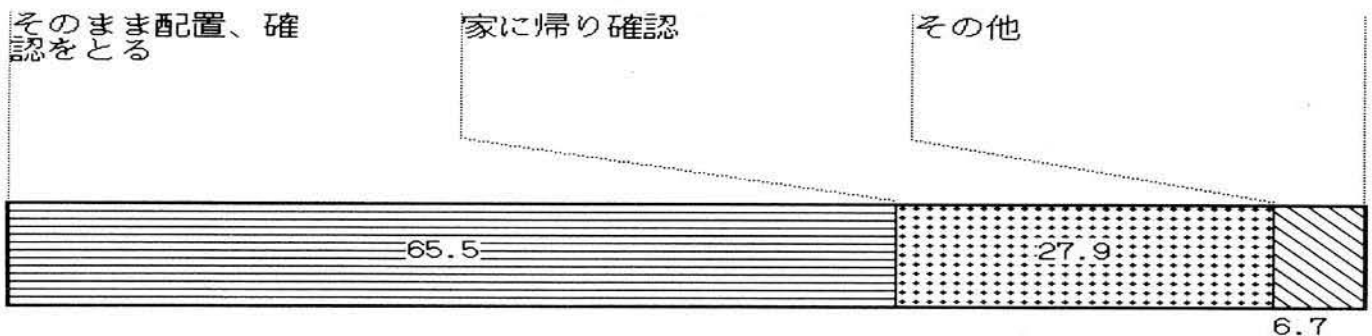
Q20. 職場ではおもに何をしましたか。(あてはまるものすべて)



Q21. あなたはおもに誰の指示で動きましたか。



Q22. もしも時間内に地震が発生したら、あなたはどのようにしますか。





**Q23. 震災前と震災後では、自分自身で生き方、考え方に変化はありましたか。**

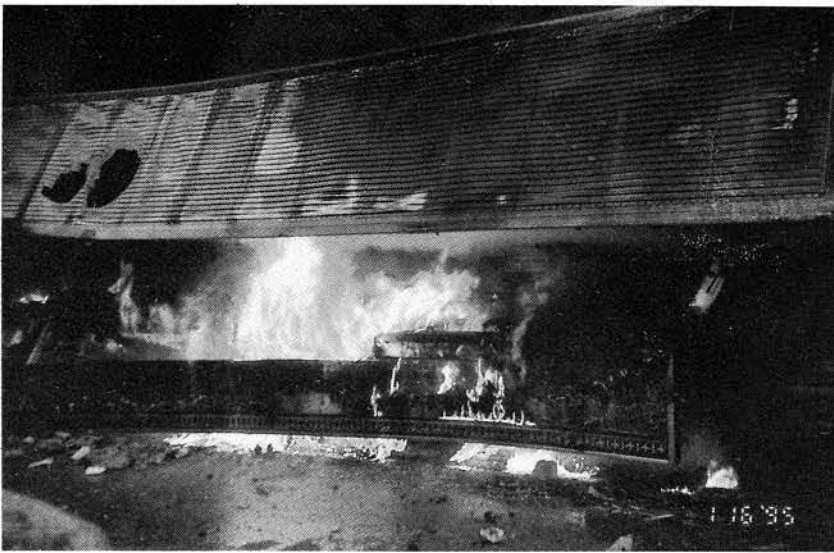
**家族について**

- まず家族・親族の絆を強く思い知らされたので、本当に大事にしたいと思った。何が起るかわからないので、悔いのない生活を送るよう心掛けたい。物は最小限度のもので充分だということもつくづく思い知らされた。
- 母と家を見つけ、6月の初めより住んでから、精神的に落ち着いた。
- 世帯主としてがんばってきたけど、頼れる人がいてくれたら、と思うようになった。
- 現在は精神的には震災前とあまり変わらなくなったが、時折今ここで地震が起きたら…？と思うときがあります。あの地震後とにかく「明日何かあるかわからないんだ」という思いが常に自分の中にあるように思います。子供に対してもある程度は融通のきく親になろうと思いました。いろいろな方の死は本当にショックでした。
- 震災前には何事にも「マッイッカー」と言う気持ちがあったけれど震災にあって何でも感動し、子供たちとの時間を大切にしたいと思い「マッイッカー」が「ダメダメ今しかない」という気持ちになりました。
- 大きな変化があった。人間は一人では生きていけない。家族があつてのこととしました。

**自分自身について**

- いつも物音に敏感になり、落ち着きがない。

- 一日一日を大切に生きようと思った。
- ものに対する価値観の変化を大きく感じた。後悔しないために、今できることを後にまわさずやりたいと思った。
- 地震だけでなく、他の災害の被災者に対しても今までとは違った気持ちで痛みが理解できるようになった。
- 震災前は他人事と考えておりました。阪神間は気候が温暖で地震は絶対はないと思って住みましたが、以後不安の毎日です。
- 天災は一度も経験したことはなく、いつも安全で住み易いところだと思っていましたが、何秒間にくずされさってしまい、人間のもろさを感じました。今何が起っても、対処できるように、一日一日を大事に家族ともども強くたくましく、試練の年を乗り切ろうとがんばっています。
- 180度人生観がかわりました。
- 物に執着しなくなった。あきらめが良くなった。
- 破壊は一瞬、建設は死闘とつくづく思った。すべての価値観が変わりました。
- 震災後は、自分にできることならば人のお世話をしよう。
- いつ死ぬかわからないから、毎日悔いの残らないように楽しく過ごしてある程度好きなことしようと思うようになった。
- ありました。余分な物、いらぬ物は買わないこと、生きている間はできることを精一杯しよう。
- 考え方は大きく変わりました。絶対起きないと



思っていたことが起こり内面的に変わってきていると思います。感謝の気持ちが強くなり、自分自身毎日を大事にしないといけないと思っています。

- 自分自身の行く先を考えました。
- 行く先不安になりました。
- 災害を経験し、今では人ごとではないと思うようになりました。
- 物質面より内面的なものに重きを置くようになった。
- 自然の恐ろしさを知り、長い間地震のおびえが残り、車が家の前を通るたびに家がゆれていて、また大きいのがくるのではと安心できない毎日でした。
- あまりくよくよせず、明るく生きようと思った。
- かなりの変化があった。打算的になった。一時期生きていることに罪悪感があったが、時間が経つにつれうすらいで、よりよく生きようと思う。仕事を通して地域の役に立ちたい。
- 今出きること・したいことはなるべく実行していきたいと思うようになったが、なかなか行動に移すのは難しい。
- 変化あり。自分らしい自分のための生き方をしなければと思った。
- 今回の地震では家にはあまり被害はなかったが、友人の家が全壊で今も避難所暮らしをしていることが、まだ夢のようで自分が何もしてやれないことに、いらだちを感じます。
- 多少変化があった。今を大切に有意義に過ごそ

うと思う気持ちが今までよりも強くなりました。

- 関西には地震がないと言う安易な気持ちで備えもなく、いかに自分が無防備だったかを痛感しました。また自分自身がどのように動く事が一番良いことなのか、もう一度考えたいと思いました。
- 自分が変わったと思う。
- 運・不運はその時でないとわからない。今を大切に生きようと思う。
- 震災に対する備えがなく反省しました。いつなんどき何があるかわからないので、いつも充実した日々を送りたい。
- 人と人とのつながり、健康であったことを喜び、大きな心で生きたい。
- ものに対する価値観がだいぶ変わったように思う。人命第一と言うことを身をもって感じた。真心からの行動とそうでないものとハッキリ見分けをつけることが出来たように思う。
- 大きな変化があり気持ちの上でどうして良いかわからず、一時的に落ち込んだ。

#### その他

- 変化あり。
- 物をたくさんふやさない。
- 西宮では地震は夢にも来るとは思っていなかった。
- 阪神間に災害は、まして地震はないと思いでいました。絶対ないと言うことはあり得ない。
- あまり無駄遣いしないように、しようと思うようになった。水道の水も気をつけて、使うようにな



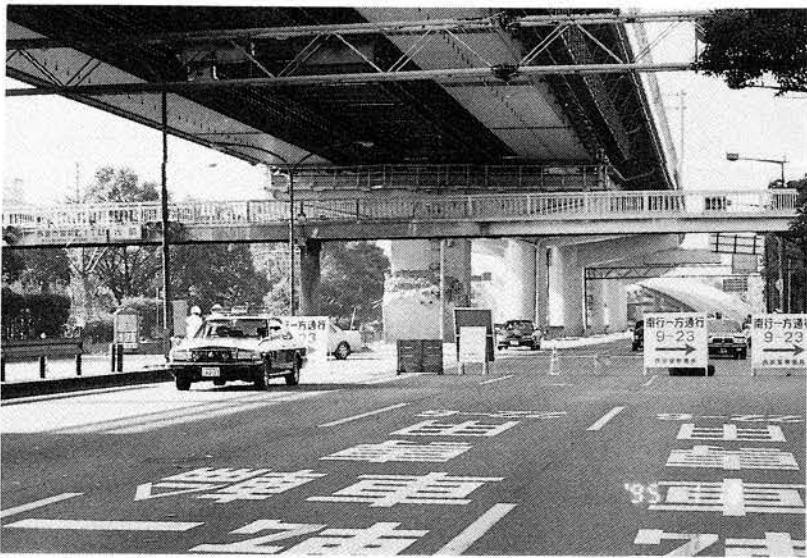
った。

- 水や生活用品等などの無駄のないようになった（予備も用意するようになった）。
- 自分自身の生き方考え方には変化なし。
- 非常時の訓練を日頃からしておかなければいけないと思った。災害は、どこか外の話と思っていた自分に気づいた。
- 物質面において少し変わりました。
- 「備えあれば憂いなし」という言葉があるように、これからは少しでも心も物質的にも備えておこうと思う。
- しばらくは物欲がなくなったが、3カ月くらいしてからポチポチ破損した家具など買い替えた。
- 家にお金をかけたくないのと、関心がないようになった。
- 身辺整理をしておかなければと思う。
- 借家を借りるときの身分保証（公務員で良かったと思った）女性でも仕事をしていて良かった（収入の分）。世の中はやはり金である。家賃の支払い・保証金・学費等など、消費税は頭にくる。国は何をしてくれたのか。
- 時が過ぎて行くにしたがって、生活もあまり変わらない。災害時に備えるようにした。いずれボランティア活動をしたいと思う。
- 1月17日から月日がわからず曜日のみで動いている現在である。

Q24. 仕事の面で震災前と震災後、今後のことだと思うことがあれば書いて下さい。

#### 震災後仕事について思うこと

- 仕事のミスが増え、まわりに迷惑をかけたと思います。今やっと落ち着いたところです。
- 仕事があって良かったです。
- 震災の時に校長会を本校で開催した。AM中で終わると思っていたがPMまで……。水もないのに「カレーを昼に出したい」と言ひだし、給食室のガスコンロで炊いて出した。何もこんな時やのにて思う。どこか委員会でもしたらいいのに。水汲みはいつもの倍以上で1回も汲みに行きもせんと「何でうちでするん」の質問に「比較的うちはましやから」ええかげんにせーい。
- 決まった仕事がなく、自分の居場所がなく、3カ月後に調理が出来たことが嬉しかった。
- 震災後に思ったのですが、私たちの職場は火・熱湯・油など扱っているので時間内に発生すれば私たちの身の危険は大です。
- 現在は正常な仕事になっていますが、仕事ができる喜びを感じています。
- 市職員として仕事を持っていることの喜びを感じています。
- 今の仕事で良かったと思う。
- 自分の仕事が、今までどおりにできると言うことの素晴らしさ。
- 今まで他府県の地震・洪水など人ごとのように思っていたが、本当に身近に感じるように



- なり、少しでもお役に立てばと思います。
- 職場ではお陰様でみんな元気なので仲良く助け合って行こう。
  - こんな事は二度と起こってほしくない。自分にできることを、頑張っただけです。
  - 子供達を連れて出勤したが、今考えれば、あんなに危険なところ（各戸からまだガス漏れがあった）をうろうろしてまで出勤したことが恐ろしい。非常時とはいうものの誰かの的確な判断で動けたらと思った。
  - 人に対する気持ち（人間関係など）、小さな事でブツブツ思ったりしないでやっついこうと思います。
  - 震災前より震災後、気持ちがゆったり持てるようになったのか、みんなで助け合いをするように思う。
  - 震災後給食がなく、仕事に従事できることの有り難さをつくづく感じました。一日一日を大切にしたいと思います。
  - 水の有り難さを思い知らされた。
  - 仕事の尊さを再確認した。働くことは幸福と直結している。仕事はイヤだとは思わない。
  - 育休中でもあり地震のあった日の職場の様子は話を聞くだけですが、あの状況の中を出勤し作業や避難所のことをされていた方には本当に頭が下がります。災害があると学校が避難所になるし、職員も被災しているという事で、難しいことがあると思います。出勤する・しない・どのくらいまで出来るかという点で体をこわされた方も多いので。
  - 職場の建物の状況から見て、修理だけで本当に大丈夫かどうかとても不安である。結構建物が傷んでいるので。
  - 調理室がひびだらけで、不安です。
  - 通常の物資搬入路がなく不便。
  - とにかく市役所は忙しくなって仕事がいろんな面で大変になってくるので頑張らなければと思う。
  - 震災後はガスと水が止まった場合、給水活動は園務員の仕事と思っているので、職員全員が協力して、全員で行うようにお願いします。
  - 被災者や職員などの安全に関する徹底事項や通達がないのに、賃金のからむ人間的な通達ばかりで、教育委員会に対して強い不信感をいだいた。
  - 今は仕事をしなければと思うが、心と体の両面に大きな差がある。身体が思うようについていかない。
- 今後のために公務員として感じたこと**
- 災害時の指導体制のなさ、行政がすべきことをボランティアに頼りすぎ、思いやりと責任は別問題。安全性のよろさ、工事のチェックが必要。
  - 給食室が使用できる場所は、被災者のために炊き出しをしたら良かったと思う。またその作り手も出勤可能な調理員（嘱託調理員も含んで）が学校は違っても作った方がよいと思う。
  - 震災後は工作中的安全を常に確認。
  - 公務員という仕事は誰のためにあるのかということ、反省することが一杯です。調理員とし



ての職種を生かせなかったことが残念です。

- 震災前の本来業務は毎日毎日の仕事の慣れで、あまり身体の疲れは感じないが、震災後はあの広い給食室カウンター前に天井まで積み上げられた救援物資、また給水車からの水の確保（回転釜6、食缶、ポリバケツ、ビニール袋など）また、おにぎりの炊き出し2,400人分、学校全体が戦場のようでした。被災者のたくさんいる学校、いない学校ではそれぞれ異なりますが、もう少し連絡機関を設け、忙しいところへ応援に行けるよう何らかの工夫を考えてほしいものです。
- コツコツ努力するだけです。
- 市職員として、市民が非常事態の場合どう働か委員会での責任で明記し、行動上でも徹底させる。あの地震が夏であれば、運ばれるおにぎりや、お弁当では食中毒の心配がある。
- 徹底した指示を上から下へきっちりと伝達することが、いつでも出来るような役割分担をしておいた方がよいと思った。使用可能な調理室は開放すればいいと思う。
- ガス元コックしめる。
- 事態に対しての備えを痛感しました。
- 今までにないことだけに行き届かないところがあるのは、仕方ないのですが、避難されている方を不安がらせてしまったり、トラブルがやばりあったので、今後天災などの勤務について、決めておいた方がよい。
- 直接児童・生徒に関わる仕事なので、常に安全確保と対応を考えて行かなければならない。

- 私の職場はあまり被害はなかったもので、もっと早く給食業務につきたかった。
- 学校給食業務なので、震災にあたっては、住民のために出来る業務は毅然としてやるべきだ。
- 学校が炊き出しをし出したとき、指示をする人がばらばらだったので、どう動けばいいのかと戸惑ったり、いらだったりしたので、もっと的確にしてほしかった。
- 勤務中に大きな地震が起きた場合のことを考えると避難訓練がどれだけ役だったか大きな不安と疑問が残ります。
- 私は震災当日出勤しなかったし、特別休暇もとって、まず家族・親族・近隣の人への炊き出しなどに努めたけれど、本来の市職員の仕事につかなかったことが、すごく負い目を感じさせられたので、公務員として……すごくゆれた時期が長かったので改めて自分の職務ということを考え直す機会であったと思います。
- もし仕事にあの震災が起きていればぞーっとする思いです。今後災害などにおける訓練、市職員としての対応の仕方、研修に取り入れてほしい。
- どんな時でも、本来の業務が出来るようにしてほしい。
- もう少し連絡を取りあえるシステムがあればと思いました。もっと仕事がしたいと思うところと、手伝いに行きたかったと後で思ったとき、自分自身にくやしかったです。
- 今後また何か大きな事が起こった場合、私たちが皆さんの助けとなれるよう、充分に動けるよ



うに手配してください。

- 非常事態発生時の指示があまりはっきりせず、自分たちで仕事を見つけてしなければならぬこともあり、いろいろと考えさせられた。

#### 今後のために、被災者として思うこと

- 家賃補助してほしい。
- 実家が全壊で家を子供（兄弟）で建てます。僕は家を買ったばかりで多額の借金があり、そして実家のため、新たに借金が増えました。とてもきつい状態です。給料やボーナスを2倍ぐらいほしい。
- 仕事中にあんな地震が来たら、どうしようかと思う。子供を保育園に預けてるから、すぐに迎えに行けたらいいけど、行けなかったらどうしようかと思う。
- 仕事場が少し破損しましたが、ひどい地区は震災で仕事場（会社）などがなくなり、働く場所がなくなり、私たち働く場所があったという事で喜んで又頑張ろうと言う気持ちになりました。
- ぜいたくは出来なくなる。
- 別に変わりはないけど、ボランティア活動や炊き出しも体験してみたかった（自分がその大変さを体験していないから言えるんだろうけど…）。

Q25. 震災後あなたが感動したこと、嬉しかったこと、その他があれば何でも書いて下さい。

#### ボランティアについて

- ボランティアの方が良くしてくれました。
- ボランティアの方々がとても良く働いてくれたのですごく助かった。
- ボランティアの方に感動しました。
- ボランティアの若い方々が頑張っているのも、私で出来ることは何でもしようと思っていました。チーフ調理員としてたくさんの炊き出しが出来たこと、皆さんに喜んでもらったことが嬉しかった。
- 地域の方々の親切、又ボランティア活動に感動しました。それから自衛隊の救助活動には大変感動しました。
- ボランティアと共に話をしたり、自分自身の話・感動したこといろいろ。お弁当が冷たいとき、あたたかいコーヒーを出したらとても喜んでくれました。
- 他市からの助けやボランティアの方々の活躍ぶりに勇気づけられたし感動も覚えました。
- ボランティアの人々との交流。
- 学生の人達が、ボランティアとして汗をかきながら動いているのを見て、やるときはやるという（人間的？）な心があるのにビックリしました。
- 仕事の出来る喜びを感じた。人のやさしさ（ボランティア）が身にしみた。
- 学生の中で動いていて、子供が毎日ボランティ



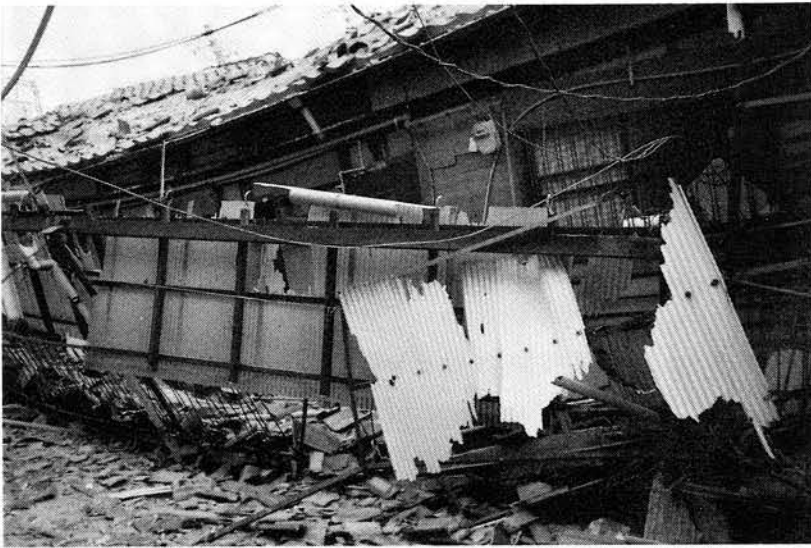
アに来て、階段・トイレ掃除などを冷たくなった手で雑巾掛けをしているのを見たとき、私ももっと頑張らなければと思いました。毎日忙しく動いていると全然話もしなかった先生や挨拶程度の先生と分かり合えたことが嬉しかった。

- ボランティアの人の良い面・悪い事件など救援物資etc、人間のいろんな面が見えた。
- 全国から駆けつけてきたボランティアの人達や被災者どうしが力を合わせて互いに助け合っている姿に大変感動した。

#### 家族・友人について

- 友人に衣類を頂いたこと、おにぎりやお茶など頂いたこと。
- 日頃、疎遠になっていた友達・親戚から安否の電話があったこと、近所の方々といろんな情報交換をしたこと。
- 家族の大切を改めて強く感じた。
- 思いもかけない古い友達から次々に「大丈夫」の連絡があり、嬉しく感じました。
- 1歳の子供と7か月の赤ちゃんがいます。震災の前に家を買って、北六甲台に引っ越して良かった。電気は半日止まっただけで、ガスもほとんど止まらなかった。
- 震災後3日間、大阪の友人宅でお世話になり、その親や親戚・友人の人達までが、水やカセットコンロのガスやその他いる物を買ってきてくれたりして、助けてもらったことが嬉しかった。
- まず家族・親戚が何よりも無事であったことが嬉しかった。

- 県外の友人・親類から救援物資や電話での安否の問い合わせがうれしかった。
- 兄弟・親類・近所・職場の人、それぞれ心配してもらい、特に震災後兄弟と連絡がとれたときは涙が出ました。水・ガスが出た時、毎日使っている有り難さが良くわかりました。
- 震災の時、電話・交通が不通となっているのに、どうにかして連絡を取ろうとしてくれた親族・知人が交通がマヒしている中を何十時間もかけて心配で来てくれて嬉しかったです。
- 友人の親切なこと、人との関わりがとても良かった。
- 各地にいる友人が安否を尋ねるのみならず、数人が避難の場とし、自宅の提供を申し出てくれたことや、電話が通じないことと、自転車で家まで確認に来てくれたこと、20年近く逢っていない友達も多数心配してくれたことなど、今まで以上に「もつべきものは友」を実感し嬉しかった。
- 当たり前のことなのに救援物資をもって、姉妹が遠方より来てくれたこと。他人に何かしてあげられたこと。
- 家・家族・親戚が無事であったことが一番嬉しかった。又、親戚、友人のお見舞、復興支援に日本・世界中の人の温かさ、やさしさ、力強さに感動した。
- 息子が思っていたよりずいぶん成長していたこと。とっても良く働いてくれ、私を助けてくれました。この時ばかりは勉強だけではないとつくづく思いました。



○友人、知人の優しさ、遠いところから水などをもってきてもらい、人の気持ちが身にしみて嬉しかった。

○私は神戸で震災にあい、子供たちは西宮のおばあちゃんの所で泊まり、震災にあいました。連絡がとれずJR西宮の北側がひどいとラジオで聴き、自分自身ただ無事を祈り、毎日交通遮断のために行くに行けず泣いてばかりいたところ、同僚の方から連絡をいただき、子供達のいる避難場所へ行ってくれ、ご飯や薬、おやつ、身体の状態など見てくれて、自分が行けない分、私の代わりに母親をしてくれてすごく嬉しかったです。本当の人の優しさ・あたたかさがわかりました。普段口やかましく、うるさく言っていたても、心はすごく優しいんですね……。

### 救援活動、した、された

- 仕事仲間や友人地域の人が見舞ってくれたこと。国民性。義援金や募金ありがとうございました。
- 全国津々浦々の人達の救援活動に感動した。又給食が再開した時に、それまで体の調子が悪く、ぐずぐずしていたのがシャキッとした感じがした。仕事が身体の芯までしみ込んでいたと改めて思った。給食が作れて嬉しかった。
- 救援物資の中にたくさんの激励文が入っていたこと。知らない方から言葉をかけられ元気づけられたこと。人間愛が身にしみて嬉しかったです。
- 助け合いの精神というか、人の親切・真心が身にしみました。頭の下がる思いで一杯です。言

葉では言い尽くせないです。

- 全国各地から炊き出し・救援物資をいただき、人間の優しさ・思いやりを身にしみて感じました。私どももいつの日か又恩返しが出来たらいいなあ、と職場で話し合っています。身体はしんどかったけれども、良い体験をさせていただき、組合からもたくさんの見舞金をいただきました。この震災時に何か組合のあたたかさを知り、いつも私たちを守って下さっていることの大切さを知りました。ごくろうさまでした。
- 避難所（学校）に2週間いましたが、皆で助け合い、全国からの励まし・応援に涙ができました。
- 自治労連はじめ多くの仲間が入れ替わり立ち替わり応援に来てくれたこと。
- あまり普段から付き合い合っていない近所の方にも、おにぎりをいただいたり、声をかけてもらった。いろいろな方にお世話になり、本当にありがたかった。
- 交通網のないとき、手に持ちきれない荷物を持って避難所に来てくれたことと、「無事やったか、良かった良かった」の言葉、何より嬉しかったです。
- たくさんの方からお見舞や励ましの手紙をいただいたこと、いままで近所でも知らなかった人々と仲良くなった。
- 一部の職員・近所の方々、ボランティアの方々、自衛隊の方々、援助してくれた他府県の方々、本当にありがとうございました。もし他府県でこんなことがあれば（あってはいけないけれど）、



今度は僕が少しでも力になればと言う気持ちでいっぱいです。

- 近所の方々が本当に良く協力して、知らない人にも親切でした。そして自分もそうでした。老若男女関係なく助け合い、精神的にも、とても支えられました。
- 水汲みの時、近所のおじさんが階段4階までもってあがってくれたりして助け合いが出来た。
- 17日の日、学校に出勤していたとき、近所の人々がガス漏れの連絡をしてくれと頼みに来られたので対応しましたが、その後当時のことを大変喜ばれ、道であっても話をするようになりました。
- 給水車が来てくれた。隣人が水を持ってきてくれた。40年前の学校の友達から贈り物が届いた。
- トイレ、他の生活の水を川にバケツで汲みに行っていましたので、給水車が、園に直接水を届けて下さったことは、何よりも嬉しかったです。
- 地域の人達と助け合えたことが嬉しかった。ガス、水道が長く断たれていたのも、お風呂は東条町まで出かけたけれど、町営の施設で親切にしていたので（洗濯もさせていただいた）嬉しかった。
- ライフラインが復活したときと、他都市からの救援など感動しました。
- 全国からのいろいろな人の温かさを大切に、のど元をすぎても忘れることなく過ごしたい。

#### 人のやさしさ、思いやり

- 隣近所どんなことでも話し合うようになりまし

た。

- 人の親切さや、優しさがわかり感動しました。
- 人の気持ちの暖かさが身にしみた。
- 大阪の妹が体が悪いのに食事を運んでくれたり、保養所の紹介など、物心ともに助けてもらい、先生にお風呂情報をいただいた。ボランティアの人に引っ越しを手伝ってもらった。
- 避難者の皆さんにいろいろなことを教えていただきました。
- 人間としての情を感じて、嬉しかったです。
- 人の親切。
- 若い人・年配の人もみんな一緒になって避難者の人達を勇気づけていました。人に親切・思いやり、自分にも感謝の気持ちが大切だとつくづく思いました。
- 親切・思いやり、共通の会話が出来たこと。
- 人の親切に心を打たれました。
- 親切、思いやりに感謝した。
- 話をしなかった近所の人と仲良くなった。
- 北部の方はあまり被災もなく食料・水・ガス・電気も通り、少しでもみんなの役に立つよう、おにぎりづくりに2週間ほどボランティアに行きました。
- 「人は人しか助けられない」という言葉が心に残っている。
- 子供が夜急に39度以上の熱を出したとき、すぐに病院に連絡を取って下さったボランティアの方がいたり、近所の方が（普段あまり話をしてない）野菜などを下さったり、井戸水を解放して下さったり、本当にいろいろな方に助けてい



いただきました。他にもいろんなことで嬉しく思うことがありました。子供が小さいので動きがとれず、お世話になるばかりでしたが、その分主人は走り回っていました。自分も何かできる時が来たら役に立ちたいと思います。教えられることが多かったです。

- 震災後やっと水道の水が出たときは、本当に嬉しかった。
- まわりの人達の優しさ。
- 人と人とのつながりを、生きる力を見た感じがします。
- この震災で本当の人の気持ちが分かりました。

自分自身のことしか考えていない職場です。

- 家族が無事生きていたこと、全員出動という公務員の責任と家族を守ると言うことの難しさが大きく感じられた。死よりも生きることが難しい。

#### その他

- 被災者にみんな優しくかった。助け合うことができた。被災に強い行政をきめ細かく作り、校区単位で学校園で食事や水をまかなえるようになればいいと思う。

## 医 療 支 部

医療支部は震災後3週間が経った1月31日、全職場でアンケートを実施しました。

そしてアンケート結果をもとに、組合員の勤務条件や健康問題など切実な要求はもとより、患者が人間らしく入院が続けられることなどを求めて病院当局と交渉を重ねてきました。

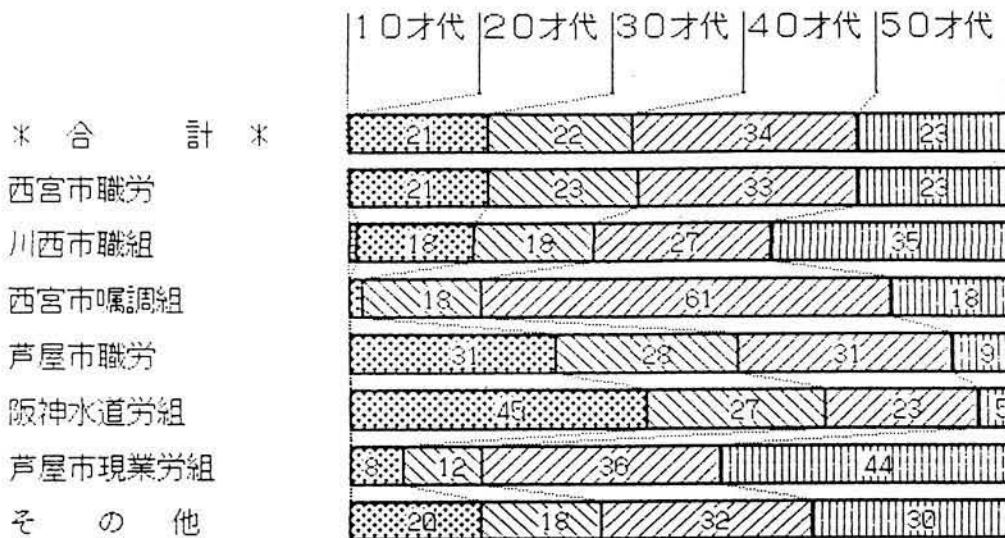
医療支部の「申し入れ内容」や「アンケート結果」は、資料229ページから233ページの「医療支部ニュース」をご覧ください。

# 婦 人 部

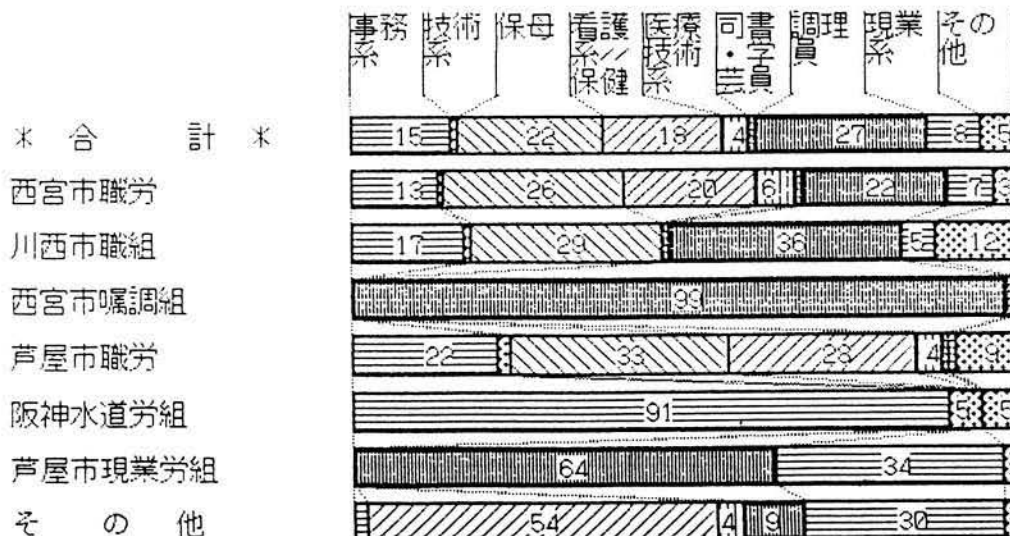
兵庫自治労連婦人部は、震災から5カ月が経った6月に「震災実態アンケート」を実施し、1000名を超える組合員から回答を得ました。

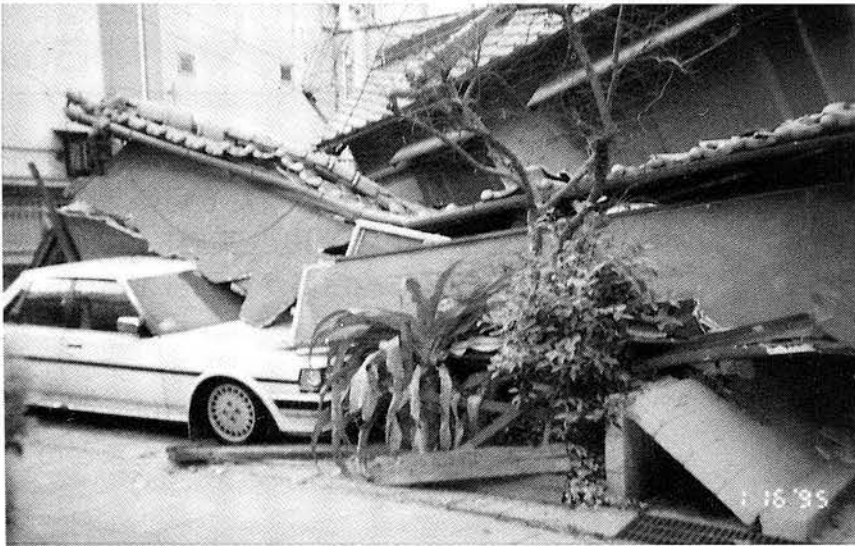
以下のグラフは、兵庫自治労連婦人部全体の集計です。アンケートに寄せられた「声」は、西宮市職労婦人部組合員の声をまとめています。

## Q1. あなたの年齢は

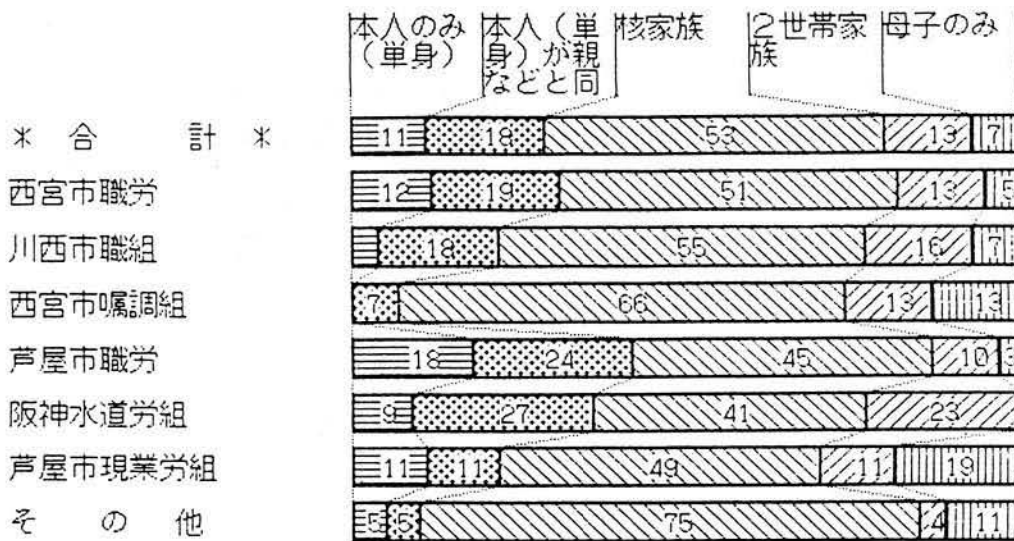


## Q2. 職種について

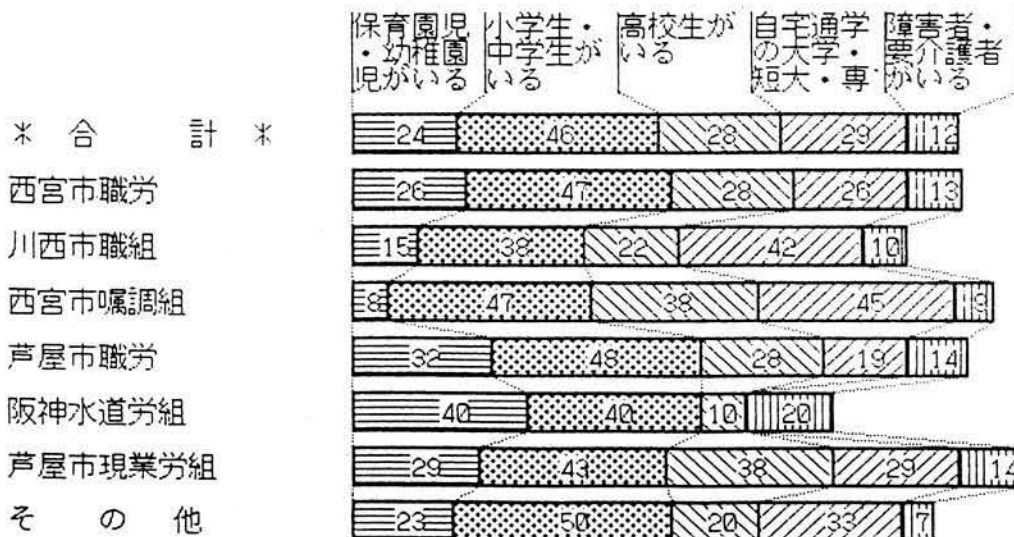




Q 3. 家族構成について

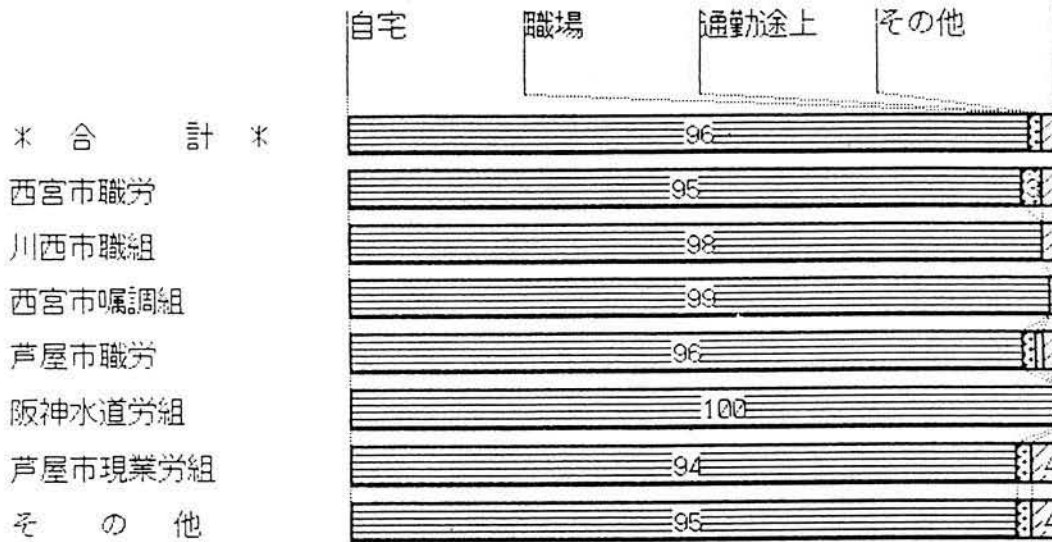


Q 4. 家族の状況について、以下の項目で当てはまるものをすべて記入して下さい。

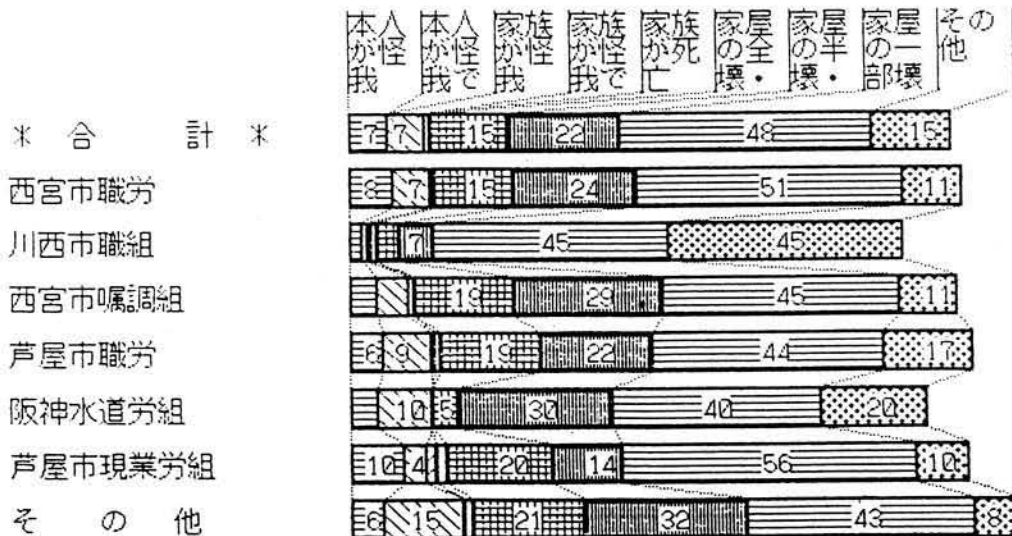




Q 5. 1月17日の震災発生時あなたはどこにいましたか。

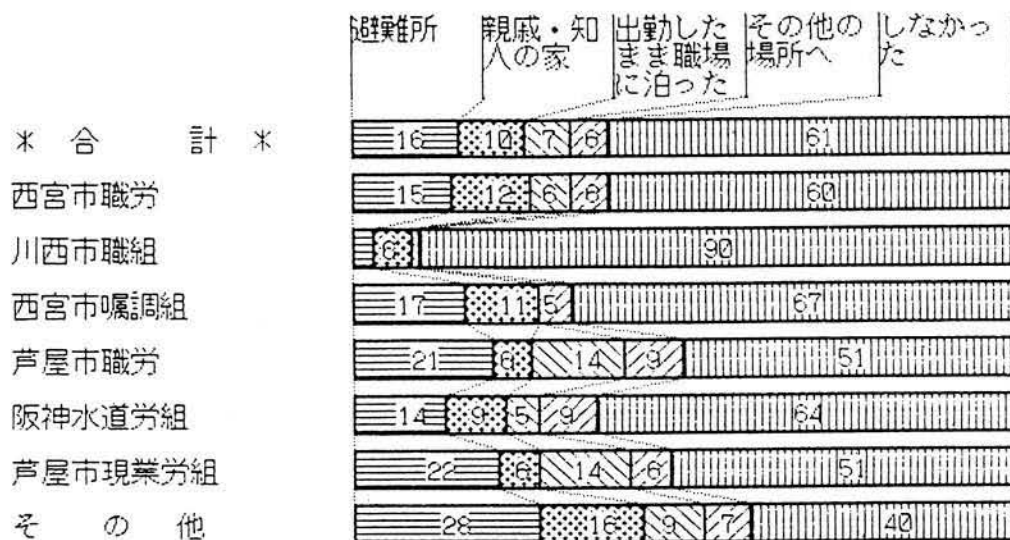


Q 6. あなたの家族及び家屋の被害状況はどうでしたか。(当てはまるものすべて)

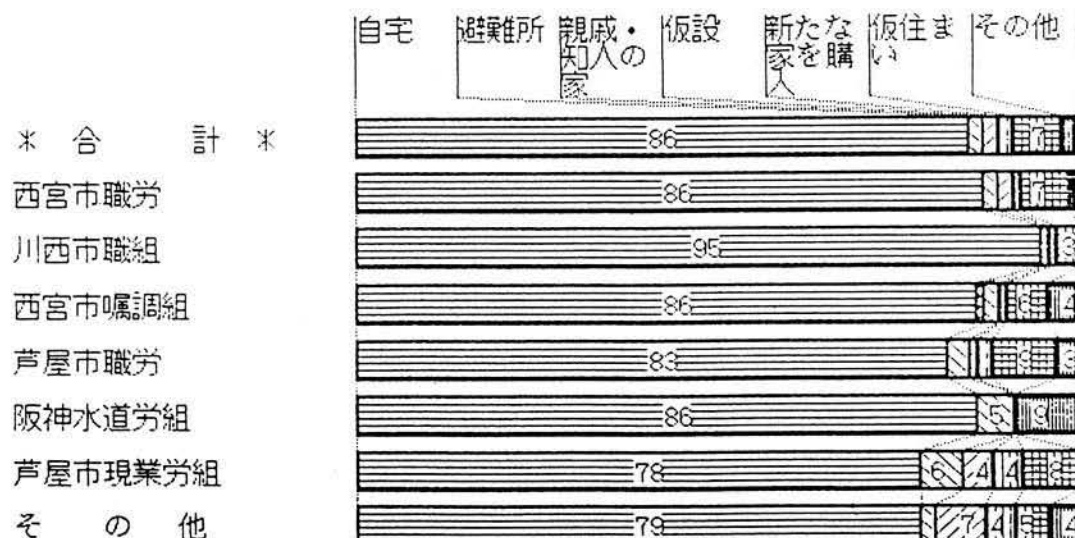




Q 7. あなたは、17日当日は避難のため外泊しましたか。

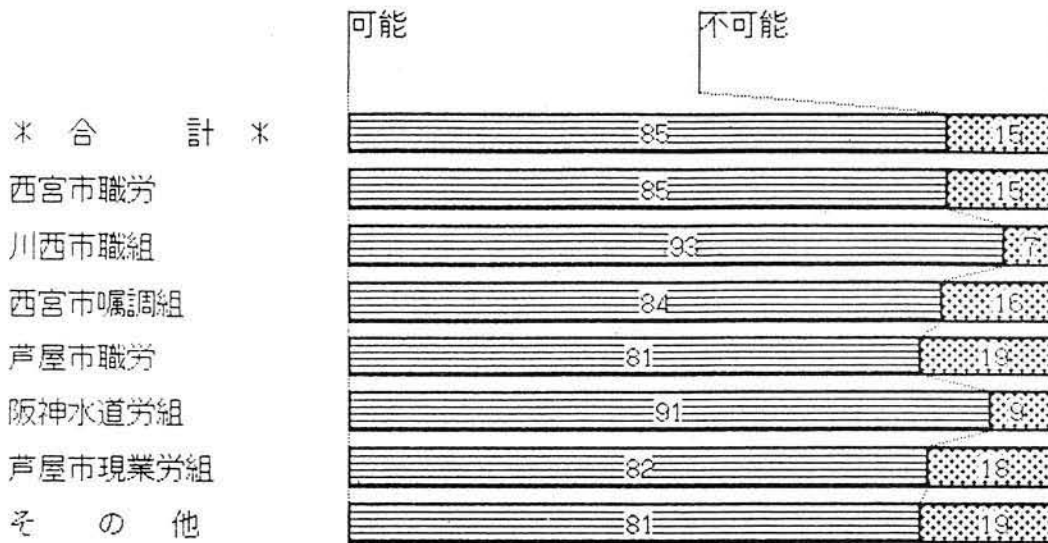


Q 8. あなたは、6月現在どこにお住まいですか。

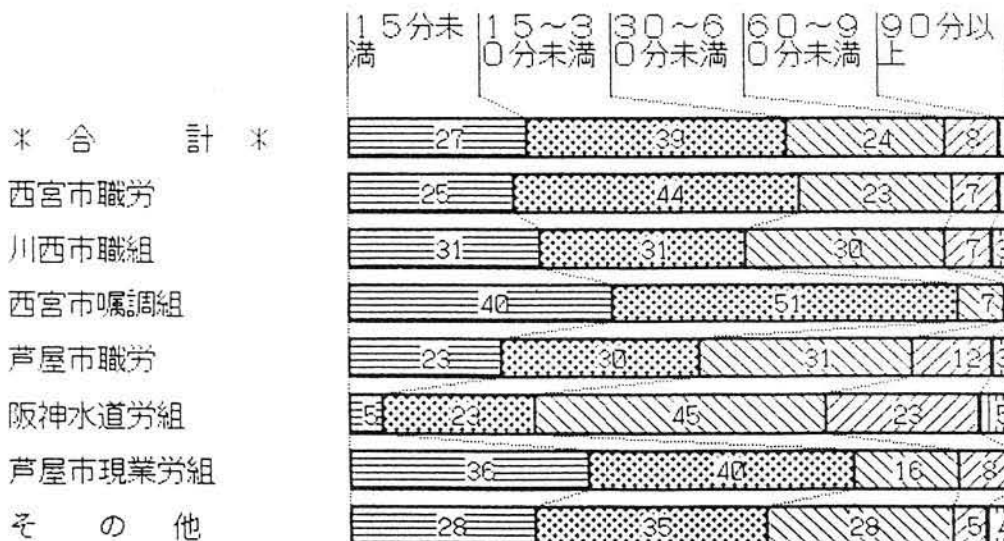




Q9. あなたは、震災前の自宅に住み続けることは可能ですか。

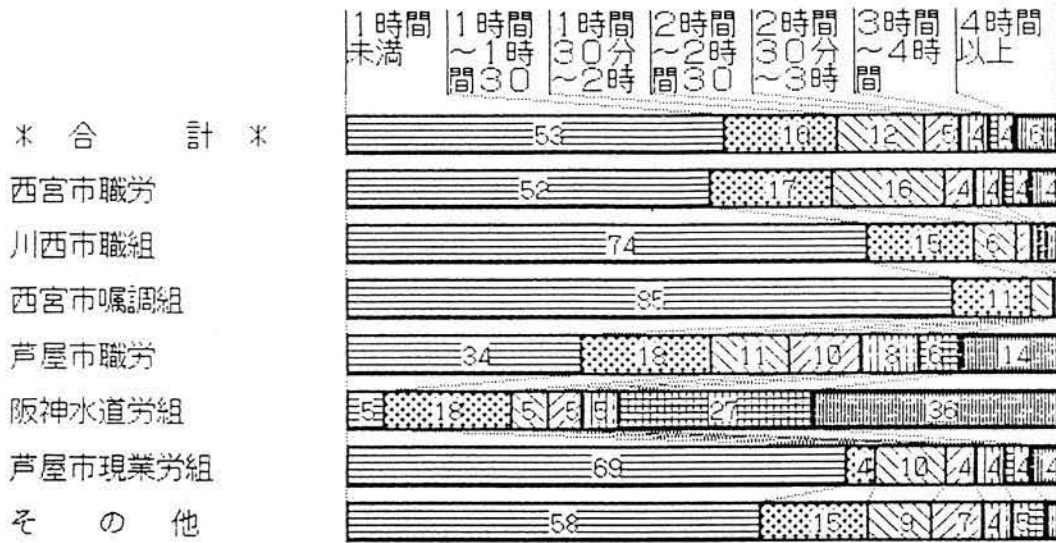


Q10. 震災前の片道の通勤時間は。

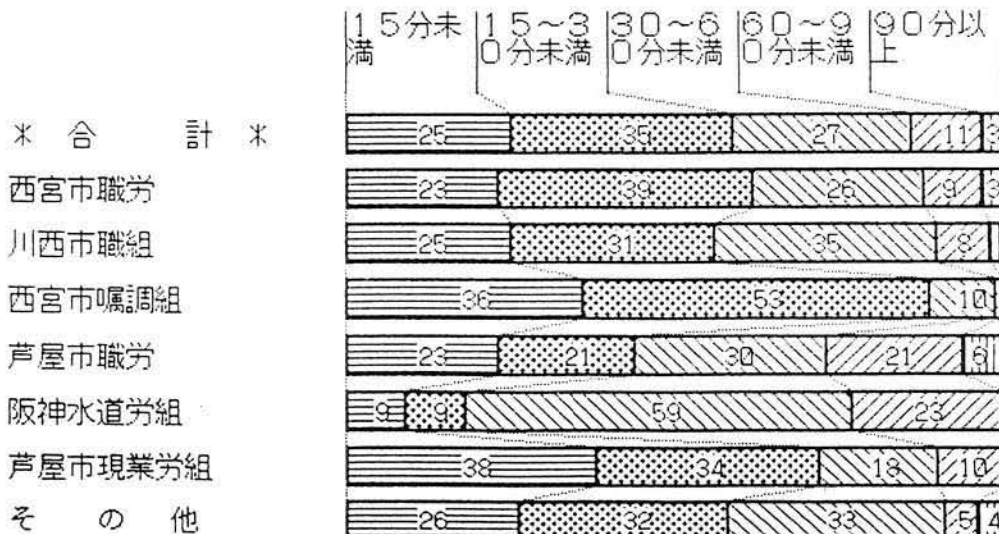




Q11. 震災後最も長かったときの片道の通勤時間は。



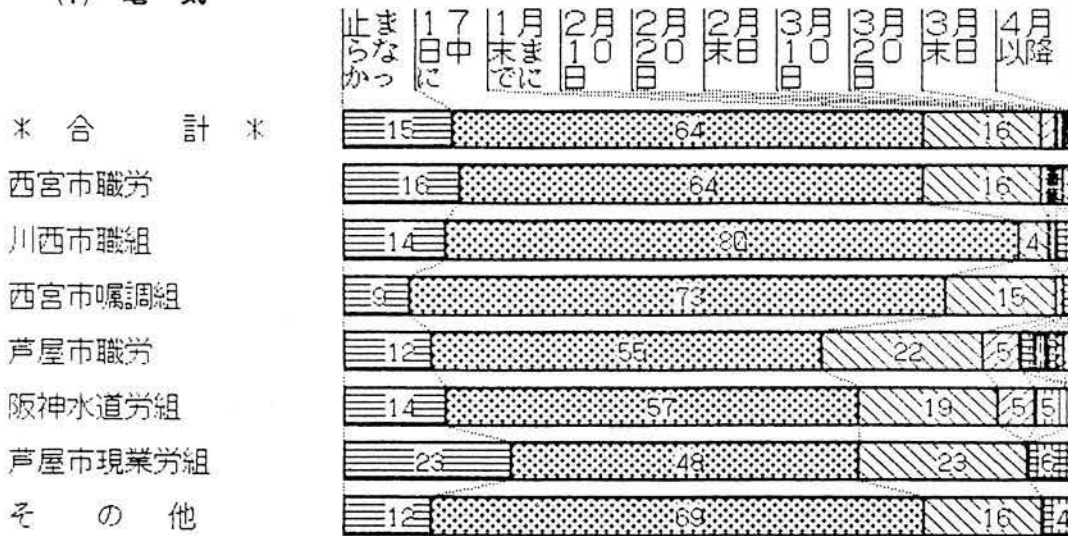
Q12. 現在の通勤時間は。



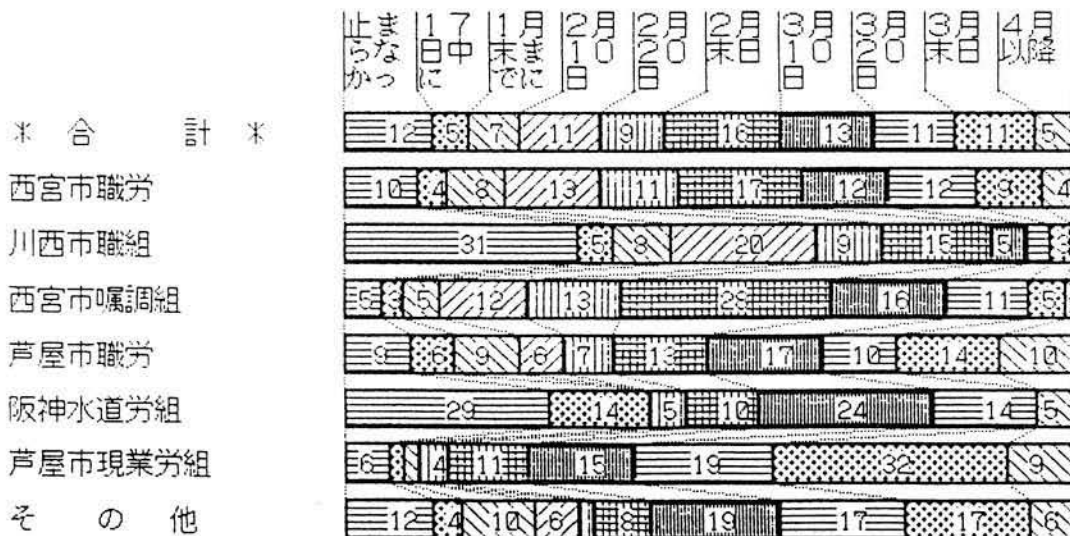


Q13. あなたの家のライフラインはいつ復旧しましたか。

(1) 電 気

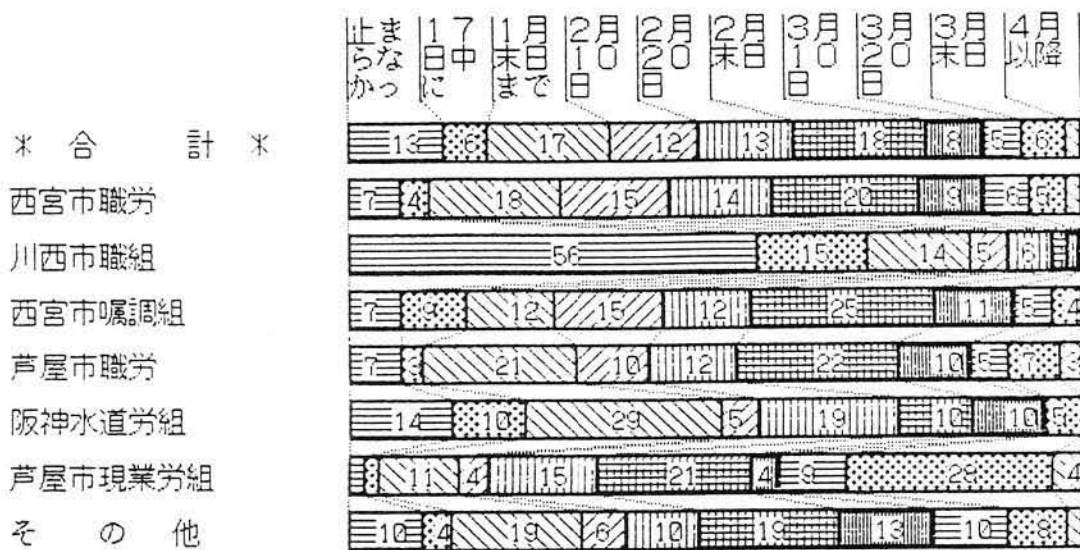


(2) ガ ス



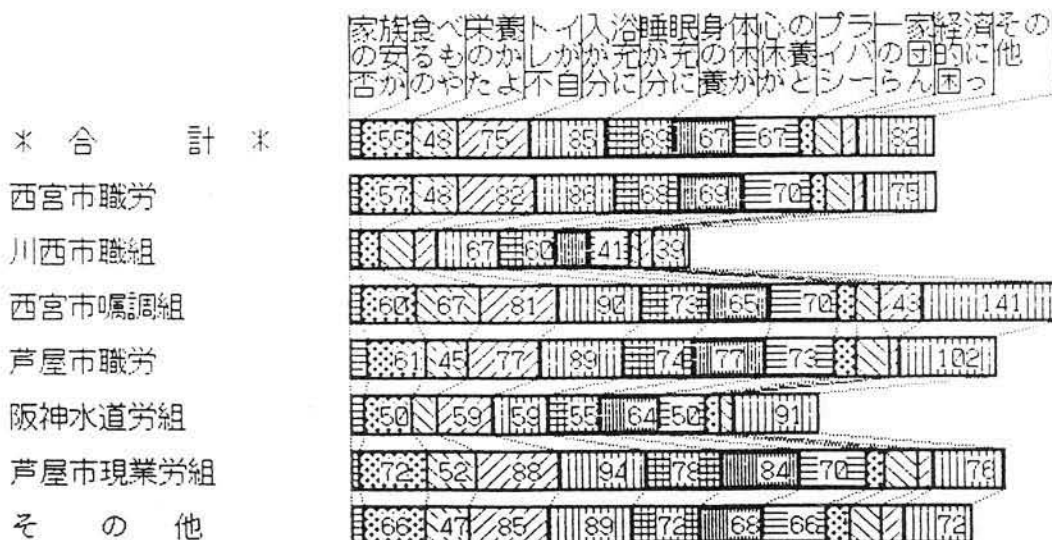


(3) 水道



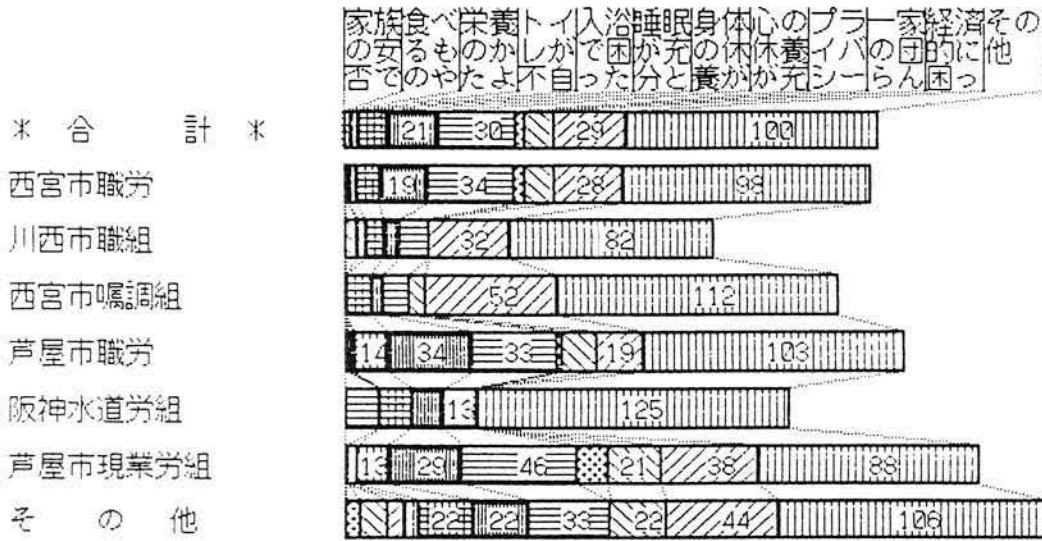
Q14. 震災後1ヶ月の間で困ったり、気になった問題をあげて下さい。

(当てはまるものすべて)

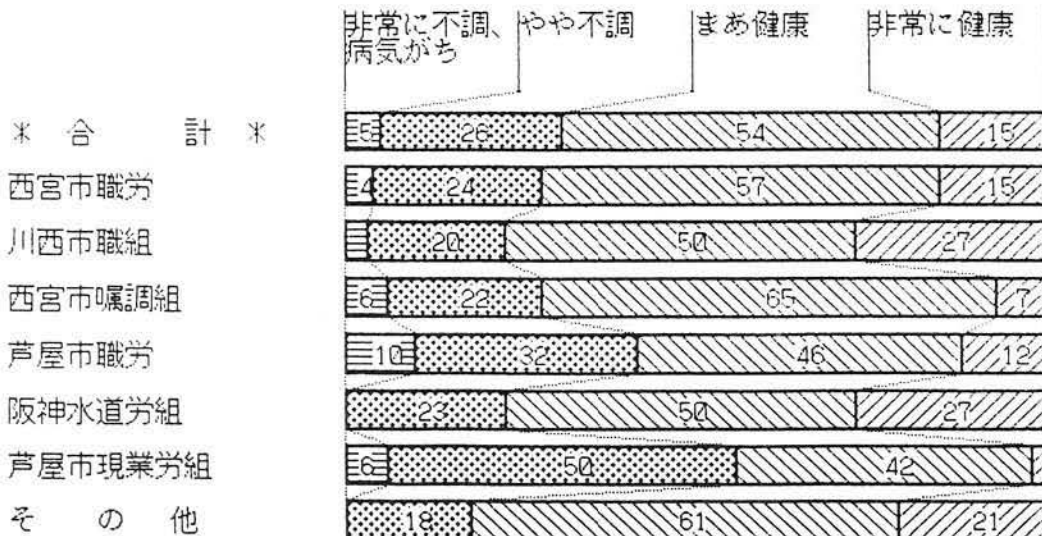


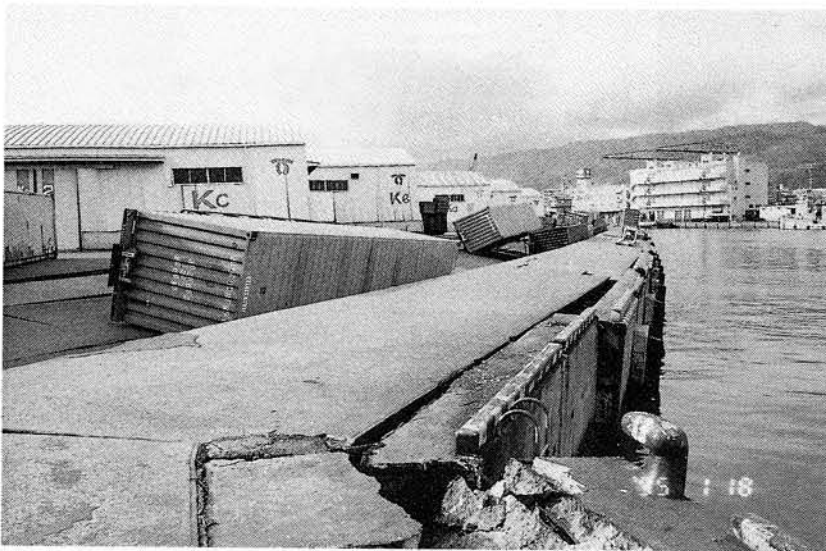


Q15. 6月現在も悩んでいる問題について、上記より選んで下さい。  
(当てはまるものすべて)

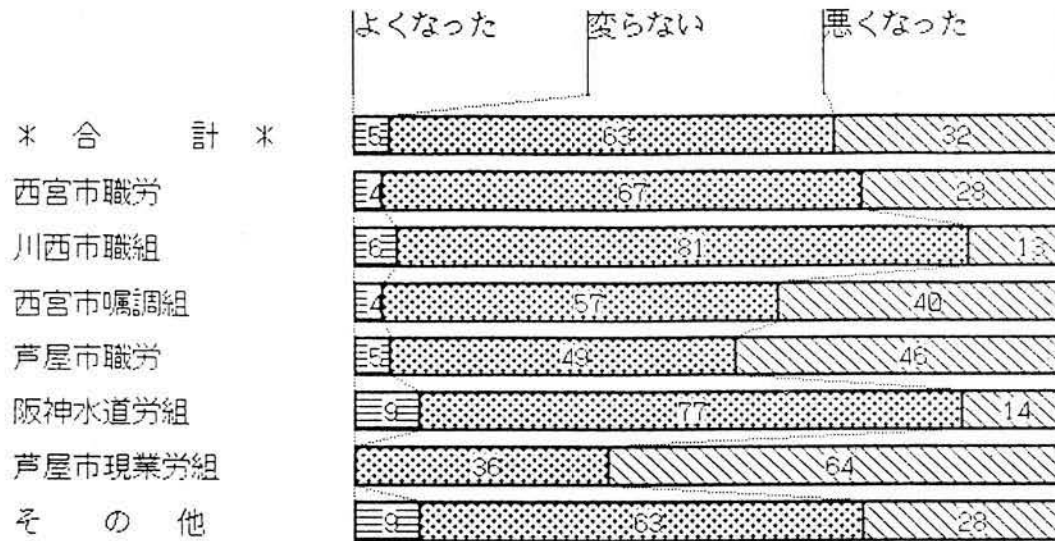


Q16. 現在のあなたの健康状態は

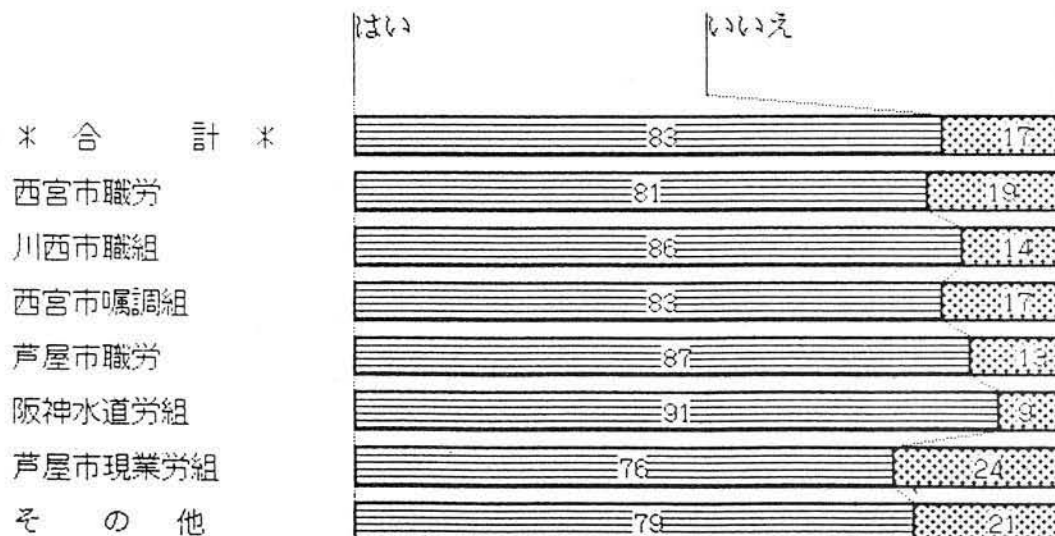




Q17. 現在のあなたの健康状態は震災前に比べて

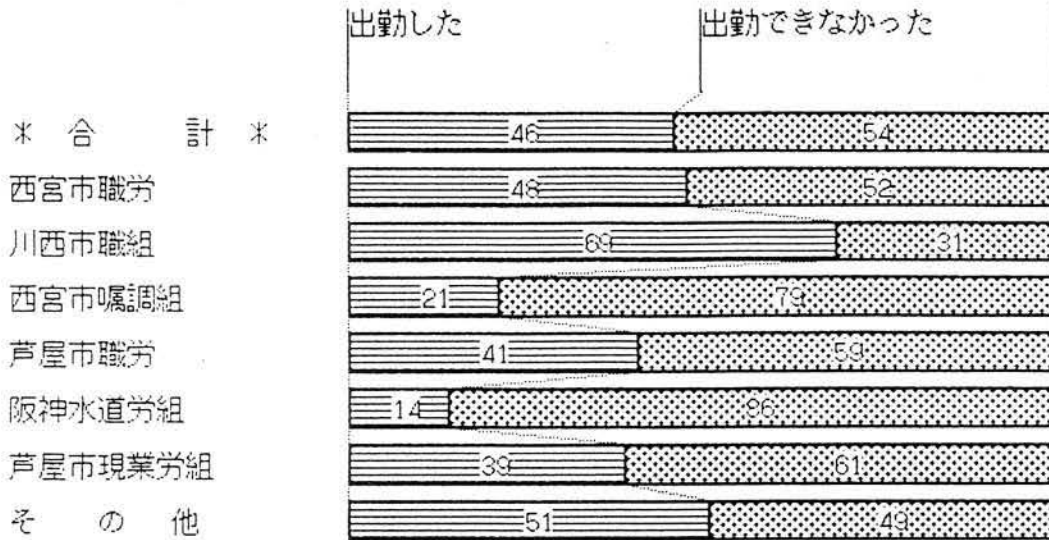


Q18. 17日当日は勤務すべき日でしたか

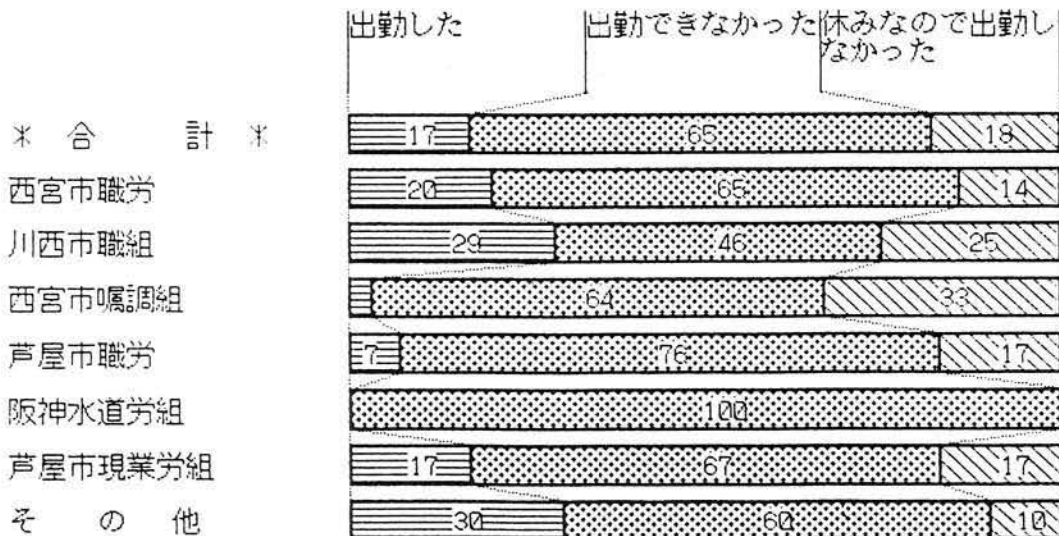




Q19. 上記で (①はい) の方にお聞きします。出勤しましたか。

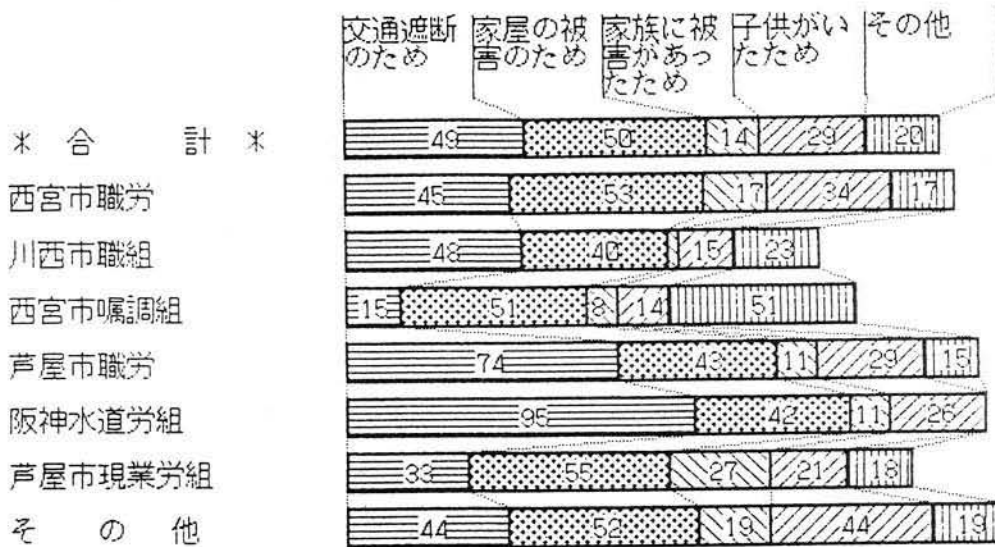


Q20. 上記で (②いいえ) の方にお聞きします。出勤しましたか。

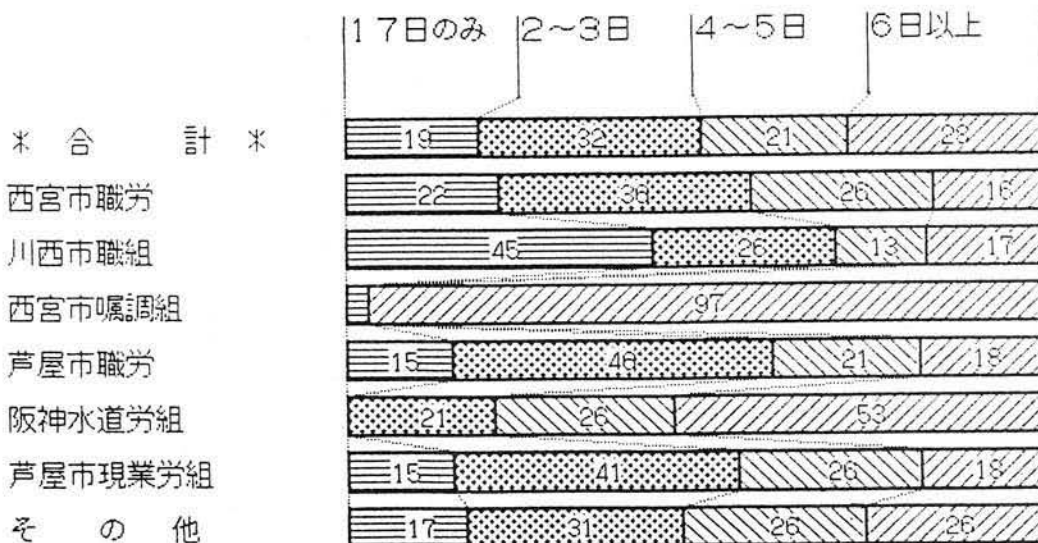


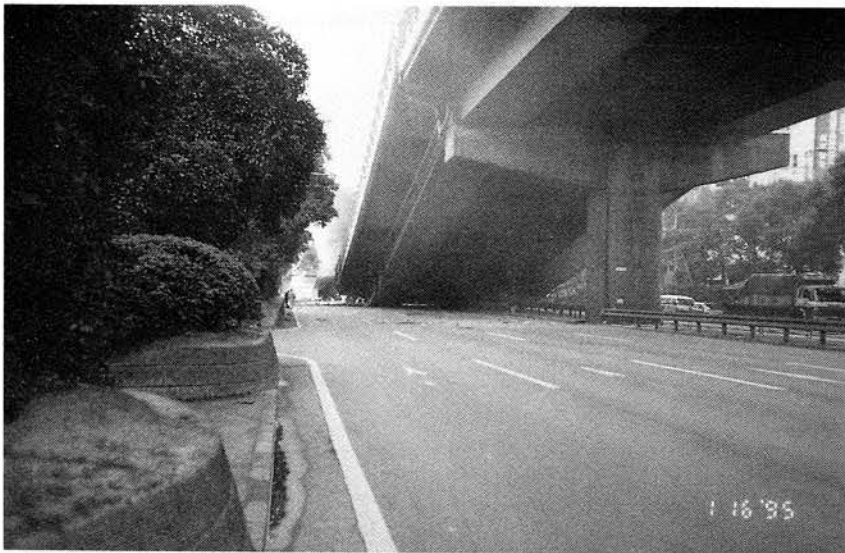


Q21. 出勤出来なかった人の理由は（当てはまるものすべて）

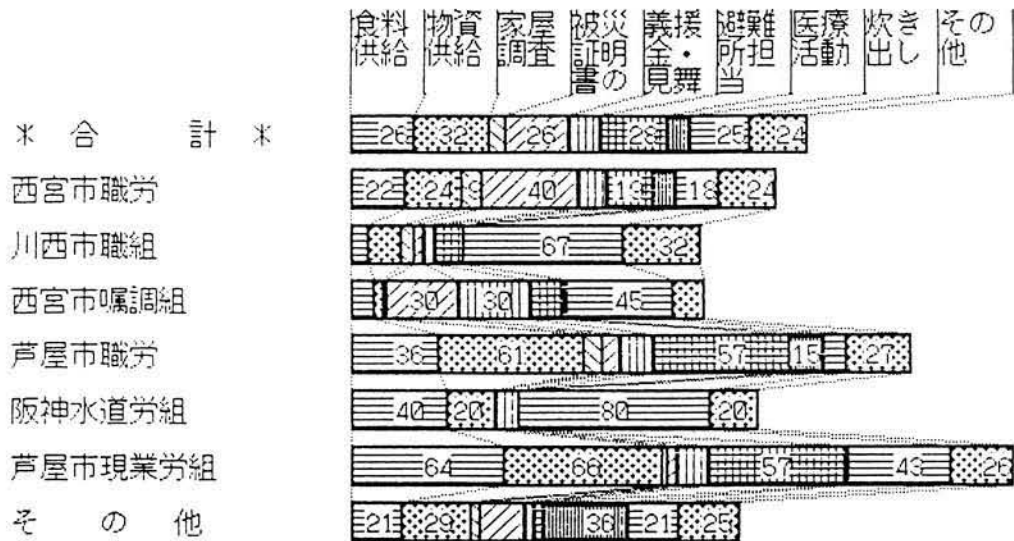


Q22. あなたは、震災のため何日休みましたか。

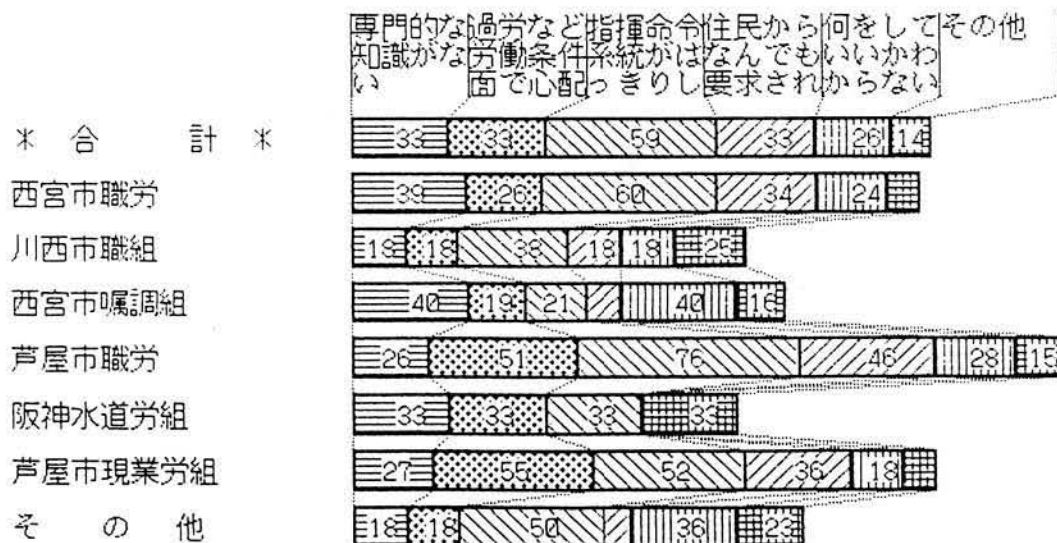




Q23. あなたは、本来業務以外の震災業務として、どのような業務に従事しましたか。（当てはまるものすべて）

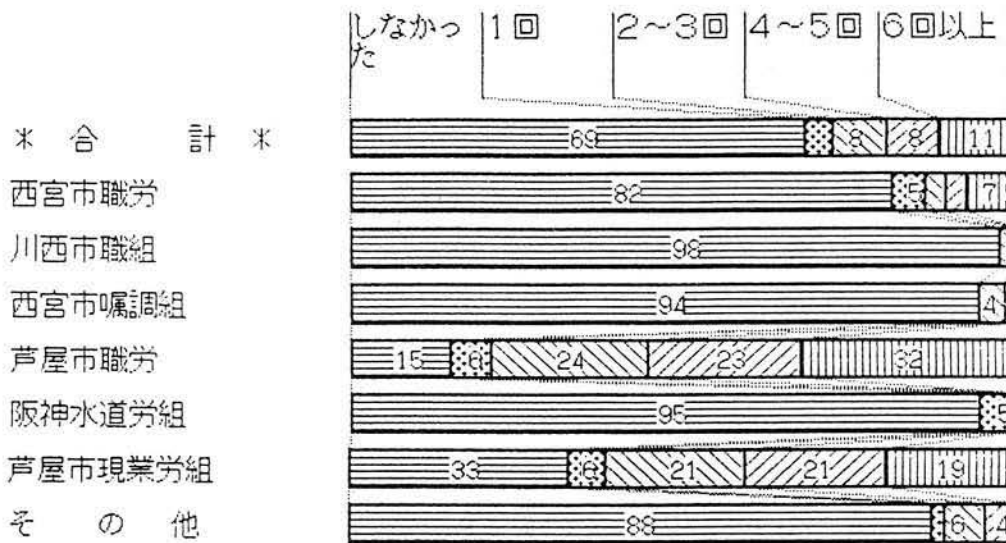


Q24. その業務に就いて、不安に感じたことはなんですか。（当てはまるものすべて）

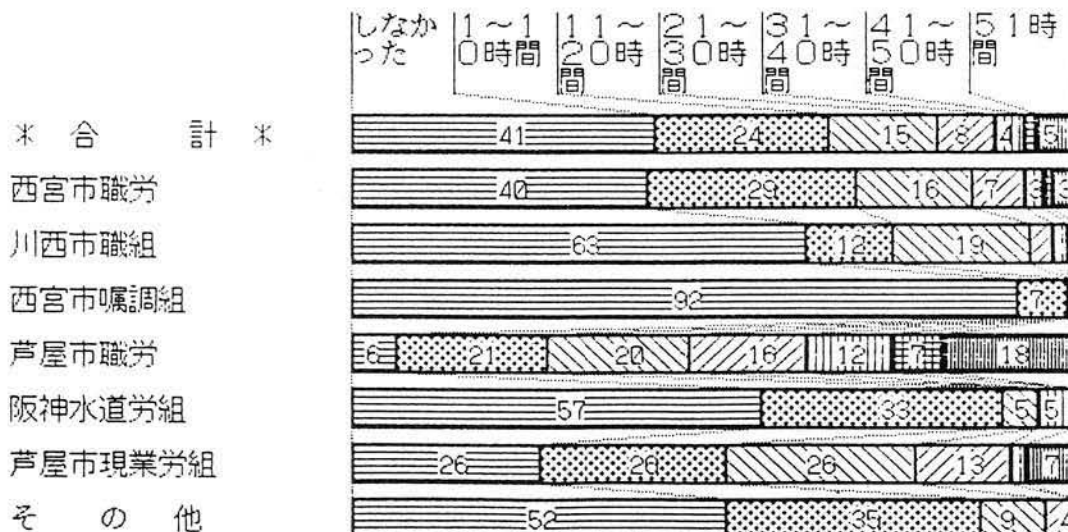




Q25. あなたは、震災のために何回夜勤をしましたか。

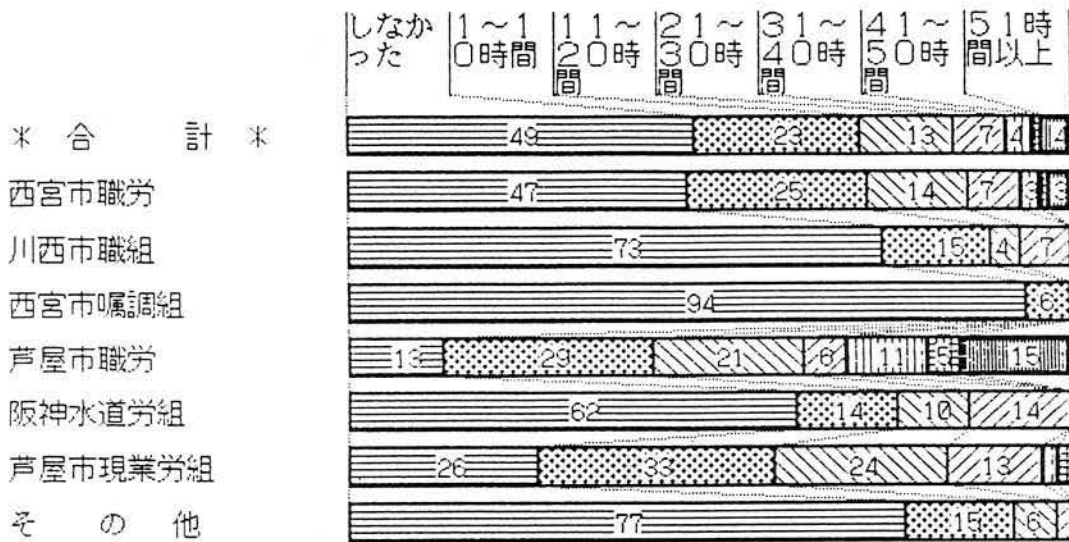


Q26. あなたは、震災のために1月中に何時間超勤をしましたか。

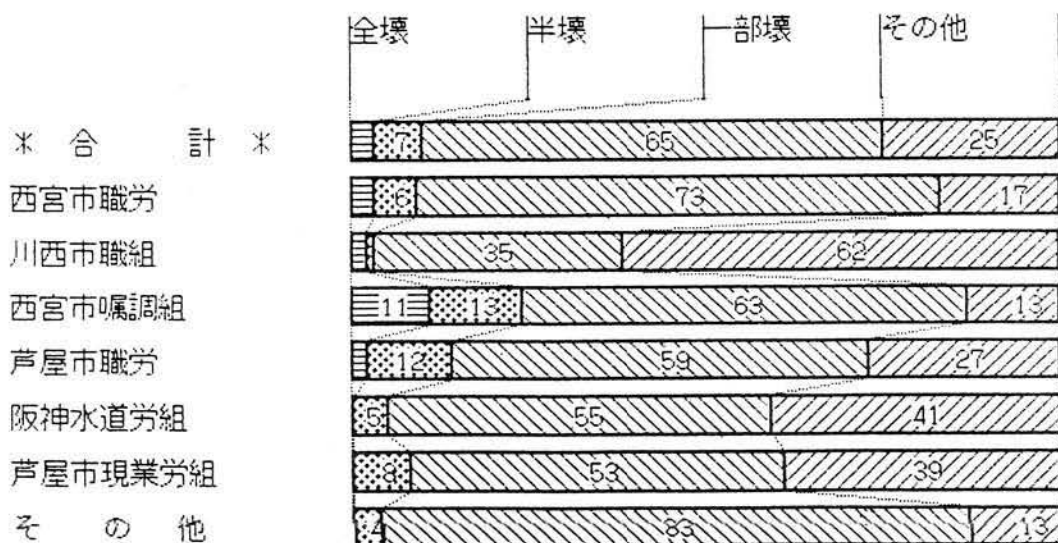




Q27. あなたは、震災のために2月中に何時間超勤をしましたか。



Q28. あなたの勤務場所の被害状況は





Q29. あなたの勤務場所のライフラインはいつ復旧しましたか。

(1) 電気

＊ 合 計 ＊

西宮市職労

川西市職組

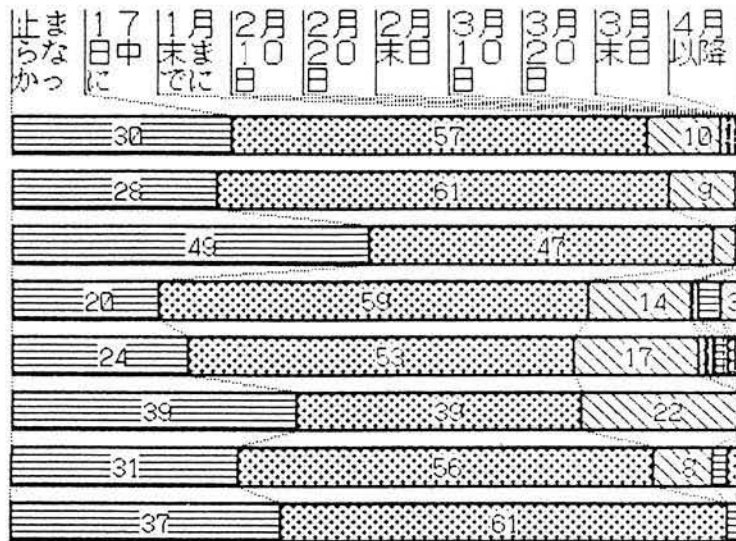
西宮市囀調組

芦屋市職労

阪神水道労組

芦屋市現業労組

そ の 他



(2) ガス

＊ 合 計 ＊

西宮市職労

川西市職組

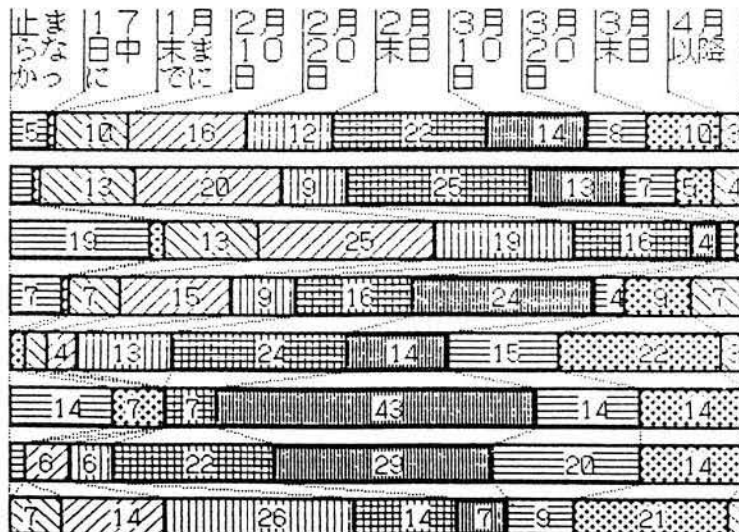
西宮市囀調組

芦屋市職労

阪神水道労組

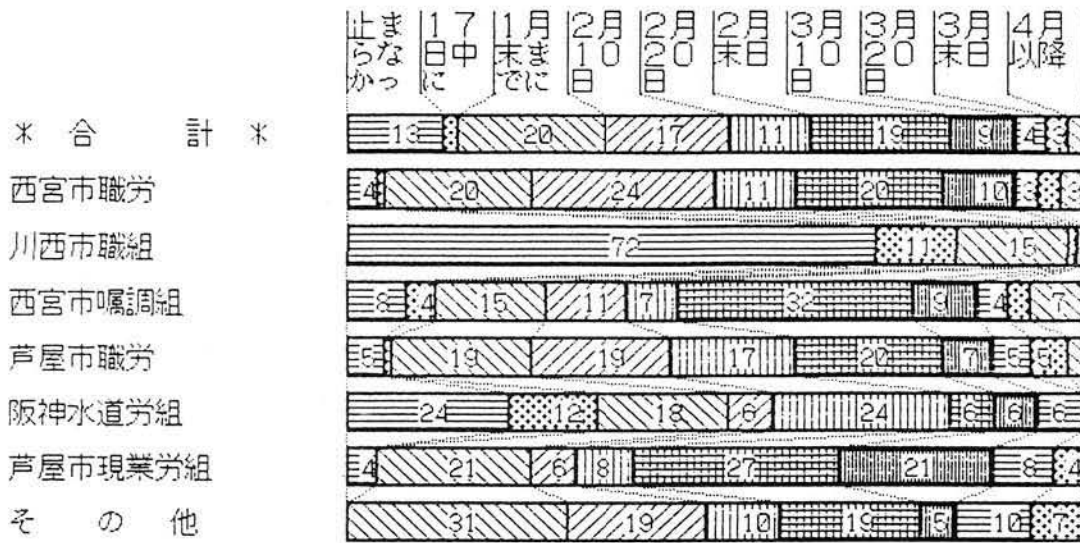
芦屋市現業労組

そ の 他

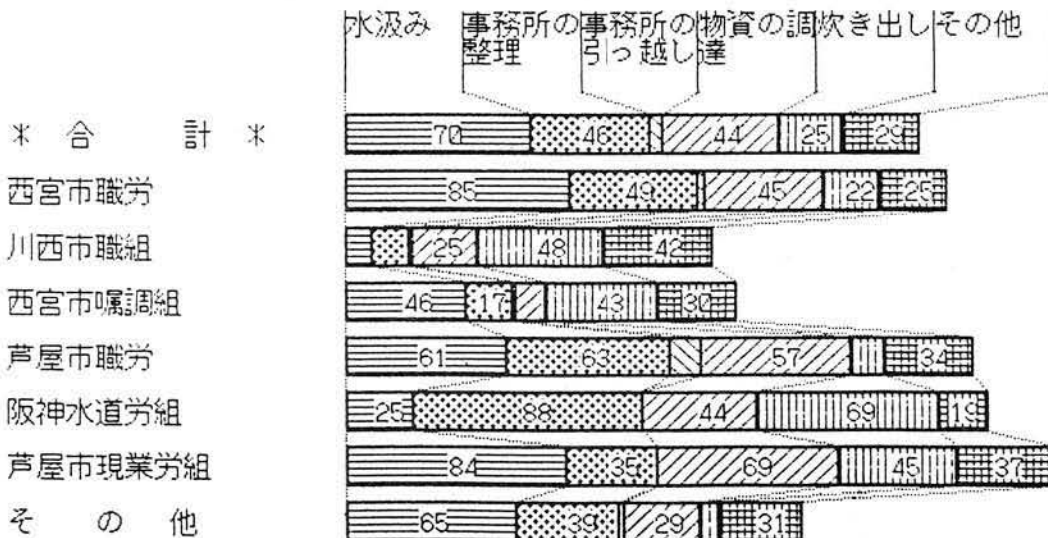




(3) 水道

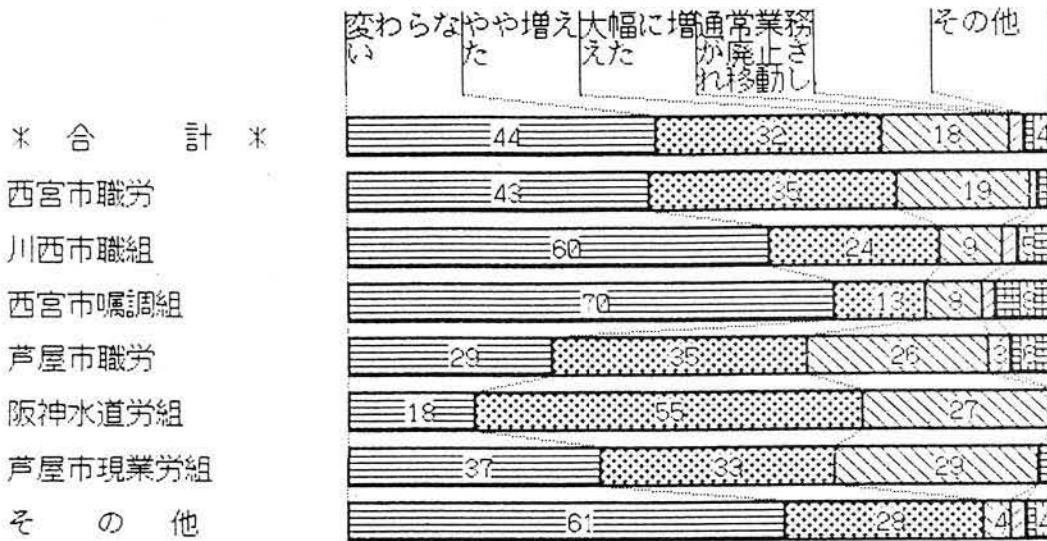


Q30. あなたの職場では本来業務を進める上で震災のためにどんな業務を  
しましたか。(当てはまるものすべて)

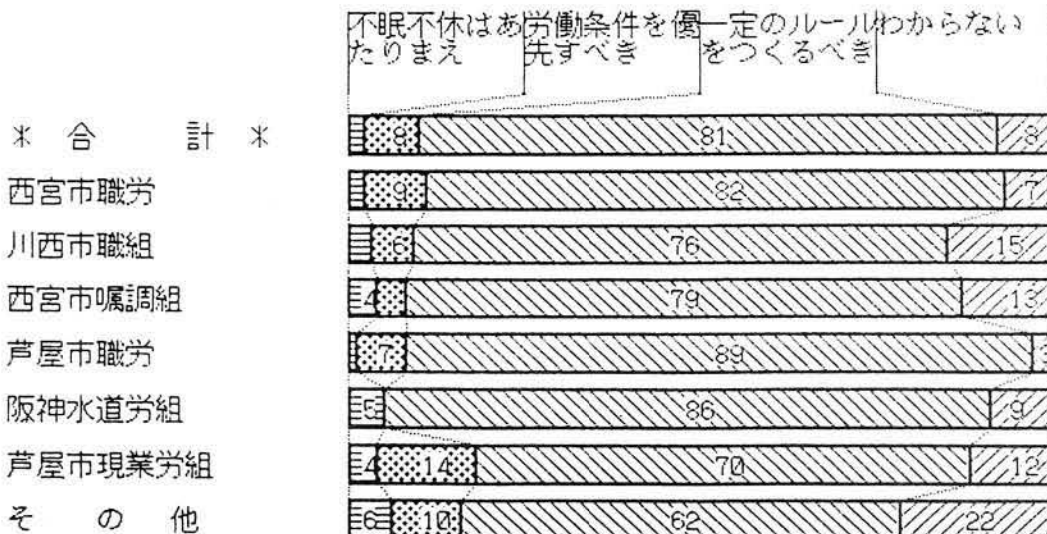




Q31. あなたの職場では、震災関連で昨年に比べて業務内容が増えましたか。

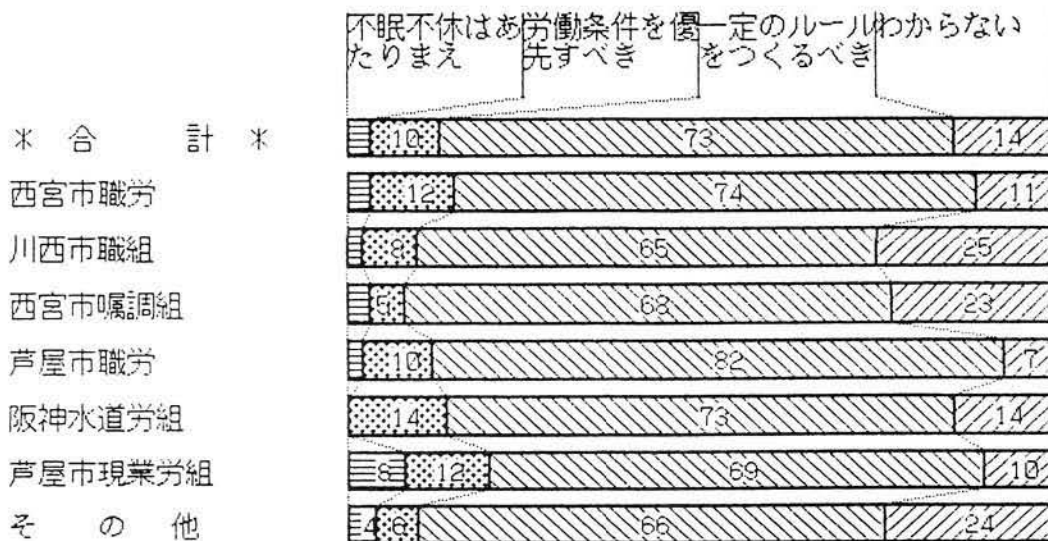


Q32. あなたは、震災直後、職員が不眠不休に近い状態で復旧業務にかかわったことについて、どうあるべきだと思いますか。

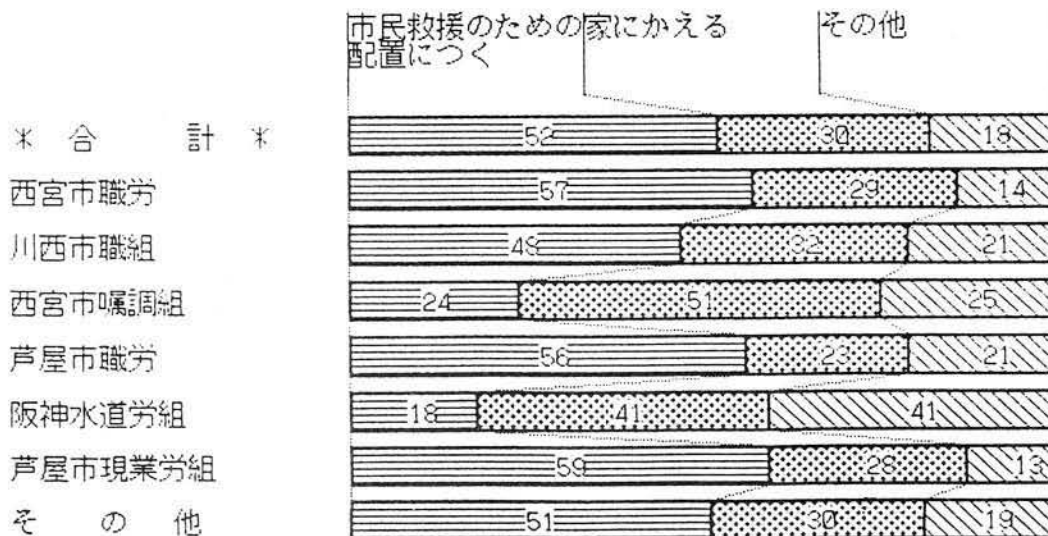


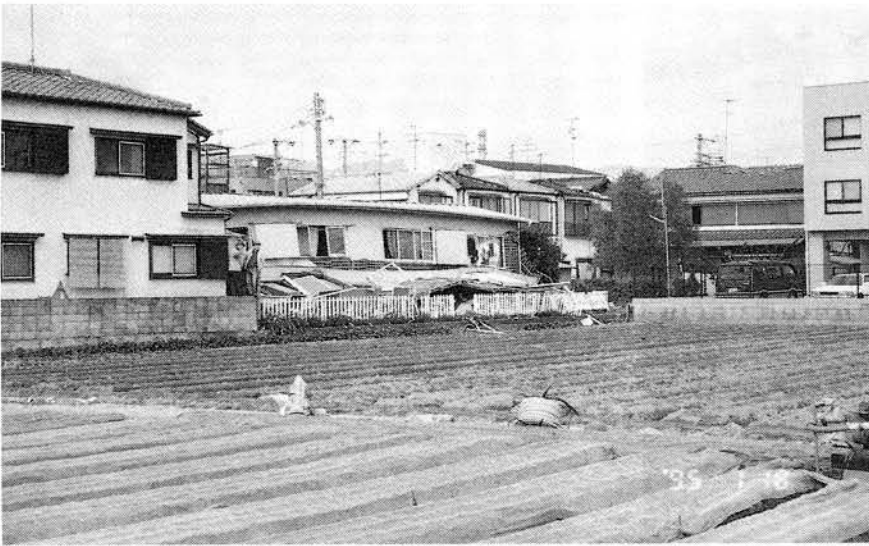


Q33. あなたは、女性が震災のために深夜勤務をするのはどう思いますか。



Q34. もし執務時間内に地震がおこったら、あなたはどうしますか。





**Q35. 震災にかかわって思うことを何でもお書き下さい。**

- まともな身体状態で働けるよう、また有効な活動ができるよう、体制づくりを速くしっかりつくってからみんなのできるだけ頑張りたい。特に管理職の人はただ働くだけでなくしっかり頭も使って、全体で有効なまとまりのある仕事ができるようになってほしい。(40代・技術系)
- 出勤不可能、可能の基準がない。市外でも歩いて出勤したものと休んだ者と同じ扱いはおかしい。(40代・看護系)
- 災害時までたてわり行政はおかしい。各職種にあった仕事をするべき。(30代・看護系)
- 災害時における役割は、部局で担当業務があらかじめ決まっているのは良いけれど、もっと柔軟に！ 職種を大事に業務に割り振ってほしいと思う。建築屋さんが食料供給の物資運びをする。医療職が関係ない業務にあたる。そんなバカな話があるのか！はずかしくて外には言えない……(30代・看護系)
- 自分の身一つなら当日からでも職場に出たと思う。まして何日も休まなかったと思うが、あのときは同じマンションの友人で亡くなったり、家族がはなれること、子供とはなれることが恐ろしくてどうしてもできなかった。余震があったら、と思うとどうしてもできなかった。保育所が長い間閉所していたり、実家が全壊したり、避難勧告がでたり・・・と自分の家は住めてもまさに必死だった。公務員としてのつとめはでき

なかったが、自分にとってあのときは先が何一つ見えない感じで被災者でも一人一人状況が違われ、全半壊・一部損壊とあって被災の程度を一言ではあらわせないと思う。(30代・保母)

- いろいろ勉強になりました。(50代・調理員)
- 公務員であっても被災者であり、家族の安全確認がなければ、安心して十分な勤務態勢には入れない。(特に女性の場合はそう思います)(40代・調理員)
- 学生をボランティア活動によって見直した。(20代・調理員)
- ガス・水道など地下にあるものの修理が大変なものと同様に、各地の皆様ありがとうございました。市幹部はもっと上手に部下を使う事を検討してほしい、一部の人に負担がかかりすぎないように、市営住宅の補修は外壁だけで内部まではほらない。(40代・調理員)
- 病院勤務ですが、ボランティア(医療者)の人が来てくれたのに、水くみ等医療技術者でなくても出来るような事ばかりしてもらっていた。他の病院のように、被害の大きかった医療者を休ませ、ボランティアの人に代わりに働いてもらうなどした方が良かった。ボランティアに来た人もあきれていた様子だった。(20代・看護系)
- マニュアルを作って災害時に対してすぐ対処できるようにしてほしい。(40代・看護系)
- 震災当日休みだったし、家の事子供の事が心配で出勤しなかった。翌日勤務して病院が大変だった事を知り(自宅近くは被害が少なくニュースも神戸の事ばかりだったので)出勤すべきだっ



たと反省し、そのことがいつまでも心の傷として残りました。(40代・看護系)

- ボランティアのNSの人達がいらしていたのに、水汲みばかりお願いしていたようです。(上司が)しかしNSの中には全壊した人もいて、それでも通常勤務をしなければならないのは辛いことだと思う。いくら公務員だとはいえ、臨機応変にできたら・・・と思いました。(20代・看護系)
- 当日は早出(7:30)だったので主人に車で送ってもらった。家より他がひどいと、知らずに出たところ道が寸断、高速落下、ガス漏れ、橋が通れないなどでぐるぐる迂回していつもの倍位かかって(15分のところ30分)ついた。その日から1ヶ月程は主人(支所)も泊り、私も1時間半の徒歩通勤で大変な生活だった。その中で役所の仕事(オーバーワーク)と、自分の体(過労死の心配をするほどの)とのかねあいとれず、公務員であり自分達も被災者という時点で住民に尽くすことと、自分のことも大切にするということとははざまでもとても悩みました。(50代・保母)
- 被災しながら公務についたものにとって大変な苦労があったと思います。心身共に疲れたことが長く尾をひかないようその努力を認めると共にケアも必要だと思います。誰もが混乱の中でこの経験を(+)にして生きていかななくてははいけませんね。(40代・保母)
- 恐ろしい体験でした。震災後も、正確な情報がわからず、不安になったり、動きが取れない事

が多くありました。この体験を下に今後の災害に強い町づくり、体系づくりをしていってほしいです。(30代・保母)

- 被災証明の受け付けをしたが、市民からの質問に対して、答える事ができず、そのつど、担当者にかきについて時間がかかった。また、人によって対応が違う。マニュアルをつくる、担当者をはっきりさせるなどの配慮が必要だったと思う。(20代・保母)
- 地震は地域住民すべてにふりかかった災難だが、その被害は弱者の上により深刻にあらわれる。(30代・保母)
- 育休中でしたので仕事には出ていませんでした。(20代・事務系)
- 命令系統をはっきりさせ動きがスムーズにできるようにしてほしい。(40代・医療技術系)
- 指示命令系が機能しなかった。管理職が市街地に住んでなくて出勤してない、混乱している状態では全てが把握出来ず。応援の受入れも初めてで対応におわれっぱなし。職員の食事・休息の確保もしてほしい。(40代・看護系)
- 自分の家が全壊したが、皆、無事だったし、職場も大丈夫だったので、元気で働ける事に感謝している。病院に運びこまれた方の殆どが亡くなられている事を(110名余り)思うと、人の命のはかなさをしみじみ思い、残された家族の心が痛いようにわかり価値観が変わった。(50代・看護系)
- だれでも自分自身がかわいいけど、だれかが他人のために働かなければいけない状況だった。



- 結局、公務員が働くしかないのではないだろうか。いざというときに、他人のために働ける人はすごい人だと感じた。(20代・看護系)
- ライフラインの復興を早くして欲しかった。ガス・水道が開始されてはじめて、人間らしい生活がおくれると実感した。(50代・看護系)
  - 震災によって指揮系統がバラバラだったので、非常事態のもろさが明らかになった。今回の経験をもとに、災害時の対策を考えてほしい。(20代・医療技術系)
  - 私は育休中だったため、子供を連れて実家に行っていました。主人はのこって復旧の方にかかわってきました。復旧をする方も被災者なのだから、それをわかって、政府ももっと応援をしてほしい。(物資も人も)と思いました。現状把握、把握とかいって行動がおそい、海外の援助をどうしてことわるのか。(30代・看護系)
  - 恐怖心があります。すごく、物音に敏感になり少しの揺れでも目が覚めます。本当に怖いものと思いました。もう、二度と起きて欲しくありません。身体もだけど、それ以上に精神的ストレスの方が大きいです。(20代・看護系)
  - アンケートをもっとはやく、わすれていることもある。(40代・看護系)
  - 勤務時間内に、地震が起こった時どのように行動すればよいか、分からない。今迄も余震が起こった事が何度もあったが、体が動かなかった。仕事中は、責任ある行動を取りたいと思うが、どうすれば良いか！(40代・看護系)
  - 震災で兵庫自治労連として一組合員に何をされ

たでしょうか。特に援助を受けたように思われませんが、現在組合費を取られています。家半壊ですが援助あってよいのでは。(40代・看護系)

- 今回のような災害に際しては、いつも何も思わなかったこと、自然に生活していたことの「もろさ」を強く感じた。(ライフラインの寸断等)指揮者が指導的な行動がとれず混乱した。職場の仲間の助け合いで励まされ、切り抜けることが出来たように思う。(50代・看護系)
- 非常時に対して、訓練をしておくこと、マニュアル作成、ライフラインの確保、最小限度の生活用品でよい。(50代・看護系)
- 地震発生後8時間以内が最も救命処置の必要者が多いことが判った。平素の自分の任務が即行動出来るよう(指示を待たず)認識すべきと思った。(50代・看護系)
- ボランティアの活動について市役所の対応システムが一般的にいう、お役所仕事のところがある。自分がやってみて思った。(40代・事務系)
- 地震の時、主人はすぐに職場に行き何日も帰って来ないことはわかっていました。私も市役所の事はとても気になりましたが、出勤できませんでした。家の事は私一人でしなければ行けませんでしたし家が倒壊し、怪我をしながらも必死で逃げて来た両親、父は足が不自由で、母は出血が止まりませんでした。子供は部屋に閉じ込められていた為、恐怖で震えていました。そんな人達を残して、出勤する事は、私にはでき

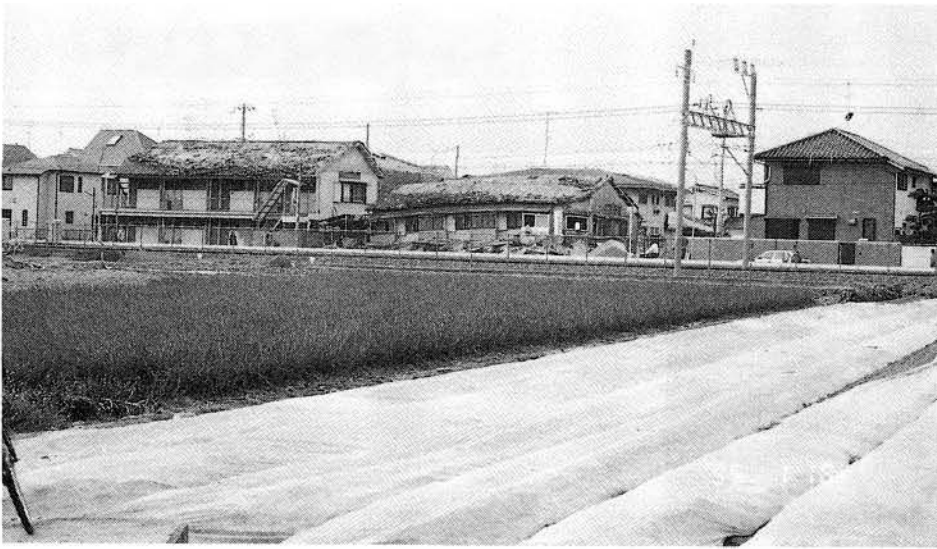


ませんでした。3日後遠方より弟が来てくれたので出勤しましたが、「市内に住んでいて来なかった」と遠回しに言われた時は、がっかりしたと同時に公務員の立場を考えさせられてしまいました。客観的にみて公務員として失格だったかもしれません。けれども、もし、また同じ事が起こったとしても、やはり私は傷ついた家族を置いては行けないと思います。(30代・事務系)

- 自宅待機職員であったのは考えられない。どこに人が必要か適切に判断して労使間約束は第一でないので人の配置を早急にすべき。きつい職場とそうでない職場がいつまでも続き対応されなかった。「全職員が、いち早く出勤すべき」の指導が足りない。(50代・看護系)
- この経験を生かして今後の震災対策に役立てて欲しいです。(20代・看護系)
- ・住居はやはり職場の近くがよい。交通関係(鉄道)が使えなかった職員がいる。・正規職員として採用すべき保障も含めて、勤務状態(労働条件)。・交代要員が必要。・指導体制確立(災害時)(40代・現業系)
- とにかくライフラインの早急な復旧を願うだけでした。幸い住むところはたいしたことがなかった。(30代・現業系)
- 市職員でもゴリおしをして一部から半壊にしてもらったとききました。(これはたしかです)振興会の見舞金で大きな差があるのに本当にムジンを感ずります。(30代・現業系)
- 震災グッズの整理、調達、避難場所の確認、避

難訓練等、日頃から身に付けておく事の大切さを痛感した。(50代・看護系)

- この震災で、指揮命令系統がはっきりせず、(これは日頃から感じていたが、よけいはっきりした。)大変精神的にもしんどい思いをした。災害後の本来業務が大はばに増えているのに態勢としてはととのえられず、一般職員がとくにしんどい思いをしている。私の職場では課長は年休を取れるが職員は休日出勤している。(20代・事務系)
- 家が全壊、希望を失った家族、特に年老いた父母をかかえていると、もう身動きが全くとれませんでした。父も落胆して「若いもんの足をひっぱるだけや」と肩を落とす。身内の家族のことばかりで公務員としての地域の人達の力になれなかった自分が本当に情けなく思いました。公務員にはなれないな、もう退職かな・・・ということも考えてしまいました。日がたつにつれ、復旧、復興にむかって私も出勤できるようになり、仕事もしていて良かったと思うこのごろ、組合に入っていて良かったとも感じています。いろいろアドバイスやお力をいただいて本当にありがとうございました。(30代・保母)
- 男性の職員は勤務が大変であった。(50代・調理員)
- ①職員自身も大きな被災を受けながらの公務のあり方。②指揮系統の弱さ。③長時間による公務による不調。④公平性に欠ける分担等今後の課題である。得るもの失うものともに大きかったように思います。(40代・保母)



- 実家が全壊。その為に力や手が必要。また高齢の祖母のため避難所での生活が無理。家を3ヶ月実家に提供しだんなの実家に住ませてもらった。今も実家は自力で再建中。何の保障もなし。同じ被災者でありながら矛盾を感じる。せめて敷地内にプレハブを建てた時など避難所にかかる一世帯の費用くらい保障してほしい。(20代・保母)
- そなえあればうれいなし。(50代・保母)
- この度の震災で、人の助けなくては、どんな事でも解決出来ない事も、人のおもいやりを学びました。(50代・現業系)
- 震災で家が半壊したため、親、おい、めい、友達の家族などが一時ひなんしてきた。ライフラインがたたれてとても不便だったために助け合いの気持ちをもつことが大事だと思った。おにぎりの炊き出しもしたけど今でも、大変だと思う。一日でも早くもとの生活に……。 (40代・調理員)
- 水、ガス、電気の大切さがよくわかりました。まさか、関西に地震がくるとは思いもつかずあらためて自然の恐ろしさを知り、六甲山のおかげで北部はたすかりました。(40代・調理員)
- ・貴重な体験をしたのだから犠牲になった人の死を無駄にしないため、市の機構に災害対策課をもうけ(あれば充実させる)常設する。発生すればすぐに全職員に指令できるようにする。職員の家族の安否は対策課でしようあくし、職員は安心して市民の救援にあたる。本庁、支所、学校、公民館を中心に、細やかな、災害救援地図を作る。よこのつながりをもっと深く災害につよいまちづくりの見本を作って助けて下さった全国の皆さんにお返しする。・仮設住宅は解体したさら地の上にたてたらいいのではないか。・今たっている仮設住宅使用後はどうするのですか。(50代・調理員)
- 市内に住む市職員は徒歩や自転車で簡単に通勤できるし、出勤せねばやむを得ないが、市外の職員は交通手段の途絶という理由だけで、1週間以上出勤しない者が3~4名居た。出勤していた職員の仕事も荷重であったし気持ち的に割り切れなかった。広域的に公務員は災害時働くようなシステムは作れないか。西宮市内に働く他市町村の職員は災害時居住地の役所に集合し働くようにしてもらいたい。(30代・看護系)
- 震災直後は仕事のことよりもどうしても家庭のことが第一になってしまった。就学前の子供がいたり家が全壊して避難所生活をしいられていたため特に出勤することが困難であった。男性の場合はそうでもないだろうが女性の場合はどうしても子どもや家族のことが先になってしまうのではないだろうか。(30代・保母)
- 現在の市役所の防災態勢は一応はあったけれど、それが即行動につながったとは言えないと思います。家族の被害調査や仮設住宅への入居資格の判定など、中途半端になって混乱してしまったことは、その業務が終了して、やれやれと忘れるのではなく、一番効率のよい方法はどうだったのかという事を検討し、マニュアル化しておくべきだと思います。(20代・技術系)



- ・予測しえない災害に対し、現場でのとまどいが多く、今後の対応策としてのあるていどマニュアルがある。・職場を守る、家族を守るの両方でどうしても職場を優先し職務を遂行せざるを得ず、公務員のつらさを痛感した。・ひと段落してから強い疲労におそわれ、肩こり、痛み、首がまわらぬ等体調をこわした。・一部損壊であまり被害なく幸いだったが、修理等随分かった。半壊・全壊からみてもう少し補助してほしい。(50代・保母)
- 市内の中でも大変な所と少しはゆとりのある所があったので(ライフラインはダメでも)しっかりした情報を流し、命令系統を一本にすると、もっと復旧に力を入れられたのではと思う。(40代・保母)
- 頭部の打撲の為、本来は職場にかけつけねばならないところ行けなかったが、電話が全然つながらず大変困ったので連絡体制が出来ているといいと思った。(50代・保母)
- みんなよくがんばったと思う。(50代・保母)
- 子供(幼児)がおり、保育所の再開が一週間後ということもあり、不安と仕事につけずにいら立ちがありました。(30代・現業系)
- 本来ならば、震災当日も勤務すべきであったが、家屋が全壊、家族のケガや介護のためしばらく出勤することができず、大変心苦しく思った。職場の方々には、いろいろと配慮していただき大変ありがたかった。今は、少しおちついてきたので又市民のために頑張りたいと思う。(20代・現業系)
- 防災計画がなりながらいざという時に役立っていない。(40代・事務系)
- 職員自身も被災しているのもっと労働条件を考慮すべきではないでしょうか。2日に1回のとまりはかなりきつかったと思います。(20代・事務系)
- 指揮命令系統がはっきりしない上、縄張り根性がきつい課長のため一時的な他部所への応援もゆるされず、自席にいるよういわれた。地震直後の2~3日はつらかった。水はこびぐらいなら出来たのに!出勤中のるす家庭が一番心配だった。(30代・事務系)
- 今回の緊急時に管理職以上の無能力さが暴露されたと思う。男の保身のために、下はふりまわされ、市民の要求に即時に答えることができない。「失敗」をおそれる男の本性がよく見えた。出世するためには「何もしないこと」と教育されたためであろうか。(40代・事務系)
- 子供を保育園に預けて、仕事しているので、その間に地震がきたらどうしようかと思う。(20代・調理員)
- 上からの指示と連絡の悪さに感心させられた。(30代・調理員)
- 家屋が全壊し、今後の生活の見通しがたたず、何度も市役所に足を運び、今後の方向(家屋の解体等)について尋ねたが、答えがクルクル変わったり、方向性が決まるのが遅くもどかしかった。2W休んで職場に戻ったが、今度は、被災者証明発行のお手伝いで、被災された方の対応にあたった行政の対応のまずさに、どなられっ



ばなし、苦情電話ばかりであった。本当に市民の立場にたった行政でないをつくづく思った。

(40代・医療技術系)

- 忙しい職場がかたまっていたように思う。保育所の保母さんなど子供もあまりいない状態で要請があれば行くのにとっている人もいる中で、わが職場は20名ぐらいの職員がローテーションくんで市役所の手伝いにいったが、保育所の保母さんなどは数も多いしローテーションしても一人一人の負担は少ないと思う。土日関係なしで泊りもあるという状態の中、子供もいて主人も夜おそくともつらかった。精神的にも肉体的にも限界までいったと思う一部の職場に要請を集中しないでほしい。(40代・医療技術系)
- 宝塚より地震後30分に家を出たが(歩いて)西宮市に来るにしたがって被災は大きかったがわかば園に到着するまで市の広報車に出会わなかったのが非常に心配した。安全確認の報道がなかった。その時はただちにメガホンなりとも安全確認に出るべきであると思う。考えは古いかなあ。私たちは公務員としての立場を学んだとき35年前にそういわれた。(50代・看護系)
- 地震直後よりも、その後の被災証明発行及び、市民の電話対応が大変でした。とにかくなれない仕事なので。(20代・保母)
- 同じ西宮市職員なのに、協力体制が全然できてなかったように思います。もう一度当局も実態を詳しく調べて体制作りをしたほうがいいと思います。職員の中で“自分たちの仕事じゃないから”と忙しい職場のコトを知らんふりしてい

る人達がたくさんいた。(20代・医療技術系)

- 公務員として震災関連の業務にあたるのは当然と思うが部署によって忙しいところとそうでないところと非常に差が大であった。もう少し偏りのないようにすべきである。(30代・医療技術系)
- 困った人がいたら助け合い、協力しながら生活をする人のあたたかさがわかり生きてるすばらしさが実感しました。(40代・調理員)
- 交通手段が不便になったことを理由に何週間も休んだ上司がいて許せなかった。しかも1月中は特休にしていた。平日休んでいるくせに休日にまとめて夜勤したりして特勤手当までかせいでいた。こういう時に、役立つために管理職というのはふだんはぼーっとしていても大目にみて大事にしてやっているのではないか。(30代・事務系)
- 人のやさしさ、あたたかさと、日常なんとも思わずにすごしている一つ一つのありがたさがよく分かりました。(40代・その他)
- お互いに助け合って頑張った事を感謝いたします。(50代・看護系)
- 心身ともに疲れている。休みの日でも休んでいる気がしない。(20代・事務系)
- 病院に給水車がこなかったことが疑問です。患者さんの救命に手配のところ水汲みを余儀なくしなければならなかった。(30代・看護系)
- 今回の震災で家族全員が、病院に避難しているが多く食物が不足していたと思う。自分自身の避難先の物資が早かったので炊き出しの方に病



院もいってもらよう依頼したら心よく受けてもらえたが病院へ連絡したら局長に断られた。こんな震災の中で責任どうのこうのと言う状態ではなかったと思う。せっかく炊き出しの人が心良く受けてくれたのに残念でした。(40代・看護系)

- 職場でかかわった時は、まず指揮系統をきっちりマニュアル化してほしい。病院では絶対に水不足にならない様な配慮が必要だと思いました。(50代・看護系)
- 懐中電灯、ラジオ、緊急物品物資の整理整頓。(50代・看護系)
- 勤めていて、組合に入っているおかげでいろいろと保障され助かりました。(40代・調理員)
- 震災後初めて出勤した時、職員に被災状況を聞けなかった時に西宮市からは助けてもらえないとはっきりした。(40代・事務系)
- 通常勤務に加え避難所勤務が交替である。女子も夜10時まで働いたり土日祝も出勤しなければならない。避難所を1日も早く廃止してほしい。(30代・事務系)
- 初めての経験でおそろしかった。頭の中がパニックをおこし何をどうして……自分で判断が出来なかった。1ヵ月位おどおどしておちつかず物忘れがひどく自信をうしない、まだまだこれからが大変もとどおりの平和な生活はいつくるのか？お正月に写した我が家のファミリースナップ写真が遠い昔の事のように、地震の日1月17日より15日前の日の様子改めて感じる予報なき天災のおそろしさ……。 (50代・調理員)
- 初めての出来事だったので、何することにも手がつけられなかった。毎日の生活がくるってきて普通にしているようでも身体に対する影響が大きく身体の動きや考える事の難しさを感じています。(50代・保母)
- 保育所では自分が勤務している保育所では必要に応じて保育体制を早くからとっていたが、保育所によっては受け入れない所もあったように聞く。そこらへんの各保育所の対応がまちまちだったことにギモンを感じる。(30代・保母)
- 突然の事と初めての経験で十分な動きができなかったと思うが保育所内では自分達にできることを精一杯してきたと思える。ほかの職場の人の様に勤務先外での応援は十分できていない。子供たちの安全が一番と思い勤めている。(40代・保母)
- 母であり一労働者であるが子供のことが気になり、家を留守にすることが大変不安であった。「みんなも来ているのであなたも来て下さい」と連絡をもらったが、仕事を持っているつらさをひしひしと感じた。(40代・保母)
- 男女平等条件で働いているのだから、女性も当然深夜業務すべき。「女性は8時で帰るように！」といわれたが、男性だけで、泊まりのローテーションを組んでいたのも、職場の方々が身体をこわすのでは……と心配した。こんな時まで「女だから」と特別扱いはおかしい。家で子供の面倒をみるのは当然女性という考えもおかしい。労働力は同じのはずだから、もっと女性を活用してほしい。もっともっと働きたかった。





- いったりしていたので……。 (30代・保母)
- 上司の指示が必要と思う。 (40代・調理員)
  - 震災後、勤務場所へ行くまで時間がかかり困った。 (30代・医療技術系)
  - Dr. が玄関にいて治療の要否を判断し、傷の消毒、人工マッサージ、副木などの指示で患者を移動させる。通勤出来ない医師は近くの医院や病院で医療に従事し、出勤と認める事。病院などOp. のない時期など外に出張し (ボランティア的に) 診療にあたること。患者はDr. の顔を見ただけでも安心感がもてるのではないのでしょうか。 (50代・医療技術系)
  - 今年の4月からの勤務のため震災直後の状況はあまりわかりませんが、今後の復興に少しでも役立てればよいと思います。 (20代・医療技術系)
  - 震災後の対応が何事も遅いと思う。人命救助第一だがその後の対応が悪い。どうしたらよいか等対応のマニュアルを考え直すべきだ。 (40代・保母)
  - 仕事の流れがもうひとつであった。保育所など子供が来なく、本庁に手伝いに行くべきかどうかまよいつつ毎日出勤していたのでよかったが疑問である。 (40代・保母)
  - 課からの指示がないと動けないところがあるが、その時の状態によってボランティア的な行動 (市民を守るために) をとれなかったのがとても残念に思います。 (30代・保母)
  - 保育所職場で当初子供が少ない一定の期間、他の職場で人手が足りない状態を見ていて何とか

したいが動けない。という思いをしたので応援体制の確立を今後の為に考えて行けたらと思う。

(40代・保母)

- 現在も両親も親類宅に身を寄せているとはいえ、心身の疲労が心配です。→現在の心配事。 (30代・保母)
- このような事は二度と起こってほしくないと思います。 (40代・調理員)
- 第一は水、この震災が夏だったらもっと病人がふえてたでしょう、水がなくて死ぬ人も! (40代・保母)
- 震災に備えての体制作りが必要。 (30代・事務系)
- 震災で学校に被災の方が多くおられた時、炊き出し等が業務としてでなく、あたりまえのような感じであたっていたがなぜか心のどこかに「当たり前や」と、思われている所が感じられたので少し嫌だったし苦しかった。 (30代・事務系)
- いろいろな経験を沢山させてもらったが、あの恐怖だけは二度と経験したくありません。 (40代・看護系)

